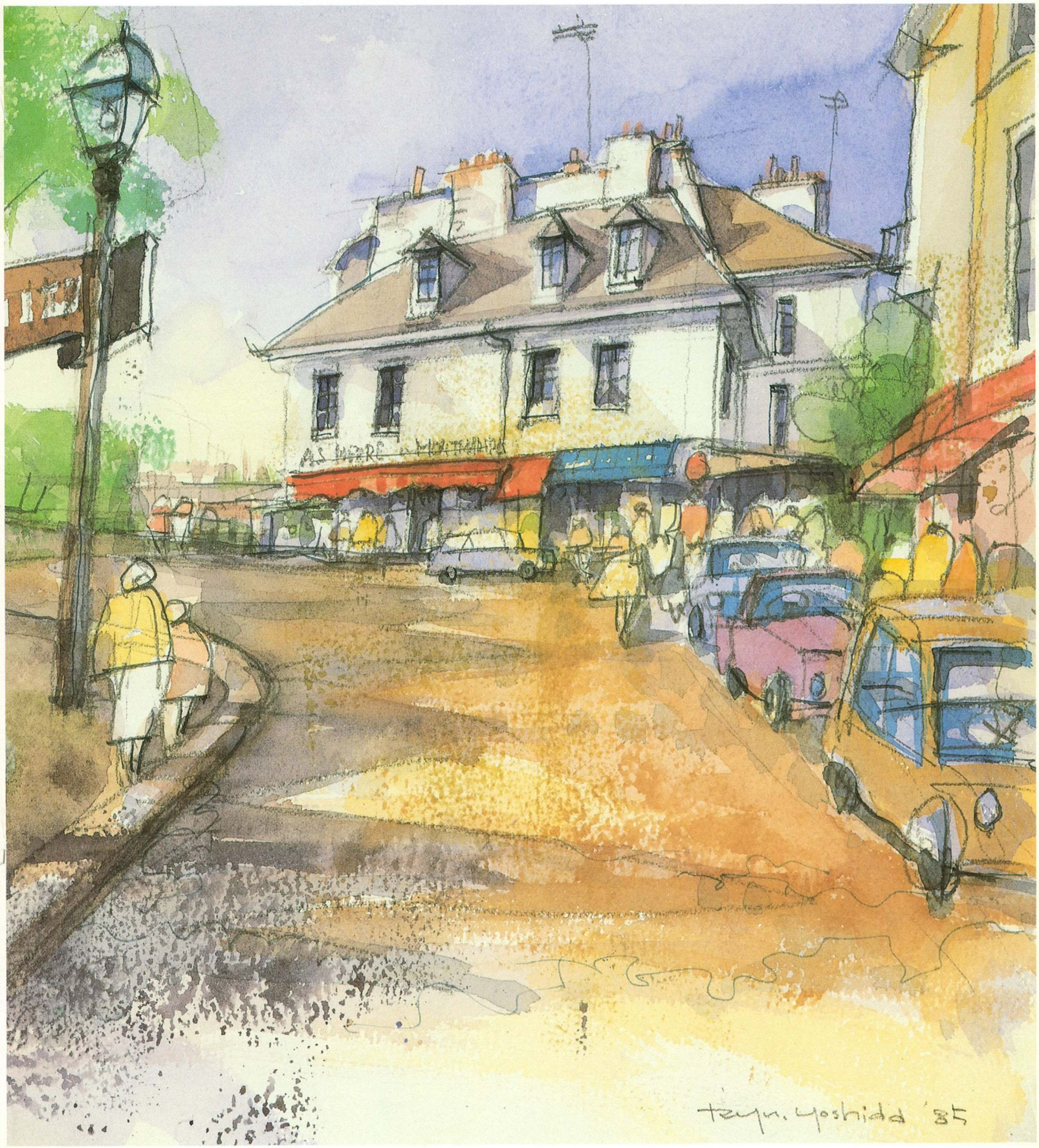
Vol. 67通巻776号
昭和61年11月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

建築と社会

ARCHITECTURE AND SOCIETY

1986 11

特集●第33回青年技術者



日本建築協会

Day by Day——きっといい明日

大阪ガス

福はうち、プリオール



お風呂、シャワー
サウナに暖冷房
みんなまとめて
暮らし極楽の
暖冷房・給湯システム

❶風呂・シャワー

プリオールの給湯機能は余裕の16号。お湯はりも短かく、シャワーも年間を通して楽しめます。さらに、風呂ヒーターで、追いだきも。

❷浴室換気乾燥機

浴室が洗たく物の乾燥室に早変り。雨の日でも夜でも安心して洗たくできます。

❸温水サウナ

低温の遠赤外線方式。わずかなスペース・維持費で、ホームサウナを実現します。

❹床暖房

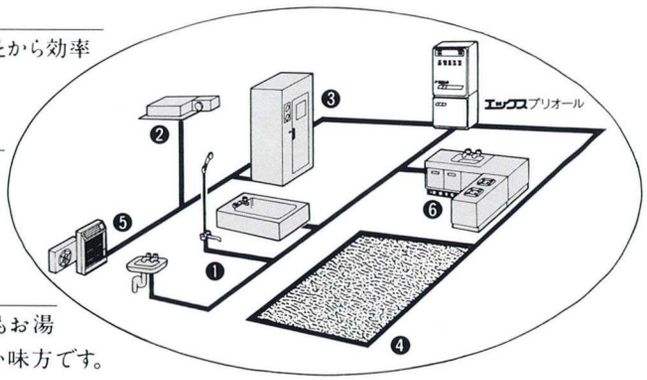
温水を利用したふく射熱で、足もとから効率よく部屋全体をあたためます。

❺冷暖房

空気の汚れない温水暖房ならではのマイルドな温風。もちろん夏は冷房もOK。

❻給湯

お台所はもちろん、洗面所などにもお湯がたっぷり。特に冬場にはうれしい味方です。



エックスプリオール
PRIOR

資料請求券

資料請求・お問い合わせは…〒541 大阪市東区平野町5-1大阪ガス営業部 エックスプリオール係まで TEL.06-202-2221

日本建築協会会告

第１回
日本建築協会賞
―日本建築協会創立70周年記念事業―



日本建築協会賞（要綱）

趣旨

本会の創立70周年を契機として、建築界における総合団体としての性格に基づき、建設に関わるあらゆる分野において社会に貢献した団体または個人に対して、その業績を讃えると共に、わが国文化の向上、公共の福祉に寄与することを目的とする。（作品を除く）

対象

本会会員を対象とするが、会員外であっても、その趣旨に基づくものであれば拒まない。

表彰

賞金の総額は300万円以内とし、入選は賞状並びに副賞として100万円、準入選は賞状並びに副賞として50万円を贈呈する。

選考

推薦のあったものの中から選考委員会で選考し、理事会の議を経て決定する。選考委員は学識、実務経験者をもって構成し、委員長は会長が委嘱する。

推薦

推薦は、関係官公庁、試験研究機関、関係各団体、および会員とする。

提出資料

推薦者は、審査資料となるものおよび候補者の経歴書等を提出する。提出資料は、原則として返却しない。ただし入選を除き昭和62年３月末までに要望があれば返却する。

提出期限

昭和62年１月31日

提出先

社団法人　日本建築協会

大阪市北区梅田１－１－３－2100　大阪駅前第３ビル21階 TEL. 06-348-0635

附則

この賞は、当分の間、５年ごとに３月に行う。

日本建築協会賞にすいせんのお願い

日本建築協会は大正６年３月、大阪において設立され、昭和62年には創立70周年を迎えることになりました。

この意義ある歳を記念して、〝日本建築協会賞〟を創設いたしました。この賞は、建設、設計、電気、管工、建材など、あらゆる分野において技術の向上、進歩、発達に貢献した業績に対して、その功績を讃え、広く顕彰するものであります（作品を除く）。該当業績がございましたら、ぜひご推薦下さいますようお願い申し上げます。

創立70周年記念事業

■記念式典、表彰式、講演会、祝賀会〈昭和62年３月30日(月)於・太閤園〉

■日本建築協会賞の創設■大正、昭和初期住宅作品の展示■「住まいの絵本」の編集、出版■「関西の昭和生まれの建築家」の出版■特別見学会■その他

◀会員の受賞

このたび、下記会員の方々がそれぞれ表彰を受けられましたので、ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

勲四等瑞宝章	中原　茂氏	（山出興産㈱）
勲五等双光旭日章	小川利光氏	（㈱小川建築事務所）
黄綬褒章	藤木鐵三氏	（㈱藤木工務店）
〃	富松助六氏	（㈱富松建築設計事務所）

◀〝解剖台上の私性群〟（再掲）
―建築家池上俊郎の5年間の仕事―
「カテゴリーを超えて」
「スケールを超えて」



本会ラウンジで毎年開催しています展覧会も今年で3回目となりました。今回は、「専門分野を問わないことを専門化してきた」とドムス誌に紹介された池上俊郎氏にご登場いただきます。

池上氏は、1/1～1/200,000のスケールのもの（家具・インテリア・建築・都市）を等価なものととらえて、ジャンルを超えたユニークな創作活動をしておられます。

この展覧会では、①形態を幾何学的な世界と不定形なカタストロフィーの組み合わせで構成する。②形態操作を通じて心理的風景を拡大し、物語性を場に構成していく。③デザインの恣意性を超えて特殊解であり、同時に一般解でもある社会的存在として成立させることという3つの軸をコンセプトとして創作された最近5カ年の作品が、建築を中心にして都市のモニュメントから日常的なスリッパまでをドローイング・模型・図面などで展示されます。

なお、展覧会初日には、池上氏のスライドを交えての講演会も予定しておりますので奮ってご参加下さい。

■展覧会「解剖台上の私性群」―建築家池上俊郎の5年間の仕事―

開催期間　1986年12月6日(土)→12月12日(金)
午前10時～午後7時（入場無料）
ただし、初日（6日）は午後5時まで。

会　場　日本建築協会・ラウンジ（大阪駅前第3ビル・21階）

■講演会「解剖台上の私性群」―スライド併用―

日　時　1986年12月6日(土)　開会18:30→閉会20:30

会　場　日本建築協会・ラウンジ

講　師　池上俊郎氏（㈱アーバンガウス研究所・池上俊郎建築事務所　代表）

定　員　40名

参加会費　会員800円・会員外1,000円（飲物代含む）

申　込　ハガキまたは電話にて、本会事業課へお申込み下さい。

◀'86建築関係団体合同忘年懇親会

関西建築界の恒例行事である忘年懇親会を、本年も下記のとおり開催することになりました。
多数の建築関係者が集い、親交を深めておりますので、何卒ご参加下さいますようご案内申し上げます。

日　時　昭和61年12月12日(金)　6時～7時30分

会　場　太閤園ダイヤモンドホール（ビュッフェ・スタイルのパーティ）
大阪市都島区網島町9－10　電話06（356）1111番
（京阪京橋駅より西へ徒歩10分・市バス東野田より徒歩5分）

会　費　8,000円（別に多額の補助があります）
ご面倒ですが会費を添えて申込期間中（11月17日～12月5日）に共催団体事務局までお越し下さるか、現金送金にてお願いします。（土曜休日）
申込者には忘年懇親会参加証をお渡しします。

定　員　400名

余　興　芸能人による《楽団・司会者》

福　引　会員有志の寄贈品進呈

お願い　(1)出席者名簿を作成しますので申込の際に氏名・勤務先をお知らせ下さい。
(2)申込者で12月5日までに欠席の連絡がない場合は会費のご負担を願います。
(3)当日は参加証で受付いたしますから必ずご持参願います。

共　催　日本建築協会・大阪府建築士会
大阪建築士事務所協会　大阪建築設計監理協会
日本建築家協会関西支部

協　賛　日本建築学会近畿支部・大阪建設業協会
日本建築材料協会・建築業協会関西支部

◀建築関係9団体合同新年交礼会

日時　昭和62年1月5日(月)　2時～3時

会場　大阪コクサイホテル8階宴会場（大阪市東区内本町）

会費　2,500円
（申込者で当日欠席されても会費をいただきます）

申込　12月12日までに会費を添えて最寄りの団体にお申込下さい。

新幹線
◀大阪～東京乗車券の割引販売

日本建築協会では、会員サービス事業の一環として上記乗車券を割安価格にて販売いたしますので、ぜひご利用下さい。

お申し込みは、社団法人日本建築協会総務課まで。なお、日曜日、土曜日、祝祭日は、本会の休日ですので、販売はいたしません。

大阪市北区梅田1丁目1番3－2100　大阪駅前第3ビル21階
電話06－348－0635

昭和61年9月1日より

	本会頒価	駅売価格
普通車往復	23,000円	26,200円
グリーン車往復	28,400円	36,000円

法令コーナー

編集委員会法令分科会

218

行政代執行の実例〈大阪市〉

建築基準法は、建物を建築する場合の技術基準に関する規定が大部分であり、建築物の維持保全については、唯一、第８条第１項[※1]に努力義務規定が設けられている。

建築基準法が制定されはや37年、法に基づき建築された建築物とともに、法を無視して建築された建築物も、老齢期を迎え、老朽化してきている。

ここに紹介する大阪市が行った代執行は、昭和41年に建築された軽量鉄骨造７階建の簡易宿泊所[※2]が、多額の負債をかかえた所有者の蒸発とともに、長期間放置され、腐食を原因とする柱・梁等の一部消滅や外壁の一部落下、さらには12～13ｍの高さから外壁モルタルが落下する危険があり、通行人や近隣住民の生命・財産を脅かす状態となったため、法第20条「構造耐力」に抵触する違反建築物として、行政代執行法第３条第３項[※3]の規定を適用し、いわゆる即時代執行を行ったものである。

違反建築物の概要

本建築物は、大阪市の南玄関である国鉄「天王寺」駅の西側約１kmの「愛隣地区」[※4]に所在し、通行人の多い道路に面し、周辺は簡易宿泊所が密集している。

(1) 違反建築物の概要

所有地　大阪市西成区萩之茶屋１丁目

構造規模　鉄骨造７階建

建築面積　約 38.6㎡

延べ面積　約171.9㎡

建築年月　昭和41年２月

(2) 違反建築物の権利関係

債権者

- 大阪府（府税滞納処分による差し押さえ）
- Ａ信用金庫（根抵当権設定）

——限度額4,000万円

——昭和57年11月競売手続き開始決定

競売手続き状況(大阪地方裁判所第14民事部調査)

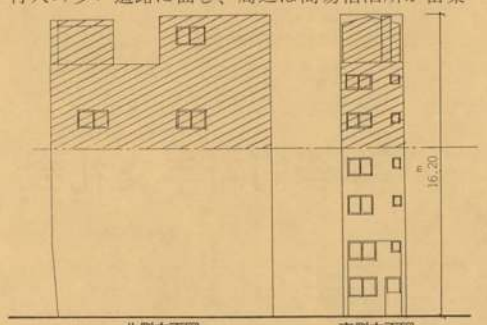
——最低売却価格1,187万円

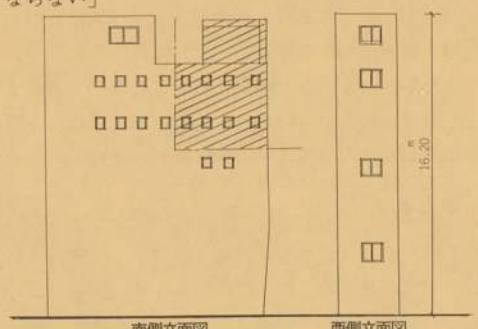
——現在、競落者なし

（期限入札３回、特別入札１回）

(3) 違反条項

建築基準法第20条第１項「建築物は、自重、積載荷重、積雪、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全な構造でなければならない」

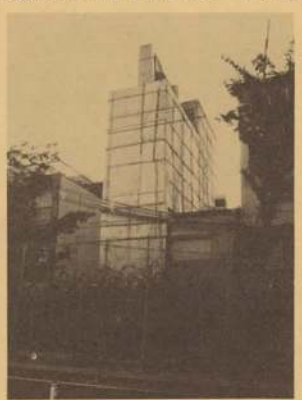




斜線部分の外壁を撤去しシートで養生した



当該簡易宿泊所

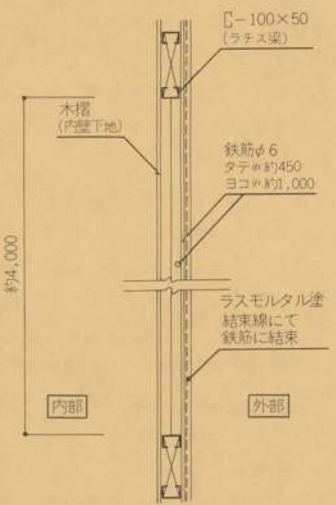


代執行完了





外壁モルタル落下の危険が……



外壁断面図

措置経過および措置概要(昭和60年)

4月10日	建物の外壁・庇の一部モルタルが道路上へ落下
4月11日	警察署が区役所へ今後の対策について協議
4月15日	区役所と合同調査、他の外壁部分も落下の恐れがあるので、ロープ等で危険区域に立ち入らないようにする。 施錠されていたので内部調査はできなかった。
4月17日	所有者へ建築基準法第9条第2項[※5]に基づく「違反建築物措置命令予告通知書」発送（転居先不明で返戻） 措置内容「外壁の危険な箇所を取り除くこと」
4月26日	所有者の居住地（東京都）が判明したので、「違反建築物措置命令予告通知書」発送（4月29日受理）
5月4日	建築基準法第９条第１項[※6]に基づく「違反建築物措置命令書」発送（受領拒否）
21日	
6月10日	６階外壁（モルタル塗）落下の危険が増大
6月19日	所有者に命令書を送達するため上京、所有者不在のため命令書を郵便受に投函し、写真撮影
6月26日	６階外壁（モルタル塗）落下の危険性が高まる。
6月27日	前所有者(所有者の実姉)、債権者に対し、外壁を除却するよう要望
6月30日	台風6号接近
7月1日	建築基準法第９条第13項に基づく公告
7月2日	警察立ち会いのもと、区役所・消防署と建物内部を調査 柱・梁・筋かい・外壁（胴縁鉄筋）が腐食により一部消滅し落下の危険性が急迫であることを確認
7月6日	行政代執行法第３条第１項および第２項[※3]の手続きを省略し、第３項を適用することを決定する。
7月8日	代執行工事委託業者（指名競争入札）について、契約担当局と打ち合わせ 所有者の自発的な是正を促すため東京へ出張したが、所有者と面談できず、電話で説得したが、所有者には是正の意思が認められなかった。 ７月17日～19日の３日間で代執行実施を決定
7月9日	関係機関へ協力要請
7月11日	隣接家屋関係者へ説明、一部駐車場代金・迷惑料等の請求があったが代執行の趣旨を説明し、協力方依頼する。
7月16日	所有者へ代執行の通知（電話）
7月17日	７月19日まで代執行
8月8日	代執行費用納付命令書交付 （納付期限８月17日）
8月20日	督促状交付（指定納付期限８月29日）
9月3日	代執行費用未納につき、不動産参加差し押さえおよび大阪地裁へ交付要求

代執行

(1) 代執行の範囲

軽量鉄骨造７階建の外壁（北・南・東面）の、剝離している部分の撤去および撤去後の養生

(2) 代執行の実施

代執行責任者を総合計画局建築指導部監察課長とし、３日間で大阪市職員延べ33名・工事請負業者延べ37名および代執行費用 197 万円を費やし、さまざまな問題を残しながら完了した。

代執行当日は、集合７時・出発７時15分・作業開始８時・作業終了17時で行ったが、２日目の午前中、隣家より苦情があり、工事を中断し、貴重な半日をロスした。

処分についての問題点

(1) 行政指導

本建築物の所有者は事業の失敗で所在不明となり、また、裁判所による任意競売の開始や滞納処分による差し押さえ等権利関係が複雑であった。

建築基準法第10条「保安上危険であり、又は衛生上有害である建築物に対する措置」は、既存不適格建築物を対象とする規定であり、したがって本建築物には同条を適用できず、同法第20条「構造耐力」を適用し対処することに踏み切った。

建物所有者が行方不明のため、関係機関の協力を得て居住地を探し、建築基準法第９条第２項に基づく通知書を郵送（配達証明）し、所有者は受け取ったが、同法第９条第１項に基づく命令書は２度にわたって受け取られなかった。命令書の送達にあたっては、所有者に手交すべく上京したが常時不在であり、郵便受けに投函し、状況を写真撮影したが、この行為により所有者が命令書を受領したことになるか、いつから効力を発するのかとの議論となり、法規担当とも協議し、所有者の居住を確認した日をもって受領したものと解釈した。

再度説得のため上京したが所有者と面談できず、電話のみの説得であり権利関係も複雑であるので、命令の送達・行政指導についても、相手側が無視した場合の限界を強く感じた。

また、戦後40年経過し老朽家屋・危険家屋が数多くあるなかで、所有者が行方不明の建物・所有者が確定できても行政指導等を無視された場合の対応が今後ますます困難となるのではと痛感するしだいである。

(2) 代執行

代執行を行うにあたり、建物内部に立ち入り調査を行ったが、その結果、柱・梁・外壁（胴縁鉄筋）が腐食により一部消滅した状況のなかで、代執行の範囲をどこまで行うかが大きな議論となった。全面解体が必要であると認めつつ、代執行の場所の状況、代執行にかかる時間等を検討して、外壁の危険な部分の排除に限定した。

地域住民の苦情等により本建物の代執行を行ったが、地域住民には本来所有者が行う義務があるものを、外壁の落下から通行人・隣接居住者・家屋の安全を確保するために、行政が代執行を行うとの説明を行い理解を得ていたが、いざ代執行を行うと、営業妨害等を主とした強い苦情があり、貴重な半日をロスした。今後は代執行を行うにあたっても、近隣居住者、近隣商店、事業者等から営業補償等の要求が出される可能性があることを肝に銘じなければならないと考える。

今回、代執行を実施するなかで、当初は行政代執行法第３条第１項および第２項の手続きを経て代執行を行いたいと考えていたが、外壁がいつ落下するのかわからないなかで、

① もし手続き中に落下し通行人・家屋等に危害を与えた場合の行政責任はどうなるのか。

② 行政代執行法第３条第１項の戒告手続に関する規定のなかで、「相当の履行期限」を定められるのか。

等の議論があり、同法第３項「危険切迫の場合」を適用して、代執行実施日まで外壁の一部が落下しないことを願いながら代執行の日を迎えたのが素直な感想である。

(3) 代執行費用

所有者が多額の負債をかかえて所在不明であり、また、当該建物（土地を含む）にも時価をこえる抵当権が設定されている状況では、代執行費用の回収はほとんど絶望的である。

したがって代執行費用の予算化にあたっては、財政主管局との十分な打ち合わせが必要である。

(4) 行政代執行法第３条第３項の適用に関連して

一部外壁の落下後、剝離がますます進行し全面落下の危険が切迫するなか、第３項を適用し、戒告手続等を省略したにもかかわらず、代執行にあたっては財政主管局との打ち合わせ、工事委託業者の決定・契約等にかなりの日数を要した。

いわゆる「即時強制」は建築基準法では認められず、危険切迫した状況のもとでこうした日数を費やすことは、現行法上已むを得ないとしても問題があると考えられる。

(5) その後の措置

代執行が終了した昭和60年７月20日、所有者に対し終了した旨連絡し、代執行に要した費用は近いうちに請求することを申し渡した。

８月８日に上京し、所有者に対し「１年以内に本建築物を除却すること」を内容とした、建築基準法第９条第２項に基づく通知書および代執行に要した費用の納付命令書（納付期限８月17日）を直接交付しようとしたが、拒否されたので郵便受けへ投函し、受領書をとった。

８月20日に再度上京し、「１年以内に本建築物を除却すること」を内容とした、建築基準法第９条第１項に基づく違反建築物措置命令書および代執行費用の督促状（納付期限８月29日）を直接交付しようとしたが、拒否されたので８月８日と同様の処置を行った。

さらに、本年６月３日に、違反建築物措置命令書の履行について催告し、７月22日に再催告を行ったが、命令の履行期限である８月20日を過ぎても除却されなかったため、９月17日付「違反建築物の除却について」により督促を行った。

まとめ

昭和41年に建築された軽量鉄骨造７階建の外壁の一部が落下し、さらにいつ落下するかもわからない状況のもとで、建築基準法第20条違反の建築物として建築基準法第９条第１項に基づく命令を行い、所有者に是正するよう説得を行ったが、所有者に資力がなく行政代執行を行った。しかしこれは当面の対策として行ったものである。代執行実施後「１年以内に本建築物を除却すること」を所有者に命じたが、除却されずに現在まだ放置されている。

現在、所有者に対して除却するよう説得を重ねているが、資力がなく除却しようという意思がない所有者を説得することは非常に困難である。所有者が放置している間は所有者の管理責任であることに間違いはないが、代執行後さらに１年以内に本建築物を除却するよう命令を行っており、所有者によってそれが履行されないで、万一事故が生じたときには、行政として社会的追求はまぬがれないものと思われる。しかし、所有者に資力はなく、債権者、根抵当権者が多数存在し、また、参加差し押さえ等を行ったが、代執行費用の徴収の期待ができない状態で、多くの労力と財政負担をかけることは、大きな問題を残すことになる。

※１ （維持保全）
第八条 建築物の所有者、管理者又は占有者は、その建築物の敷地、構造及び建築設備を常時適法な状態に維持するように努めなければならない。
２ 第十二条第一項に規定する建築物の所有者又は管理者は、その建築物の敷地、構造及び建築設備を常時適法な状態に維持するため、必要に応じ、その建築物の維持保全に関する準則又は計画を作成し、その他適切な措置を講じなければならない。この場合において、建設大臣は、当該準則又は計画の作成に関し必要な指針を定めることができる。

※２
簡易宿泊所（簡易宿所）
木賃宿、または旅人宿と呼ばれていたが、昭和23年の旅館業法施行後、下宿となり、さらには昭和32年同法の改正に伴い簡易宿所と名称変更が行われた。
簡易宿所は通称「ドヤ」と呼ばれ（宿を逆に読んだ隠語）、１人１畳～３畳の個室またはベッド式が多く、敷金なし、食事なし、寝具つきで部屋代は日払い500円～2,000円程度で利用されている。
「関西新空港」建設計画の発表等で建て替えが数多く、デラックス化してきている。（冷暖房完備）
簡易宿泊所　199棟（休業　７棟）

※３
第三条 前条の規定による処分（代執行）をなすには、相当の履行期限を定め、その期限までに履行がなされないときは、代執行をなすべき旨を、予め文書で戒告しなければならない。
② 義務者が、前項の戒告を受けて、指定の期限までにその義務を履行しないときは、当該行政庁は、代執行令書をもって、代執行をなすべき時期、代執行のために派遣する執行責任者の氏名及び代執行に要する費用の概算による見積額を義務者に通知する。
③ 非常の場合又は危険切迫の場合において、当該行為の急速な実施について緊急の必要があり、前二項に規定する手続をとる暇がないときは、その手続を経ないで代執行をすることができる。

※４
愛隣地区
この地区は、西日本を中心に全国から日雇い労働者が集まるわが国最大の日雇い労働者の街となっており、「関西新空港」の建設というビッグ・プロジェクトを前にして、労働福祉対策等をはじめ、環境整備浄化や治安対策にも大きな課題をかかえた地区である。
この地区環境は、経済成長の過程で形成されたものであり、その改善は昭和36年の一大暴動の後、国・大阪府・市をあげて労働・福祉対策を中心に各種の対策を推進してきたところであるが、いまだ解決に至っていない。
昨今、「愛隣地区」の環境は良くなったと評されているが、路上での酒盛りやごろ寝等がおこなわれている現状であり、本地区の環境改善は国際文化都市をめざす大阪市としての重要課題となっている。

地区面積	62ヘクタール
地区人口	23,083人（S60年国勢調査）
地区世帯数	17,424人（　〃　）
地区人口密度	12,429人/km²
地区男子/女子	360/100人

※５ （違反建築物に対する措置）
第九条 特定行政庁は、この法律又はこれに基く命令若しくは条例の規定に違反した建築物又は建築物の敷地については、当該建築物の建築主、当該建築物に関する工事の請負人（請負工事の下請人を含む。）若しくは現場管理者又は当該建築物若しくは建築物の敷地の所有者、管理者若しくは占有者に対して、当該工事の施工の停止を命じ、又は、相当の猶予期限をつけて、当該建築物の除却、移転、改築、増築、修繕、模様替、使用禁止、使用制限その他これらの規定に対する違反を是正するために必要な措置をとることを命ずることができる。
２ 特定行政庁は、前項の措置を命じようとする場合においては、あらかじめ、その措置を命じようとする者に対して、その命じようとする措置及びその事由を記載した通知書を交付しなければならない。

代執行はいろいろな問題を残しながら、事故もなく完了したが、虚しさ、あと味の悪さとともに、これからが大変だなあという思いがした。

*

末筆ながら、この代執行を実施するにあたって、関係機関のご協力をいただいたことにお礼を申し上げますとともに、この事例発表が少しでも建築行政に役立つものであれば望外の幸せです。

（大阪市総合計画局建築指導部監察課主査　藤森洋幸）

1917創刊
1986
第67集
建築と社会 © ARCHITECTURE AND SOCIETY
CONTENTS
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

表紙デザイン●吉田隆一
（東畑建築事務所）
モンマルトルの土産物店　観光バスで丘の上に上がると、おおむねこの附近で降ろされるようです。右手にテルトル広場、左はサクレクール聖堂、帰りにはユトリロのアトリエや有名なラパン・アジルを眺めながら丘を降ります。

11 通巻776

会告
法令コーナー218
作品作風
■特集予告
12月号／インテリア・イクステンションとリニューアル
12月号／腐食(予定)
1月号／入浴物語
2月号／貯蔵・保管施設
GALLERY
スケッチブック
この人
若い会員の集いレポート
投稿
書評
私が読んだ本
新建材紹介コーナー
GBRCニュース
建築の眼
特集
設計部門
構造部門
設備部門
施工部門
計画部門
その他部門
作品経歴
設備の頁145
構造の頁144
施工材料の頁144
月報
インフォメーション

会　長　佐野正一
副会長　足立　孝・市川　宏
　　松村雄二・薬袋公明
編集委員会（昭和61年度）
編集委員長
◎井上　滉
編集理事
井上　滉　金井　弘次　金多　潔　小島　雄　城口　庸平　竹中　錬一　武田　恭一　長谷部朔郎　松村　慶三　渡辺　忠
編集委員
（特集小委員会）
■計画分科会
奥村　礼子　川前　勉　河端　秀直　佐野　潤一　清水　肇　芝吹　千昭　田附　尚　★田中　直人　高田　佳子　平岡　博　藤田　治彦　北條　誠　舟橋　國男
■構造分科会
和泉　一義　★阪本　隆敏　田中　茂樹　高垣　利夫　谷　明勲　向井　久夫　安田　光世
■設備分科会
磯田　憲生　★遠藤　進　柿内　隆雄　河津　隆之　久須美高朗　田中　緒　中尾　信之　桑　學
■施工材料分科会
★荒木　弘之　更ヱ　實男　水口　譲　山下　仁志　山田　敏捷　横井　征夫
■法令分科会
★押川　兼宏　松田　洋三　南出　和延　中島富三郎
（作品作風小委員会）
荒川　朱美　浦山　哲　小椋　豊久　黒川　省二　小林　正純　高瀬　由康　○寺本　敏則　中山　隆　林　浩二　◇松村　孝治　水川　尚彦
（投稿欄小委員会）
浅野　貴志　赤井　富弘　伊藤　郁郎　北村　泰一　高田　光雄　塚口　明洋　永原　守　堀畑　裕一　○増渕　昌利　吉本　安邦
（広告企画小委員会）
池渕　俊男　筧　秀明　北村　潤　鳴田　聖二　中井　進　西牧　惠吉　原田　常介　広田　和正　◇藤田　孝吉　山下　修司　◇吉田　健次　○渡辺　忠
○編集委員長　○副委員長
◇副委員長代行　★幹事

編集人　松井昭光
印刷　昭和61年11月20日
発行　昭和61年11月25日
発行人　吉田悦二
発行所　（社）日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06—348—0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　日本写植印刷株式会社
電　06—606—1111(代)
大信印刷株式会社
電　06—451—7631
青葉印刷株式会社
電　06—351—5428(代)
定価　950円（送料共）

特集●第33回青年技術者

SPECIAL FEATURES ON YOUNG ENGINEERS & THEIR WORKS

第1回日本建築協会賞—創立70周年記念事業—．会員の受賞．'86建築関係団体合同忘年懇親会．
建築関係9団体合同新年交礼会．そのほか．——1
行政代執行の実例〈大阪市〉／藤森洋幸——3
徳島市庁舎——設計：山下設計大阪支社　監理：徳島市・山下設計大阪支社
施工：戸田・三井・佐藤・不動・岡田建設共同企業体（2期）——6
古賀町中央公民館——設計：石本建築事務所福岡支所　施工：淺沼組——10
日鉄ライフ堺ビル——設計監理：安井建築設計事務所
施工：戸田・新日鐵・東急・南海共同企業体——12
大阪産業大学本館——設計監理：広谷建築綜合事務所、高橋上田設計事務所
施工：大林組・大末建設共同企業体——14
堺聖テモテ教会　設計施工：竹中工務店——18
最近竣工した新建築（No.1981～1989）——20
國本喜之（川口・安治川地区活性化協議会設立準備委員会）／聞き手・吉本安邦——21
浪速短期大学の伊丹キャンパスを見る／池杉文昭——22
"棟梁に学ぶ家"を訪れて／土居英夫——23
古典の原理と方法—「建築講話」（E.E.ヴィオレ・ル・デュック 著）／前川道郎——24
明治・大正・昭和の心、日本とアジアの比較文化論、関西の知性と学問、の三つが主題／水谷頴介——25
「トーヨーアドブリック」（特殊目地デザイン工法積層仕上塗材）／高野道雄——26
第1、第2及び第3熱実験室改造——27
街頭パフォーマンスと市民のひろば／三村浩史．創造と心／本城博一．
まちを構成するもの／山本忠司．建築空間に"遊び"の奨め／大辻真喜夫——28

第33回青年技術者

北村　潤　吹田市文化会館．徳島県立三好病院．——30
中西　博隆　大阪市立東洋陶磁美術館．大阪城国際文化スポーツホール．
高知追手前高等学校芸術ホール．——31
茨木　保　瓦町錦江ビル．甲南大学新10号館．甲南大学六甲運動施設．——32
沼田　亘　総合病院水島協同病院．ワールド記念ホール．
総合病院松江生協病院．——33
矢野　茂　薬事日報社ビル．老人ホーム「光風苑」．
（KDD）大阪地区職員厚生施設．——34
平畑　正人　旅館清流．レデンプトリスチン西都修道院．
長崎信愛幼稚園遊戯棟．——35
山本　博　第一生命新大阪ビルの構造設計．賢島竹友荘の構造設計．——36
片山　淳一　クレームから標準化への道—技術チームでの活動———37
山田　祐三　大阪ターミナルビルの空調設備計画．——38
倉　良廣　新しいノンサポート工法—ハーフPC工法を中心に—．——39
中西　一吉　コンディスクレーンの開発と実用化．——40
金澤　成保　インダストリアルパーク計画（マレーシア）．——41
松島　清　六甲アイランド都市機能用地分譲事業計画．阿倍野地区第2種市街地再開発事業Aブロック基本計画——42
中川　佳久　耐震設計分野における一連のプログラム開発——43

不二建設創立40周年記念作品集——45
空調リニヤポンプ／小林一成——57
倉敷紡績本社ビルの構造設計／福本早苗——58
還元井戸（リチャージウエル）の施工例／山中　健——60
日本建築協会月間の動き（昭和61年9月分）——61
第4回京都市美観風致賞．——62

徳島市庁舎

設計　山下設計大阪支社
監理　徳島市・山下設計大阪支社
施工　戸田・三井・佐藤・不動・岡田建設共同企業体(2期)

空調設備　三建設備工業



議会棟



議場





配置図

東面全景

撮影　島 修一　稲住泰広(SS大阪)

施工（１期）　戸田・大林・熊谷・西松・竹中建設共同企業体



南面全景

新庁舎は、徳島市のシビックコアの中核施設として位置づけされており、近接して市民会館、青少年センター、中央公民館が集中的に配置されている。計画に際しては、これら既存施設との有機的な繋りを求めた。

①配置計画：敷地の北側に行政棟、南西側に議会棟、南東に市民広場を設けた。狭い敷地のなかでまとまりのあるオープンスペースを得るために、行政棟は高層化し、広場は人工地盤（GL＋1.5Ｍ）を採用して下部を半地下式の市民駐車場とした。Ｌ字型の配置の新庁舎と既存の施設の中央に広場を位置づけたことによって、都市施設群の有機的繋りが成長し、シビックコアの領域が形成されたと考える。

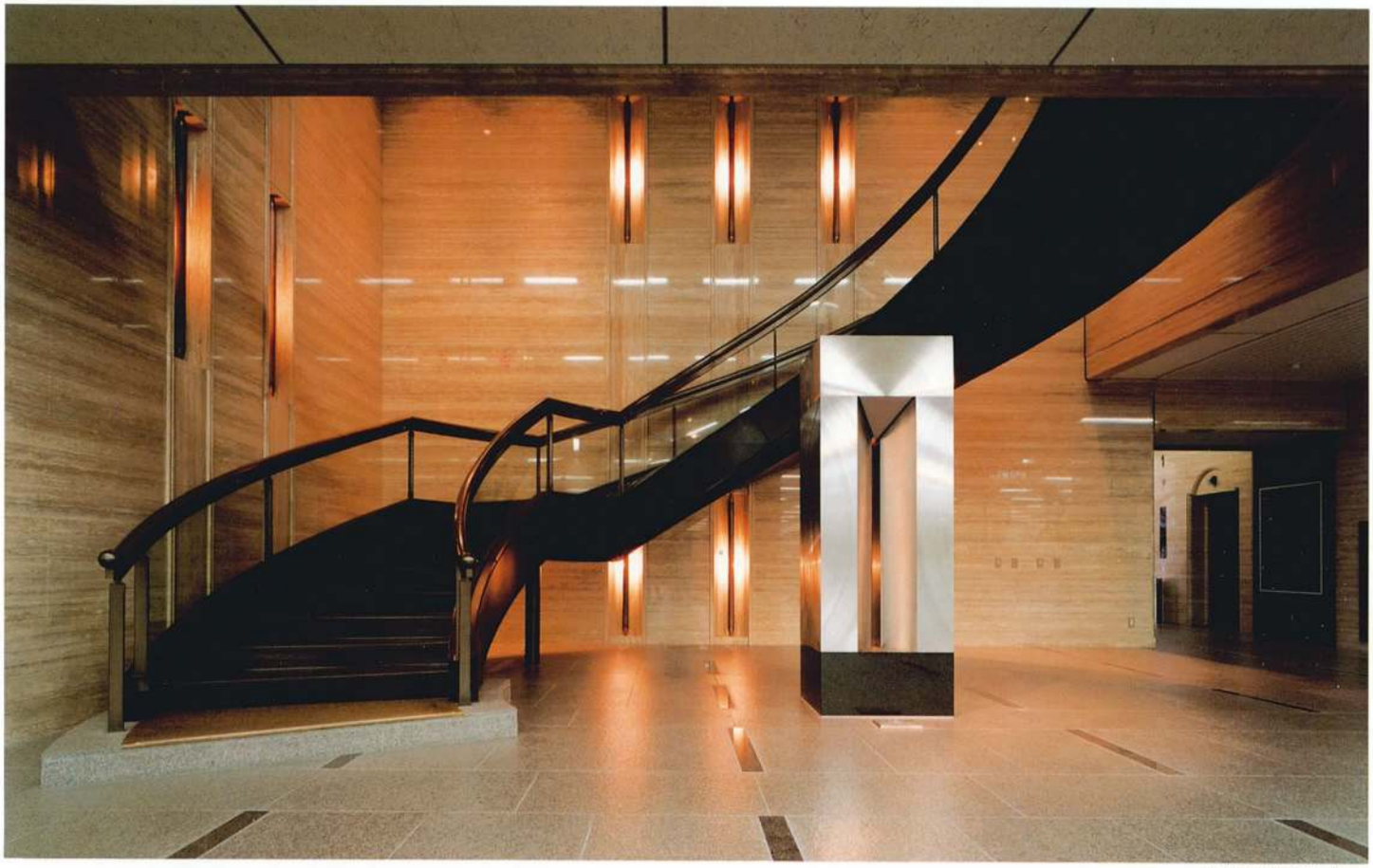
②外部構成：行政府は徳島市随一の高さとなるため都市景観上の検討を行い、建物の主軸を東は吉野川河口、西は眉山に設定した。敷地周囲は民家が隣接しているため、環境保全が強く求められ、日照、ビル風、電波障害、通風、威圧感等に対して多角的な検討をし、両サイドコアのコーナーを大きく隅切りした。また建物の保守、安全性、省エネルギーに効果の大きいバルコニーを用いて、45°の壁面とバルコニーを一体化したデザインによって徳島市の庁舎を表現した。行政棟に比べて低層でコンパクトな議会棟は、行政棟のモチーフを用いて整合性を保っている。また議会棟は行政棟南西面を塞ぐ位置にあることと、隣接民家、公園、市民広場の環境保全のため、議会部門（３階以上）を主軸に対し45°振った形で設計している。これにより議会の独立性を表現した。

③内部構成：行政府は地下が駐車場、機械室、１、２階が窓口部門、８階が執行部門、12階が福利厚生、13階は研修室、大会議室、その他はオープンカウターの事務室で構成され、事務室の基本モデュールは1,600となっている。設備系も3,200のピッチを基準とし、床下にはセルラーダクト、フロアーダクトを設け、OA事務室対応とした。議会棟は、地下は駐車場、１、２階は窓口部門、３、４、５階が議会部門で構成されている。

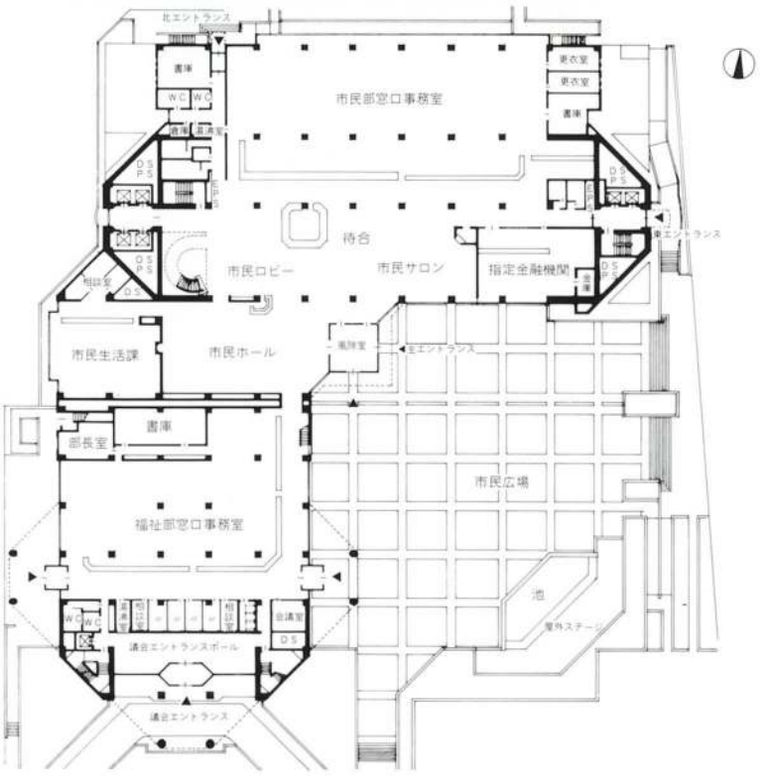
また新庁舎建設に際しては市庁舎の「文化化」が強く要求され、地元及び中央の芸術家が多く参加し、庁舎に潤いを与えてくれた。

（鈴木　繁／山下設計大阪支社）

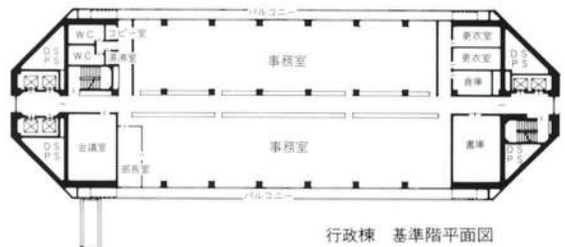
所 在 地　徳島市幸町2-5
敷地面積　12,708.0㎡
建築面積　7,418.9㎡
延床面積　38,750.0㎡
構造規模　行政棟　S、B2、14F
　　議会棟　SRC、B1、5F
工　　期　1期　昭和57年3月～昭和59年2月
　　2期　昭和59年6月～昭和60年12月
最 寄 駅　国鉄徳島駅



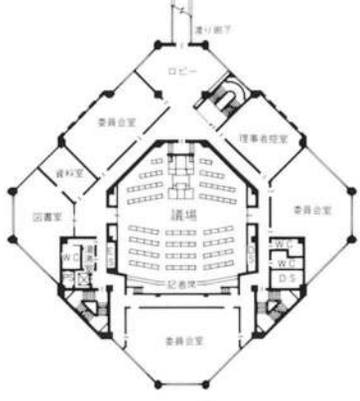
行政棟1階市民ロビー



1階平面図　1:1,000



行政棟　基準階平面図



議会棟　4階平面図

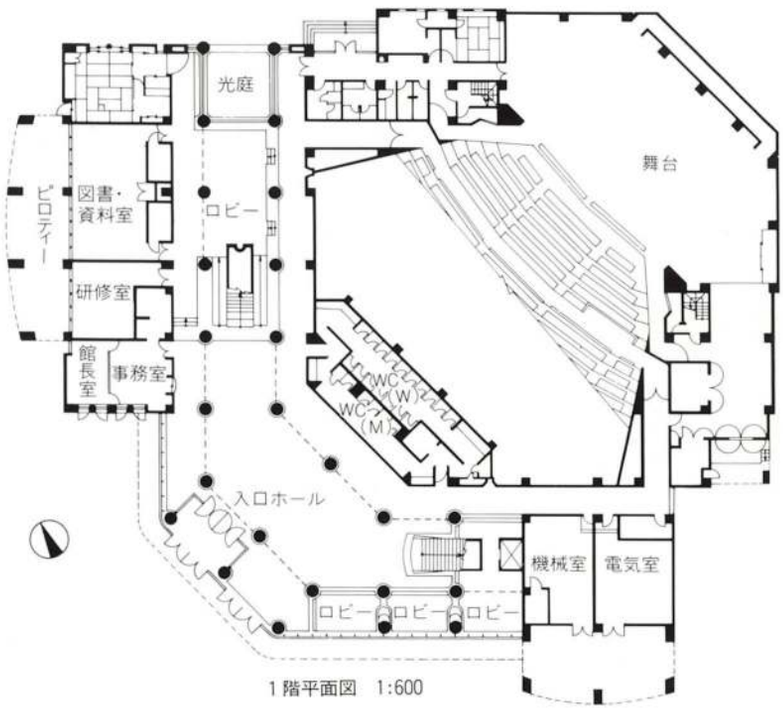
古賀町中央公民館

設　計　石本建築事務所福岡支所
施　工　淺沼組

所 在 地　福岡県粕屋郡古賀町久保866
敷地面積　32,839.21㎡
建築面積　2,516.28㎡
延床面積　3,243.91㎡
構造規模　RC、2F
工　　期　昭和59年9月～昭和60年10月
最 寄 駅　国鉄鹿児島本線古賀駅

空　　調　三建設備工業九州支店
舞台照明機構　龍電社福岡営業所
緞　　帳　清原織物

撮影　松岡秀貴（SS福岡）



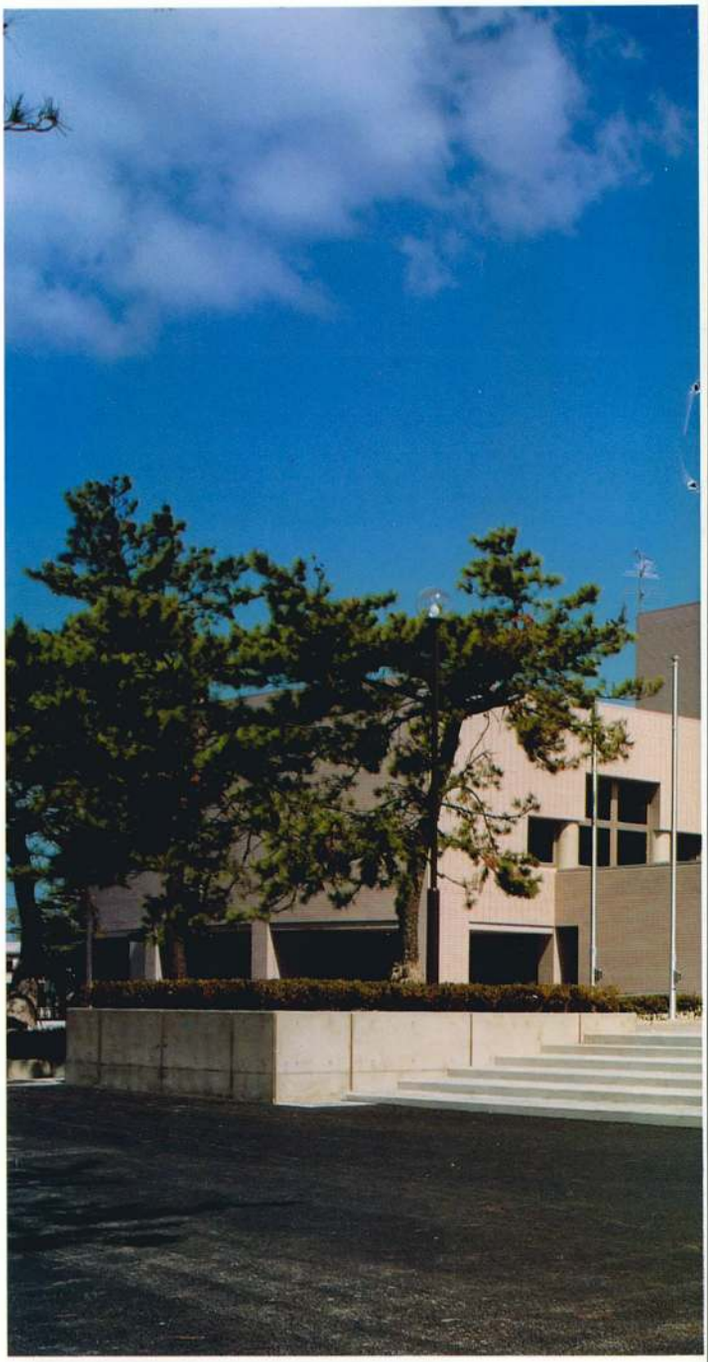
1階平面図　1:600

敷地は、福岡市近郊の古賀町にある3万㎡を超す運動公園で、旧公民館、武道館やグランドと共に松林が点在している。この平坦な中に建物は、800人ホールを中心に、扇状にホワイエ、入口ホール、諸室群が、除々にスケールダウンしながら、松林に溶け込んでいる。

外壁は、割肌状の淡いパープルピンクの特殊タイルで、割と殺風景な中に、優しい華やかさを与えている。低い庇で押さえられた入口とロビーは、外部とガラス1枚で隔てられているだけで、否応なしに外部空間が内部に貫入してくる。入口ホール、展示ロビーは、2層吹抜のボールト天井で繋がり、その端部は、彫刻のある光庭と屋外階段を視覚化したガラスから光がなだれ込む。トップライトと60φの吸音孔が空けられたこのコンクリート打放シ天井をバックに、黄と薄紫の町花であるコスモスをデフォルメした照明がリズミカルな彩りを与えている。この天井を、壁化したタイルが、それを更に900φの打放シと斫りの横縞の柱が支えている。この吹抜の中にかなりオープンな状態でおかれた二つの階段が、階高3mのホワイエとヒューマンなスケールで結び付けている。2階ホワイエは、パンチングメタル天井内のダクトを透かしてトップライトの光がほのかに感じられるだけで、ここに来て、ロビー、入口ホール、2階ホワイエと3段階の光のグラジュエーションが完成する。ホールは、傾斜した打放シの壁が、剝ぎ取られ、孔を穿たれ、あるいは凹まされ、有孔天然木ボードやらUFO型のプレコンやら翼状の反射板やらが嵌め込まれている。天井には、4枚の天然木ボードが、その周囲から光を放ちながら、角度を変えて浮かんでいる。そして、シルバーレッドの客席に座ると、自然に心がなごんでいく。

町から市へと成長していく古賀町民の心の潤いの場として、この公民館が、親しまれ、使い熟されることを願ってやまない。

（鍋田道雄、清水博正/石本建築事務所）




入口ホール



正面全景



800人ホール



2階ホワイエ

日鉄ライフ堺ビル

設計監理　安井建築設計事務所

施　　工　戸田・新日鐵・東急・南海共同企業体

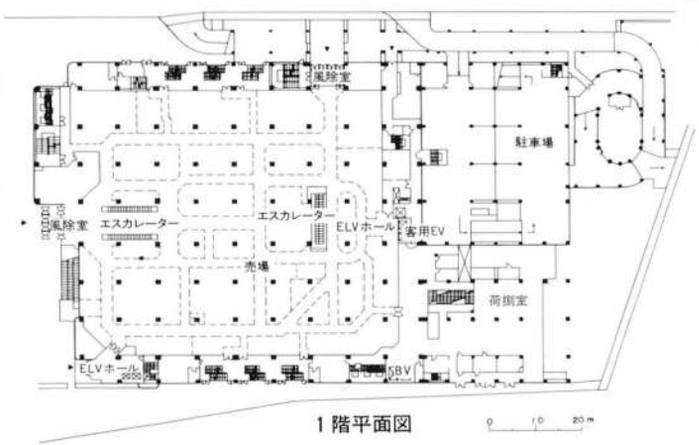
外装仕上　店 舗 棟　化粧型枠コンクリート打放し、吹付タイル
駐車場棟　軽量気泡コンクリート板、吹付タイル



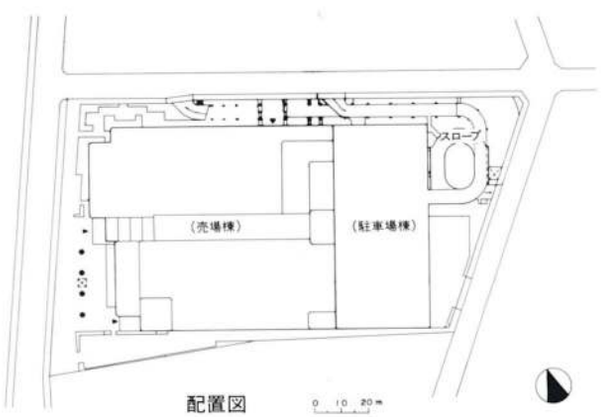
正面全景



玄関夜景



1階平面図　0　10　20m



配置図　0　10　20m

撮影　土井　豊　福本正明

所 在 地　大阪府堺市戒島町２－62
敷地面積　14,410.295㎡
建築面積　 9,766.894㎡
延床面積　53,588.111㎡
構造規模　店舗棟RC、B1、6F、P1　駐車場棟S（一部RC）、8F
工　　期　昭和60年３月～昭和61年８月
最 寄 駅　南海本線堺駅

日鉄ライフ堺ビルのキーテナントであるイトーヨーカ堂にとって、堺店は関西１号店であり今後関西での店舗展開を進めてゆく上で重要な基地となるものである。その重要な使命を持つビルの設計にあたり「流麗」というテーマ設定をした。量販店舗とは客と商品の流れの場であることと、新しい店舗づくりを目指すイトーヨーカ堂が関西１号店を歴史ある商人の町、堺に選定したことが、現在・過去・未来という時の流れを感じさせたからである。

このテーマを具現化したものが、外観では外壁コンクリート打放し面の水平ラインと正面中央のR付カーテンウォールであり、いずれも水の流れを表現した。特に４連の滝をイメージしたR付カーテンウォールは、雨の日に内部吹抜より水の流れを楽しむことができる。

建物内部での流れについての提案は、客の流れであり、１階から５階へ連続するエスカレーターを直列と折り返しの組み合せにより配置した５層にわたる大吹抜空間にある。正面玄関より入った客は、エスカレーターに乗り各階の商品をウインドーショッピングし、かつダイナミックな空間遊泳を楽しみながら自然と上階へ導かれる。一般的に目的買物のない客は上層階へ誘導しにくいものであるが、このエスカレーター空間はその解決策となっている。逆に目的買物がある客は、エスカレーターに乗ったままで各階の商品構成が一目でわかり目的の売場を容易に探し出すことができる。

この吹抜には先で述べたR付カーテンウォールより外光が取り入れてあり，人工照明だけの店舗に息ぬきの空間を構成すると共に、外部より建物内部が見えることにより一般歩行者を店内へ誘引する装置空間でもある。

また、この吹抜により各階の広すぎた売場が商品構成しやすい適正な広さとなった。これにより売場内客動線として二つの小回遊と吹抜内ブリッヂを使用する大回遊とが各階にでき、客は商品を見て歩きやすく、また各売場ごとの商品に合った自由な店舗デザインが可能となった。

（水上能秀／安井建築設計事務所）



エスカレーターホール



レストラン街



吹抜部通路

主な協力業者

杭・躯・土・鉄筋	合　建	大阪市北区万才町4-12浪速ビル　TEL06-314-2206	内　　装	朝日建商	八尾市山本町北3-6-7　TEL0729-99-5791
型　　枠	清水工務店	守口市寺内町2-7　TEL06-991-0523	装　　飾	岡村製作所八重洲営業所	東京都中央区日本橋1-1-5OP日本橋ビル　TEL03-272-6881
鉄　　骨	豊南製作所大阪営業所	大阪市淀川区宮原1-18-11　TEL06-395-7811	給排水衛生空調	第一工業大阪支店	大阪市北区西天満3-6-14　TEL06-364-6661
金属製建具・シャッター	東洋シャッター大阪支店	大阪市東区両替町1-12日生谷町ビル　TEL06-942-5851	電　　気	日鉄電設工業大阪支店	堺市緑町4-152(堺鉄鋼ビル内)　TEL0722-38-0841
金属製建具・アルミ	浪速建材工業	大阪市西区新町1-4-26　TEL06-533-3855	電　　気	岡野電気工事大阪支店	大阪市東区平野町3-13(フロンティアビル)　TEL06-203-6680
金属製建具・スチール	日本スピンドル製造建材事業部	茨木市東太田2-2-51　TEL0726-26-5761	エスカレーター	日立製作所関西支所	大阪市東区本町4-15-1　TEL06-261-1111
左　　官	島田工作所	神戸市兵庫区塚本通3-1-25　TEL078-575-5822	エレベーター	三菱電機関西支社	大阪市北区堂島2-2-2　TEL06-347-2276
塗装吹付	竹林塗装工業	大阪市淀川区新北野町1-12-2　TEL06-301-9281～5			

大阪産業大学本館

設計監理　広谷建築綜合事務所・高橋上田設計事務所設計共同企業体

施　　工　大林組・大末建設共同企業体



正面外観



妻側外観



キャンパス中庭より

撮影　滝田良彦(SS大阪)

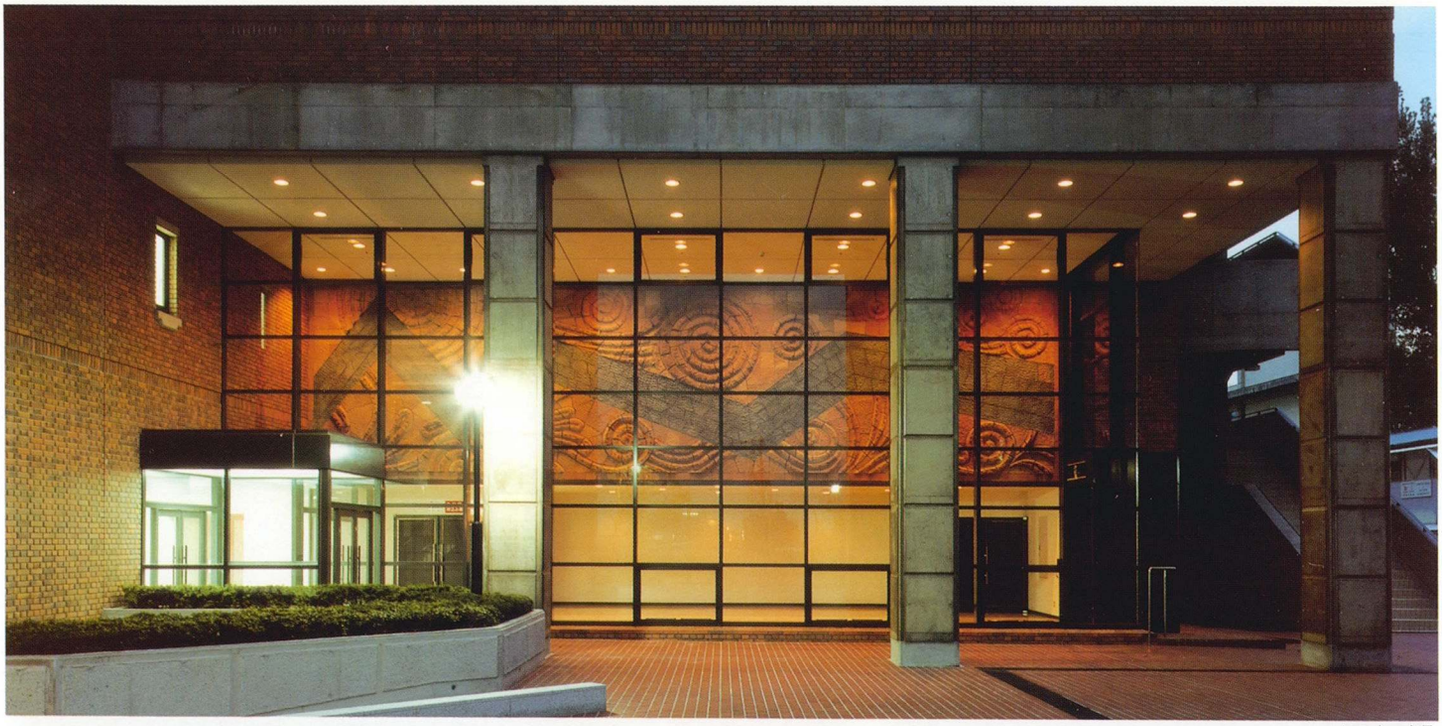
所 在 地　大阪府大東市中垣内4-1-1
敷地面積　42,153.64㎡（西部キャンパス）
建築面積　 3,342.59㎡
延床面積　18,236.58㎡
構造規模　SRC、PC、B1、10F、P2
工　　期　昭和59年12月～昭和61年８月
最 寄 駅　国鉄片町線野崎駅

大阪産業大学は、生駒山麓に位置し、大学創立20周年を迎え、又学園も創立60周年を迎えようとしている。
第１期キャンパス整備の集大成として計画された本館は、キャンパスの核であると共に学園の顔としての役割が期待された。
建物は、南北軸に配置され、中央に２層吹抜のピロティを設けることで、キャンパス内外の連続性を保つと共に、人車の分離を計った。
ピロティの前面には３層分の高さのメインゲートを置き、その両翼にはライオン像が置かれ、建学の精神である「偉大なる平凡人たれ」を象徴している。
ピロティの両側はサービス部門となっており、南側には展示スペース、喫茶、地階にサンクンガーデンと食堂、売店を設けた。
北側は学生窓口事務部門と 350 人収容の多目的ホールになっている。
３～５Ｆの中層部は教室(20室、1,700人収容)電算センター、研究室(43室)を設け、８～10Ｆの高層部は大学及び学園の管理部門となっている。
構造的には(財)日本建築総合試験所の構造審査を受け５Ｆから上部の無柱空間を21.3Mスパンの ＰＣ梁と３つのコアで確保した。
設備面では、中水道、ソーラーシステム（給湯)をとり入れ、防災計画は、建築センターの評定をうけた。
外観は、陰影を重視し、様々なデザイン要素の構成によって、重厚感と、個性、親しみやすさを表現した。
（広谷建築綜合事務所・高橋・上田設計事務所）

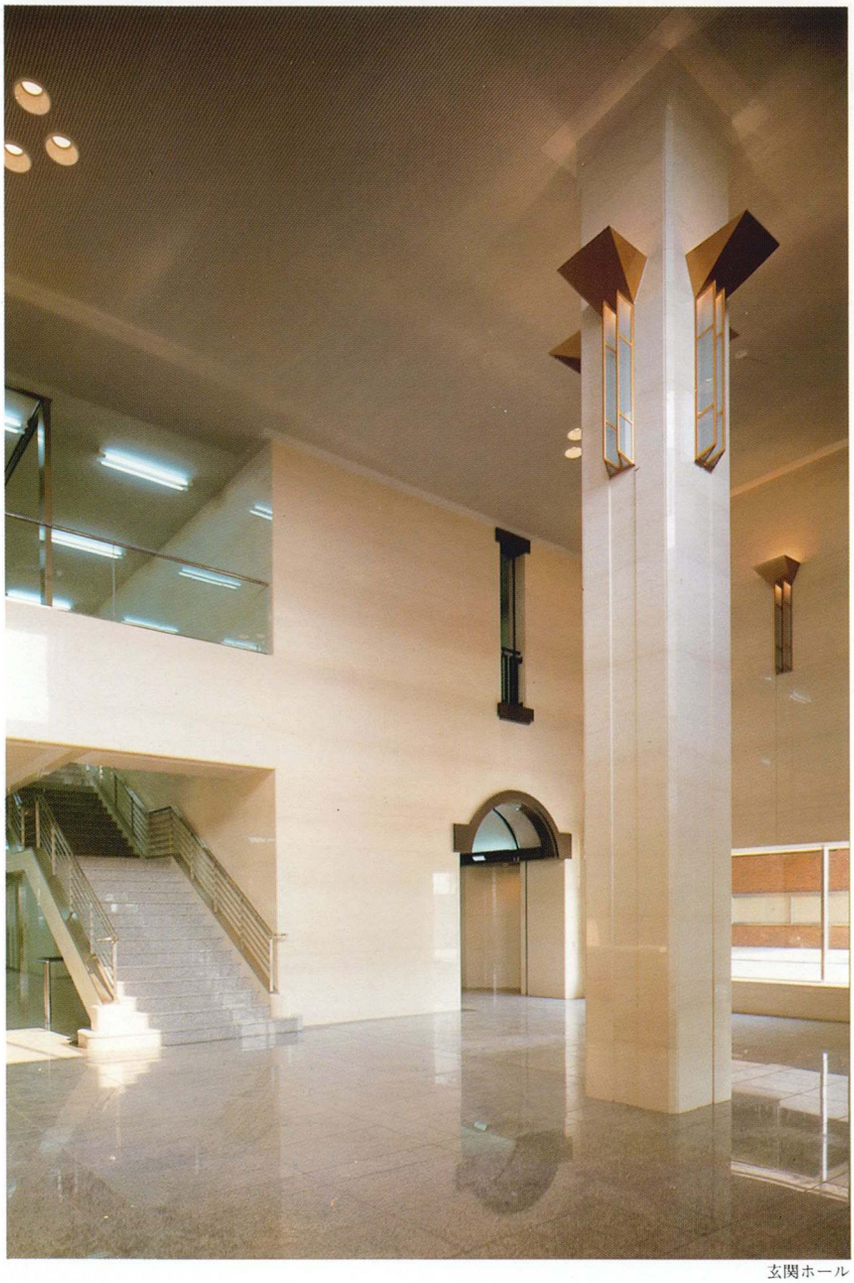

メインゲート


ライオン像

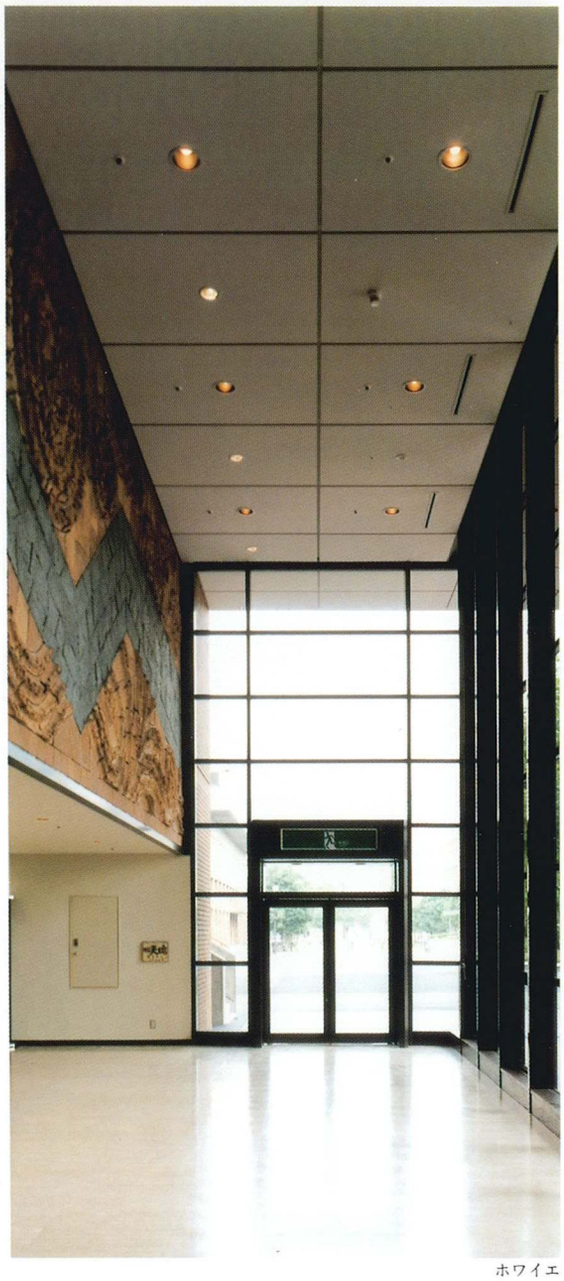

キャンパス全景



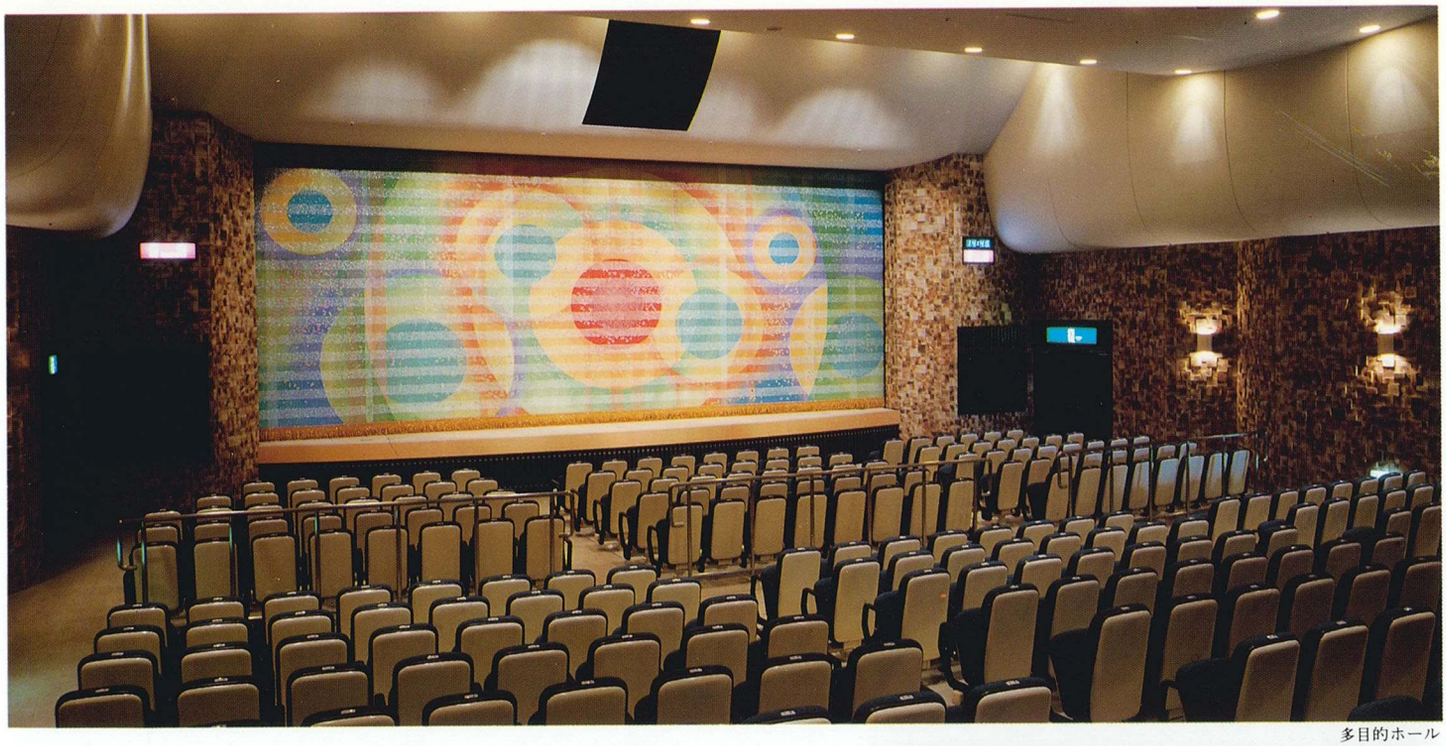
ホワイエ夜景



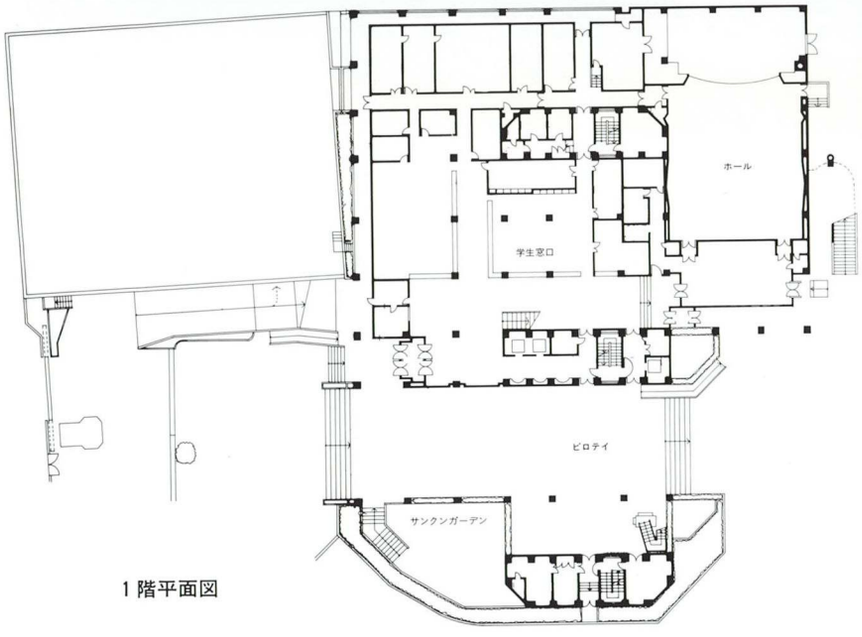
玄関ホール



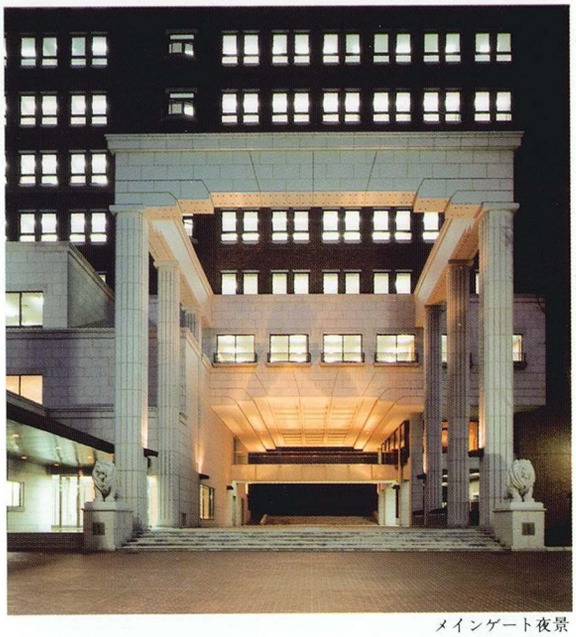
ホワイエ



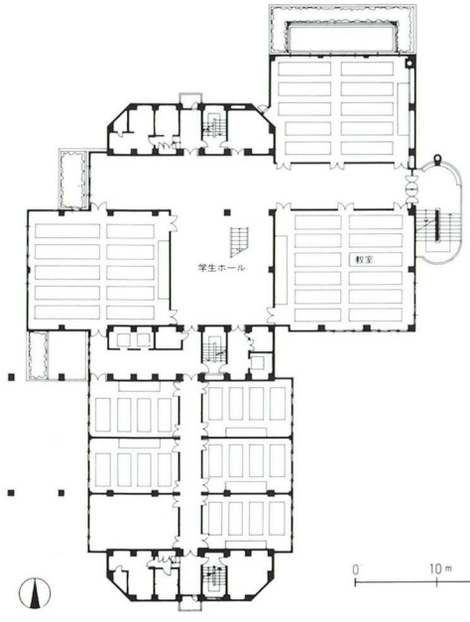
多目的ホール



1階平面図



メインゲート夜景



3階平面図



9階平面図



情報処理演習室

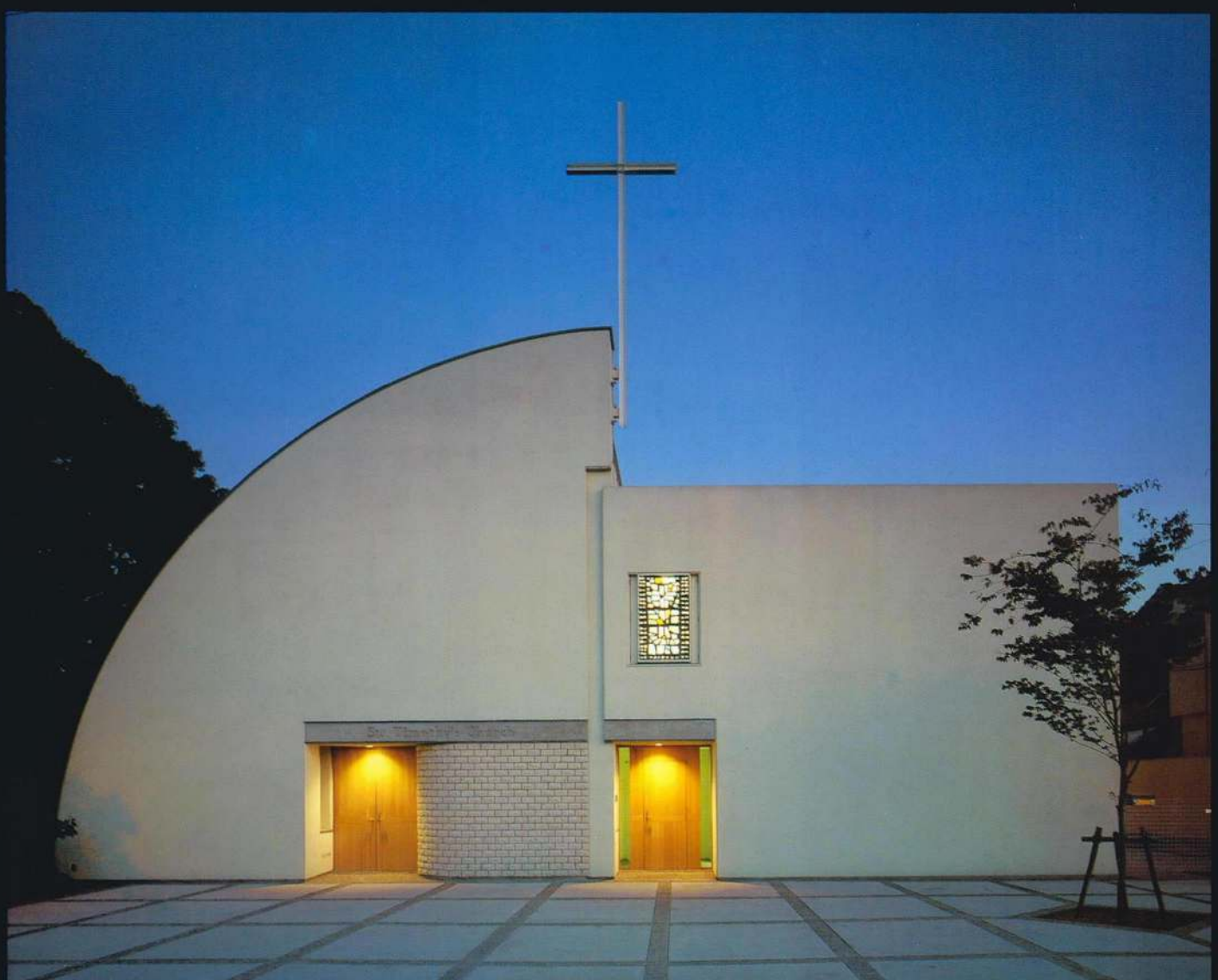


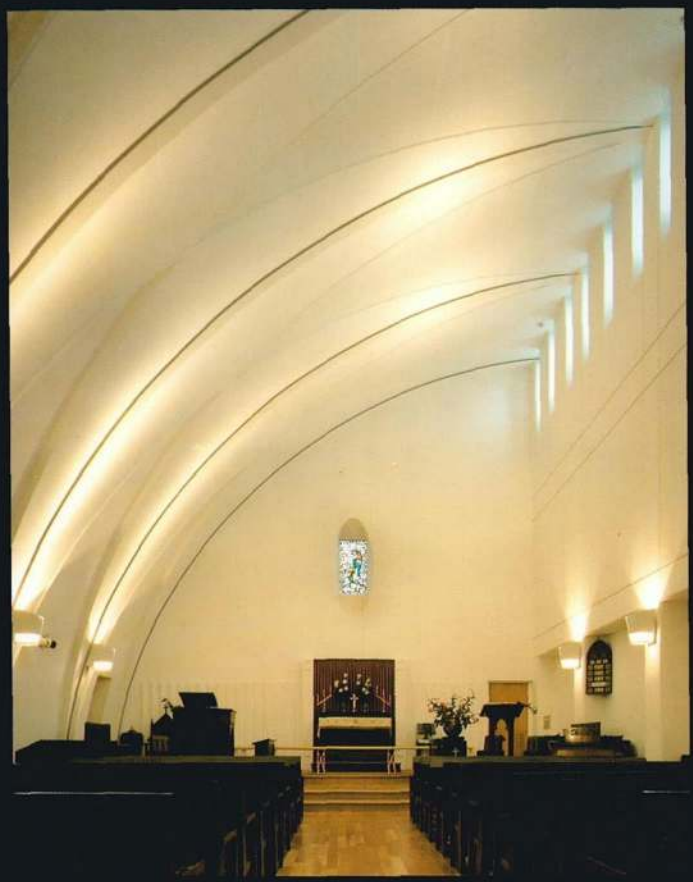
Gallery

まち・建築・ひと

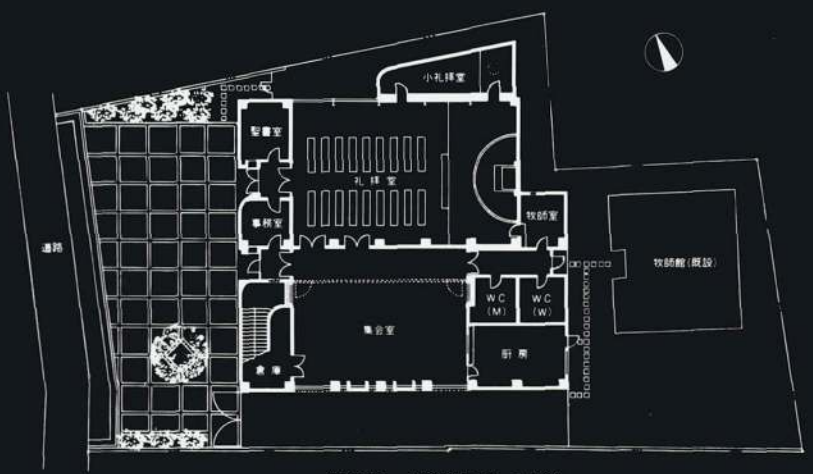


St. Timothy's Church

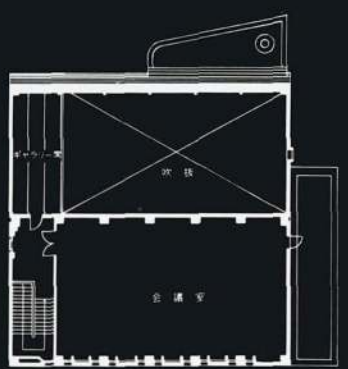








配置図・1階平面図　1:500



2階平面図

この教会は、堺市諏訪森の住宅地にあり、戦後の木造平屋建ての旧教会の建替えとして計画されたものである。信者達の長い寄付運動により建設にこぎつけたものであり、地域に根付いたコミュニティ・チャーチである。

礼拝堂は第一種住専地域のため、北側斜線を意識しつつ空間を確保し、自然光の効果を得るため、¼円ヴォールトの断面形としている。これは結果としては日本の教会では非常に珍しい、正面に向かって非対称な礼拝堂となっているが、南面上部からだけの光の効果は、季節、時刻とともに移ろい、大変効果的である。また夜間の礼拝に対しても、ヴォールトの足元からのアッパーライトが¼円をなめるように照らし、印象的な陰影をつけるよう配慮している。　（門川清行・長尾広子）

南海本線「諏訪森」で降りる。駅前から商店街を抜けて東へ向かう。少年時代にふと戻ったような錯覚をおぼえさせるような街並みがつづく。阪堺線を越え、北に折れる。気をつけていないと通りすぎてしまいそうな、そんな風に教会は建っている。幾何学的なファサードが、そのスケール感のゆえか、この街によくなじんでいる。

中に入ると思いの他明るい。親しみやすい空間が広がる。西日がステンドグラスの色を壁に落とす。全ての光がひかえめに教会内を包んでいる。かなりの難工事を経て¼円ヴォールトの礼拝堂ができたとのこと。集会室は日曜学校、主婦の集まりなどに使われている。積み上げられた箱・道具類は妙に生活感があっておもしろい。聖歌隊の歌声にあふれる時また訪れてみたい。　（林　浩二）

堺聖テモテ教会

設計施工　竹中工務店

所在地　堺市浜寺諏訪ノ森町東1－65－12
敷地面積　1,085.45㎡
建築面積　410.61㎡（既設牧師館 75.35㎡）
延床面積　618.21㎡（既設牧師館147.12㎡）
構造規模　ＲＣ（一部Ｓ）、２Ｆ
工　期　昭和60年７月～昭和60年12月

企画編集　作品作風小委員会　林　浩二
撮　影　納崎雄二　古川泰造

■写真と概要をどしどしお送り下さい。
凡例：a．所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延床面積　e．構造規模　f．工期　g．最寄駅



1981 静岡市用宗老人福祉センター

設　計：針谷建築事務所、田中謙次建築研究所
施　工：市川土木・第一建設JV
a．静岡市用宗5-21-10
b．3,867.10㎡
c．1,379.76㎡
d．2,058.47㎡
e．RC(一部SRC)、2F
f．昭和60年７月～昭和61年５月
g．国鉄東海道本線用宗駅



1982 入善町民会館

設　計：大江宏建築事務所、三四五建築研究所
施　工：佐藤工業・広川建設・吉原建設JV
a．富山県下新川郡入善町入膳3200
b．11,600㎡
c．3,993㎡
d．5,957㎡
e．RC(一部SRC)、B1、3F
f．昭和60年３月～昭和61年３月
g．国鉄北陸本線入善駅



1983 富士火災 守口ビル

設　計：久米建築事務所
施　工：清水建設・野村建設工業JV
a．大阪府守口市寺内町2-14
b．1,041.65㎡
c．713.85㎡
d．4,846.84㎡
e．SRC、B1、7F、P1
f．昭和60年２月～昭和61年２月
g．京阪電車守口市駅



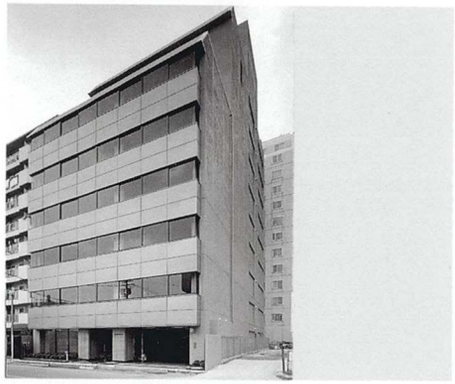
1984 山陽女学園第一寮

設　計：竹中工務店　広島支店
施　工：竹中工務店　広島支店
a．広島県佐伯郡廿日市町佐方本町1416他
b．5,807.78㎡
c．376.25㎡
d．1,629.65㎡
e．RC(一部S)、9F、P1(一部平家)
f．昭和60年６月～昭和61年３月
g．山陽本線廿日市駅



1985 学習院女子短期大学 互敬会館

設　計：前川国男建築設計事務所＋ミド同人 原田和雄
施　工：鹿島建設
a．東京都新宿区戸山3-20-1
b．66,007.33㎡
c．1,778.04㎡
d．4,016.42㎡
e．RC、B1、3F
f．昭和60年４月～昭和61年４月
g．国鉄山手線高田馬場駅



1986 丸信江坂ビル

設　計：大林組
施　工：大林組
a．吹田市江坂町12-10
b．562.00㎡
c．470.22㎡
d．3,912.50㎡
e．RC、9F、P1
f．昭和60年２月～昭和61年２月
g．北大阪急行江坂駅



1987 県立一志病院

設　計：三重県・東畑建築事務所
施　工：熊谷組・日本土建JV
a．三重県一志郡白山町大字南家城616
b．13,618㎡
c．3,435㎡
d．5,993㎡
e．RC、3F、P1
f．昭和59年11月～昭和61年３月
g．国鉄名松線南家城駅、近鉄大阪線榊原温泉口駅



1988 日本セメント大阪工場社宅

設　計：東畑建築事務所
施　工：奥村組・飛島建設JV
a．大阪市住之江区中加賀屋1-14
b．2,666.16㎡
c．1,531.45㎡
d．5,326.20㎡
e．RC、6F
f．昭和60年12月～昭和61年７月
g．地下鉄四ッ橋線玉出駅



1989 レインボーハイツ猪名川

設　計：大林組
施　工：大林組
a．兵庫県川辺郡猪名川町伏見台1-1
b．4,912.23㎡
c．1,979.80㎡
d．9,816.70㎡
e．RC、９・６・3F、3棟
f．昭和60年４月～昭和61年５月
g．能勢電鉄日生中央駅

この人　國本喜之（川口・安治川委員会）

聞き手　吉本安邦（清水建設）

大阪のソーホーを目指して

「川口・安治川異人町※」という構想がある。古くなった倉庫群を工房やアトリエに利用し、新しい職人町にしようというものである。新聞や雑誌などで紹介されているので御存知の方も多いかもしれない。その構想の代表者が國本喜之さん（38歳、川口・安治川地区活性化協議会設立準備委員会委員長）である。

我々編集スタッフは、國本さんを、その活動の中心地である安治川べりの古い倉庫の中にあるオフィスに訪ねた。昭和初期か大正の頃建てられたものだろうか。天井は4メートル近くある。天井の羽根車は取り外されてはいるが、レトロの薫りが滞っており、そんな空間の中に現代感覚の家具が置かれている。

我々のために冷たい飲み物を運んで来てくれた國本さんに「この辺りを歩いてみて受けた卒直な印象ですけど」と前置きして、いささか不躾な質問をしてみた。「横浜や函館にあるようなレンガ造りの倉庫街をイメージして来ましたが、ここにあるのはほとんどがスレート張りの倉庫ばかり。このような構想にとって、少し魅力に欠けるように感じましたが……」と。それに対して國本さんから「新聞を見て、ここに来て、ガッカリして帰った人もいると聞いてますけど、僕らが基本的に考えているのは、この川口・安治川地区でこれから何ができるかということなんですわ。ハードは二の次や思うてます」と意外な程静かな口調で答えが返って来た。

川口・安治川地区をよくしたい

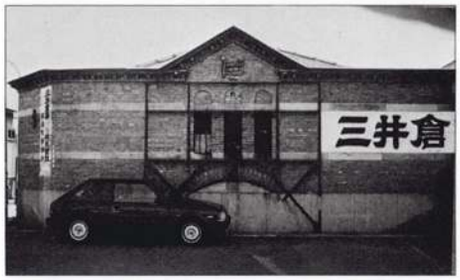
國本さんは昨年まで大手の広告会社に勤め、都市再開発などのマーケティングを担当するかたわら、「まわりの環境を良くしたい。大阪をもっと良くしたい」という気持ちから、個人的にもさまざまな町づくりの活動に参加して来た。

その彼が理想とするのは、下町の生活、特に幼い頃からの思い出のある木津川・安治川界隈の生活であり、以前からずっとこの辺りに住みたいと思い続けて来たそうである。また、仕事柄アーチストやクリエーター達とのつき合いが多く、彼らの日常活動についての欲求、つまり、「広くて、天井が高くて、深夜まで周囲に気障ねなく仕事ができて、しかも安い空間」への欲求を常々聞かされていた。そんな折、長年の念願がかなって引っ越して来た。「倉庫があって、川があって、下町の九条がある。ここなら全部ひっくるめて何かやれるかもしれない。いや、やれるはずや」そう思ったとたんに委員長1人、委員ゼロという状態で、準備委員会の旗上げをしてしまったという。



くにもと　よしゆき
1947年、大阪に生まれる。1975年、立命館大学産業社会学部卒業。同年、㈱住友クレジット・サービス入社。1979年、中之島まつり事務局長に就任。1980年、㈱大広に入社、マーケティング、都市再開発、コンベンションなどを担当。1985年、同社を退社後、川口・安治川委員会の活動に専念。1986年8月、リエゾンオフィスを設立、現在に至る。

リエゾン　オフィス
大阪市西区川口4－9－36　☎06－584－1348



川口・安治川地区では数少ないレンガ造りの三井倉庫。昭和初期に建てられたもの。現在は、テレビ・舞台の大道具制作会社「つむら工芸」が借用、使用中。

手書きのメモを持ってあちこち回り、いろんな人に「こんなことやりたいんや」と言って回ると、それがあっと言う間に口コミ的に拡がって行き、いつの間にか数十人の協力者を得て、昨年8月の『第1回拡充強化委員会』から同年10月の『安治川左岸を歩くツアー』今年7月の『報告書』の完成へと続き、9月には『大阪まちづくり最前線―ミーティング&ディスカッション』へと展開して来た。その間、この構想に専念できやすくするため、広告会社を退社、今年8月に「リエゾン　オフィス」を設立。生業（なりわい）は「リエゾン　オフィス」、川口・安治川委員会はボランティアとして活動中。現在、それらのイベントと平行して、受け入れ先である倉庫側との交渉を熱心に続けている。倉庫側の反応はさまざまで、遊休倉庫の安定利用を図れるとか、経営の多角化、あるいは一種の業態変換のチャンスかもしれないと好意的に捉えてくれるところもあれば、全く取り合ってくれないところもある。その中で共通している問題は、テナントとしての営業権や居住権の発生をどう扱うかということだそうだ。荷物の代わりに人間をという程簡単には行かないようである。

「ここ2～3年のうちには少くとも100人単位で仕事場を持っているような状況にしたいと思うてます」と國本さんは目を輝かす。貸りたい人はたくさんいるのだから、そんな問題を解決して貸す方さえ増えてくれば、実現に向けて大きく前進するはずである。

行政も動き始める

その一方、この活動を受けて、この場所を大阪全体の交通のネットワークの一拠点として、そして水の都大阪のウォーターフロント構想の一環として行政側も位置づけ始めて来た。

当時『歩くツアー』に参加して「何や、しょーもない倉庫が並んでるんやな」と言っていた人達も、今では「わりかしうまいこと行ってるやんか。これなら何とか行けるんやないか」と言い始めた。

大阪には他にも、若者によるまちづくりの構想が展開されている。『上本町・アーチストタウン構想』『扇町・ヤングタウン構想』『帝塚山・横文字の職業人街構想』などである。そういった他のグループとも互いに連絡を取り合いながら、また互いに競い合いながら「大阪をもっとおもろい町にして行きたい」と静かに語る國本さんを見ていると、我々編集スタッフもだんだんそんな気になってきた。

どうしてこれ程までに思い入れできるのかという再三の質問にも、ただ「性格なんでしょうね」と苦笑するだけの國本さんであったが、住民による町づくりを成功させるのは、そんな「性格」なのかもしれない、と私には思えた。

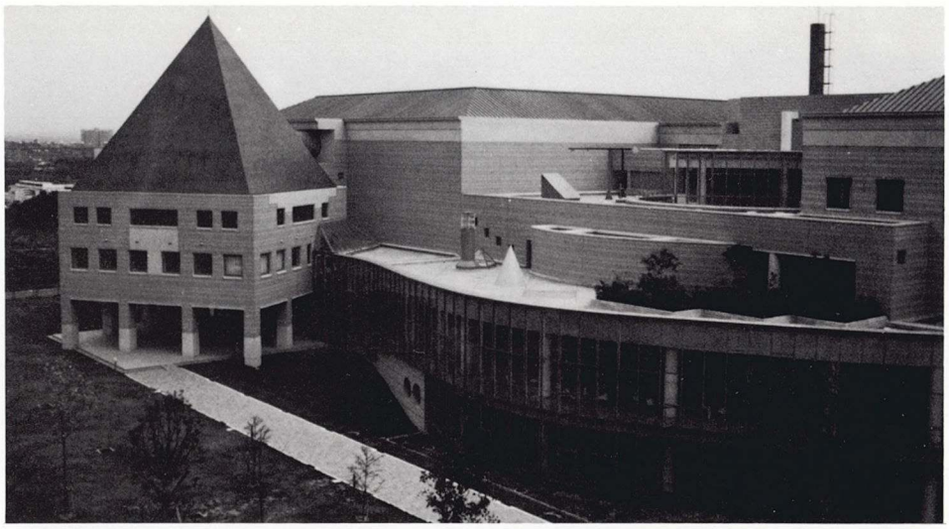
※(1)「川口・安治川異人町」はアルチザン（アーチストやクリエイター等）と外国人の二つの異人によって構成される。
(2)地域的には旧川口居留地を含む川口地区、旧雑居地も含む安治川（左岸）地区が、この異人町のエリアとなる。

昭和61年度・第１回若い会員の集い

キャンパスを訪ねて(3)

浪速短期大学の伊丹キャンパスを見る

レポート

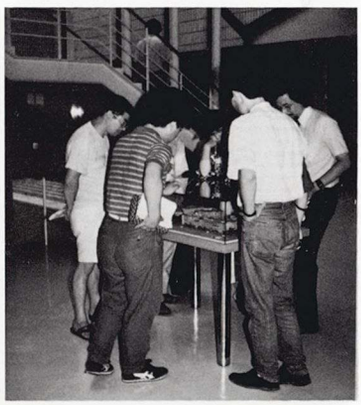


国鉄福知山線で宝塚から大阪へ向かう特急列車が一定のスピードに乗った頃、車窓の右側の田園の中に銅板葺きの屋根の建物群が見える。今回見学した浪速短期大学伊丹学舎である。昨今の京阪神地域で誕生している種々のキャンパスの代表的作品の一つとして見学会を企画したが、前月の雑誌「新建築」への掲載もあってか関心も高く、真夏の陽が照りつける猛暑にもかかわらず、40余名の参加者の中で催された。

キャンパスは伊丹と宝塚の市境界に位置する約30,000㎡の敷地の中に、３つのブロックから構成されている。南東側に講堂・体育館、展示ホール、大教室および管理部門を収容する本部棟、西側に中庭をはさんで南北に各学科の講義室や実習室のある講義棟、そして北東側はこのキャンパスの一つの特徴である〝思索の森〟である。ただし講義棟の中庭と南の棟は63年に増築される予定で、現在はない。両棟ともに屋根は銅板葺き、外壁は赤味のタイル貼、蛇腹と腰は石状吹付けで統一されている。

参加者は２組に分かれ、坂倉建築研究所の大久保氏と梅原氏のご案内で本部棟～講義棟の順で見学した。本部棟は形態・プランともにマッシヴであり、東南の二方を塊りとして固め、中央にガラスのカーテンウォールで囲まれた方形と円形の二つのライトコートが設けられ、主な室はこの周囲に展開している。ガラスのカーテンウォールは、北側のラウンジ廻りの外装にもあらわれ、マッスの中を透過する連続した空間が表現され、閉鎖的な東南とは対照的である。講義棟は細長い小中庭をはさんで２層と４層の２棟で構成され、中庭周囲を巡る片廊下型の機能的なプランである。中庭は植栽や池が配され、学生のいこいの場や屋外作業スペースとなっている。







見学の後、本部棟３階の視聴覚室で大久保氏・梅原氏両講師よりスライドを使いながら設計のねらいなどについて講演していただいた。

大久保氏からはキャンパスの地理的条件や航空路直下という悪条件に対する対処、設計に際しての学校側からの希望――地域に密着したコミュニティ・カレッジを目ざしていること、あるいは大阪芸大キャンパスとの違いについて、〝みどりの森の中で学ぶ〟という教育方針であるためコンクリート主体ではない外装としたいきさつなどについて話していただいた。

梅原氏は建築のデザインとくに本部棟について話された。本部棟はさまざまの機能・要素を集めて固め、一体化させながら、個々の接点や関係においてはアイロニックなデザインが強調されている。マッスの壁の三段構成の様式性とガラスのカーテンウォールの軽快な自由さとの対比、方形と円形の抜けたライトコートとそこから転移された方形と円形の塊り、その他、柱のディテール、開口部の位置など細部にわたり一つの秩序に基づく統一ではなく、つねに対比や分化をデザイン要素としてとり入れたと話された。これら分化と一体の意識を繰り返すデザインがキャンパスで学ぶ学生のイマジネーションを活性させるか、制約するかは興味深いと思う。

現在、講義棟増築予定部分や〝思索の森〟は未整備であるが、完成した際には再度訪れ、今回夏休みであったため見られなかった学生のキャンパス生活を見てみたい。

末尾ながらこの企画にご協力いただいた大久保・梅原両氏、浪速短期大学の関係者の方々にお礼申し上げます。

レポータ・池杉文昭／近畿地方建設局

日　時	昭和61年７月26日(土) 集合14：00→解散17：15
講　師	大久保久能氏（㈱坂倉建築研究所大阪事務所） 梅原　良矢氏（　同　上　）
参加者	43名
スケジュール	
14：10→14：20	挨拶及び講師の紹介／奥主査
14：20→15：35	キャンパス見学（案内は大久保、梅原両講師）
15：35→15：45	――休けい――
15：45→17：15	講演（スライド併用） ・全体計画／大久保講師 ・詳細説明／梅原講師
17：15	解散

投　稿

〝棟梁に学ぶ家〟を訪れて

土居　英夫
大阪芸術大学副手

棟梁に学ぶ家は某建築雑誌に連載されていたもので、ものをつくる「技術思想」を三宅島在住のひとりの棟梁から学びながら実物の建物をつくるというものである。

「でき上がったかたちというものは頭以上のものでも以下のものでもない。頭そのものだ。納まりが頭の中で働くようにすること、これが技術というものだ。技術というものは、自分の頭が先で、身体はつくっていくもの。」「上手くなることより理屈通りのことがキチンとできること。量をこなすよりも、一本でいいから、まともなものをつくること。そうすることによってしか頭の中で確かめられないだろう。」「俺が特別に考え出したことは何もない。聖徳太子の昔から人間が考えてきたことだよ。」私はこの連載記事に出てくる棟梁宮下英雄の、ものをつくるための「道理」というものにストレートに魅かれていた。

そして私が最初に棟梁に学ぶ家を訪れたのは、梅雨に入ろうとする６月の上旬のことであった。その夜、東京の雑踏を逃れるようにフェリーに乗り込み一中夜、まだ夜も明けきらぬ早朝５時、三宅島三池港に着岸された時は、小雨の降る中、潮風とともに清冽な空気が流れていた。

日本大学で教鞭をとっておられ、この棟梁に学ぶ家の発起人でもある深谷先生に迎えに来て頂き、車に乗り込み走ること10分たらず、道路脇に立て掛けてある看板が目の中に飛び込んできた。「コンクリートは食えねぇ、自然は食える。」折りも折り、今この三宅島は、アメリカ軍基地建設反対運動の真っ盛りであった。それらの立て看板は島のいたるところにみられ、島の住民達の頑固なまでの乱開発に対する叫びともとれ、設計という即物的な作業に携わる私の心に突き刺さった。

棟梁に学ぶ家はこの三池港から島を半周ほどする三宅村阿古に位置し、その間、火山爆発の傷後が生々しくのこっているその風景を車の中から眺めながら、「10円玉のような雨が降ること」「台風の時にはテトラポットが飛んでくること」また、「三宅島では、三宅島の自然に逆らわないこと。」などと話して下さる深谷先生の言葉に頷くばかりだった。果たしてこの様なところで本当に棟梁に学ぶ家なるものがつくられているのかと思うと同時に、小屋組もすっかり出来上がり、今日建前が行われるということ、棟梁をはじめ、つくり手の人達に実際に会えるということで、私の心はときめいていた。

現場は島を周回する道路ぞいにあり、昨夜から降り続いている雨のために建物は屋根からすっぽりとシートで覆われていた。現場での作業が始まるまでまだ時間があるということで、棟梁の家の作業場に直行することになった。作業場にはすっかり出来上がった五色の旗なるものが置れており、この五色の旗というのは、施主の親戚、友人が建前を祝って立てるもので、施主の徳を表すものである。「昼からは晴れる。」と突然発せられた棟梁の言葉を聞きながら、私は小雨の降り続く空を眺めていた。

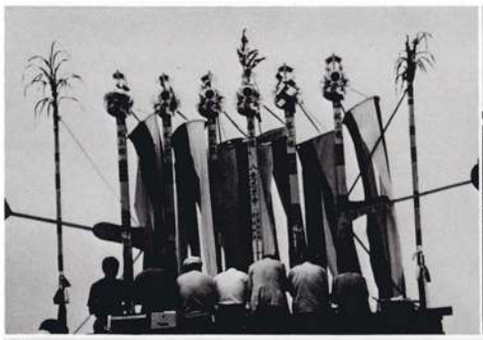
昨夜から降り続いていた雨は昼にはあがり、入道雲のでる夏の空に変わった。その日行われた建前の儀式は、都会では見られない厳粛なものであり、まず塩とお酒で清め、棟梁が祝詞を読み上げたあと、この日のために棟梁がつくった祝い板を包んで棟に納めてから、施主達と共に酒を飲み干し、四隅に向かってスミモチが蒔かれる。そして、モチ、菓子、お金が蒔かれ、島の子供達や村人の歓声で賑って建前は終わる。その後、つくり手の人達から私達に酒がつがれ、なごやかな宴が催される。私は酒を片手に建物を眺めながら、つくり手の人達の苦労話しに耳を片向ける。建物を建てるということに関して全くの素人達が棟梁の力を借りながら、熟練され、ここまで辿り着いたという事実は、私を無言にさせた。

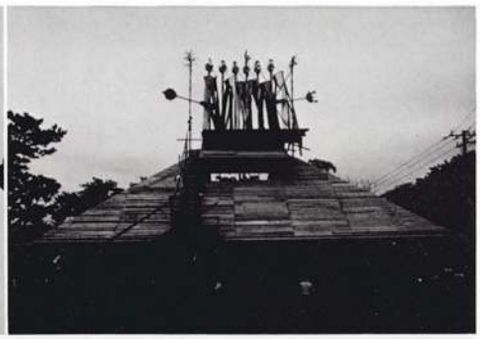
この建物は、四間×六間の両妻に下屋を持っており、屋根は七寸五分勾配に四寸五分勾配の小屋根をかけ、実にシンプルな骨格とは裏はらに、筋違いを使わない大隅流では、差物構造をとっているが、その差物の納まりの凄さには度肝を抜かれる。その後、この建物がどのような完成を迎えるのか、私の興味はさらに深まっていった。

再び三宅島へ

あれから４ヵ月が過ぎ、秋風が吹き始めたある日、深谷先生から竣工式と建物の引き渡しが行われるという連絡を頂き、再び現場に出向くことになった。

現場脇の道路に横づけされた車から足をおろし、見上げた第一印象は、真新しい木の素朴な色合いは上品で、極めてやさしく、バランスのとれたデザインで島の風景の中に透け込んでいた。内部は小屋組の一部を２階宿泊室にされており、大人10人程度は寝ることができ、また吹き抜け部分は特に棟梁の継手仕口がよく見えるようにつくられている。いずれにしてもこの建物全体が棟梁宮下英雄氏の「技術思想」そのものであり、そこに学んだ人達の生きざまは、あきらかに現代の建築生産、あるいは、現代の建築家に対するアイロニーであり、私達が妄執のうちに忘却していたものとひとのかかわりについて考えさせられるものである。そしてこの建物は、棟梁の「技術思想」を次代へ伝えるものとして、また具体的には、建築を学ぶ学生のための研修所として機能するという。その夜私は、この建物に泊めて頂き、その空間に流れる真新しい木の香りと、彼らの建築に対する考え方を肌で感じながら、それは三宅島の自然と合いまって、私の心の中に深く刻まれた。







書　評

古典の原理と方法

前川道郎（九州大学教授）

待望の訳書が出版された。近世の古典主義的建築書の日本語版の刊行が続くなかで、この近世の非古典主義的『建築講話』に身近に触れうるに到ったことは、建築を思索する上にまことに有意義なことだと思う。パリのノートルダム大聖堂をはじめとする無数の中世建築の修復建築家として令名高いヴィオレ＝ル＝デュック（1814～79）は、また、個性的な建築芸術論者でもあり、そして建築教育を強く志向した建築家であった。彼は美術学校（エコール・デ・ボザール）における講義を意図しながらも激しい妨害で実現できなかったが、この『建築講話』は、彼の建築論、建築芸術論を公刊したものであり、その第１巻（1863年）の完訳である。

ゴシック教会堂に関する彼の構造合理主義的解釈は広く知られているが、ギリシャ建築の理性を最高度に称讃するヴィオレ＝ル＝デュックの建築観そのものは、わが国では余り知られていないのではなかろうか。本書は彼の建築理念全般を理解するのに貴重な著作である。

特有の建築芸術論

本書は10講より成り、その素材は古代エジプトにはじまり近世にまでわたるが、決して歴史書ではない。彼はアルケオロジー（ものとしての建築史）には深い関心を示さず、実践的な建築家の立場から、建築を思念して、自らの理念を若い建築家に伝えるべく、特有の建築芸術論を展開する。ウィトルウィウスやルネッサンスの建築書とは異質ではあるが、これもまた一種の建築論である。

彼の建築思想は哲学者デカルトの４準則が依拠すべき論理であり、推論(レゾンヌマン)を第一義として、形態の研究にとどまることなく、原理の探究、すべての（建築）芸術に共通する原理の探究を志向する。レゾンヌマンとは建築設計において理性を働かせることである。彼にとっては古代ギリシャ建築が史上最もすぐれた芸術であり、中世建築、とりわけ幾何学的造形を心理的卓越性にまで高めたゴシック教会堂がギリシャ建築に最も近いものとして称揚される。それに比べ、装飾と論理的な構造とを遊離させてしまった古代ローマ建築はその実用性においては高く評価されるが、多くのルネッサンス建築や、とりわけ近世フランスの古典主義的建築は、原理を見失い、模倣に堕したものとして、強く否定される。彼はこのフランスの建築アカデミズムに対抗し、若き日には（エコール・デ・）



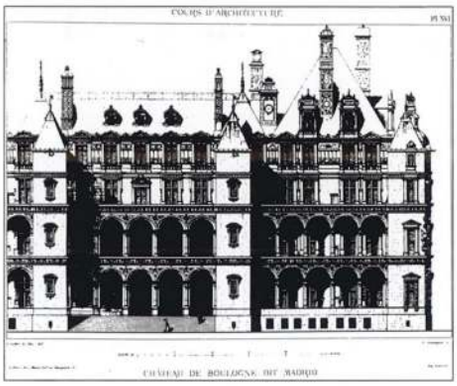
建築講話第１巻

E.E.ヴィオレ＝ル＝デュック著

飯田喜四郎訳

中央公論美術出版刊
22,000円

ボザール教育を拒否し、長じてはボザールにおける講義を拒否されたのであった。彼が古典に学ぶべしとしたのはその形態ではなく、原理と方法であった。原理に基づく時代にのみ、建築は風格（スタイル）をもつという。この原理の探究がレゾンヌマンである。新し



い時代は新しい建築様式を要求する。実用性と材料と加工法がスタイルを生み出すという彼の思想はオットー・ワグナーを思わせ、機能主義の先がけを感じさせる。ただしヴィオレ＝ル＝デュックにおけると同じく、機能主義とは、機能を造形する原理の探究であり、実用目的を充足する建物をつくることでは決してない。その評価において毀誉褒貶交錯するヴィオレ＝ル＝デュックであるが、この著作を読む限りにおいては、彼を近代建築運動の萌芽と位置づけることもあながち不当ではないように思えてくる。そして理性的な西洋精神の一つの権化を見る思いがする。

建築史観の再考をうながす

だが、古典的伝統にのっとったレゾンヌマンの結実としての構造合理主義のみでは、建築の、とりわけゴシック建築の評価は不充分であろう。近代建築の造形の特質でもある空間性こそがゴシック教会堂の本質ではあるまいか。残念ながらこの著者は建築的空間の十全な理解を欠いていたようである。

その後のアルケオロジーの発展によってこの書の誤りを指摘することは容易であろうが、著者の理念はアルケオロジーを超えている。それにしても建築史の意義は何か。建築史の学習・研究において建築の本質的意味を顧みることなく、デザイン・ソースを過去の形態に求めようとする意図が一部に（19世紀につづいて）再び頭をもたげはじめようとしているのではないかと危惧される今日の状況において、私たちはヴィオレ＝ル＝デュックの建築史観を再考しなければなるまい。

西洋建築史・とりわけ技術史に関するわが国最高の権威である訳者による詳細な註はきわめて有益であり、また訳者あとがきに示すヴィオレ＝ル＝デュックその人に関する詳しい紹介は、本書の理解に、そして近世建築とその歴史の理解に寄与するところが大きい。本書の第２巻の翻訳とともに、訳者が意図しておられるヴィオレ＝ル＝デュックの主著『フランス中世建築辞典』の抄訳の刊行が待たれる。最後に、かかる専門書をりくぞくとして手がけ、建築学への貢献を積層しつつある中央公論美術出版に最大の敬意を表する。

書評委員（敬称略）
伊藤郁郎（日建設計）
伊従　勉（京都大学教養部助教授）
太田隆信（坂倉建築研究所大阪事務所長）
加藤邦男（京都大学建築学科助教授）
橋本敏子（生活環境文化研究所所長）
増渕昌利（神戸市営繕課）
山形政昭（大阪芸術大学建築学科講師）

新刊寸評

古建築の基礎知識

前　久夫著

古建築は何かを語りたがっている。建築された頃のこと、そして今日迄のできごと。そういったことが聞かされ、解ればどんなに楽しいだろうか。

しかし、古建築に対し無頓着であれば、それを聞き取ることができない。

さて、本書には驚く程幅広い古建築の内容が盛り込まれている。古建築見て歩きに、本書は、大概の見学した対象物をうまく本書解説のどれかに結びつけることができ、その時代背景や建築意図などの理解に役立て得る。

すなわち、本書は古建築を見るときの漫然とした気分から、見ることの楽しさを教えてくれる。

他面、本書のように極めて幅広い内容の把え方は、必然的にその奥深さで限度が生ずる。敢えてそれが問題になるときは、いきおい他の専門書に譲らざるを得ない。要は、本書は古建築の入門書として、いかに読者を古建築にひきつけ、親しみを抱かせるかを意図しているようであり、そういった面から十分楽しんで読み終えた。

（上出秀雄／藤木工務店）

（光村推古書院刊　2,800円）

私が読んだ本

明治→大正→昭和の心、日本とアジアの比較文化論、関西の知性と学問、の三つが主題

水谷頴介（計画同人ＴＵＲ・水谷研究室）

■４月の中旬から６月にかけて、ポートアイランドの神戸中央市民病院へ入院していた。病因は、カッコウもよくない胃潰瘍の手術。簡単で短期間のはずだったのが、予想外に長びき、退院後もすぐには元気が回復しない。体の中心を切腹してしまえば、こう弱くなることもやむをえないな、と自業自得しているこの頃である。人名、資料のゆくえ、地名などの記憶がすぐよみがえってこないし、おしゃべりならともかく、根気のいる原稿など手がつきかねる。

以前に、自然気胸で手術していたので、手術そのものはおっくうではなかったのだが、術後のしんどい期間、全て無機質の工業化材料による病室の内装の清潔さには神経が疲れた。各種の材質が混在する布引の旧病棟の方がその点は気安めがあった。せめて家具廻りでも自然材である木が活用されていたら、と願った。

以前の病が数えてみれば14年前なので、これから15年後の65歳までは保証済みになったとか、いかに努力してもやせることができなかったのに10kg強減量できたとか、久かたぶりのスマートさ（？）で衣類も好みのものをバーゲンセールでも買いやすくなったとか、今までお酒の功ばかりを主張していたのが罪も認識するようになったとかいいながら、わが体と心の持ちようの進化（？）をおぎなってくれた病床の読書のことを、退院の時にぶらさげてきた重いショッピングバックをひっくりかえしつつ思いかえしてみた。

■今回の病床で、ひどく心がときめいた書が、高田宏「言葉の海へ」だった。以前から読まねば読まねばと思いつづけていたのだが、手術前に病院の前のブックストアーで文庫版を見つけて読むことができた。明治24年に、わが国初の近代的国語辞典である「言海」を完成させ、再び66歳から82歳にかけて「大言海」の編纂にかけた大槻文彦の、父大槻磐渓との交情をまじえた物語は、私たちの世代にはまねのできない明治の人々の情熱と努力を教えてくれた。明治といえば、次に、町並保存を訪ねたことのある宮崎県南部の飫肥（おび）出身の小村寿太郎がポーツマス条約（1905年）を期に寄付した日本慈善基金（ジャパニーズ・チャリタブル・ファンド）が生きつづけているという〝明治の心〟を知って感銘もした（司馬遼太郎「アメリカ素描」）。

阪神間研究や阪神間各地の計画に参加していても、いつも感じてしまうのは、明治→大正→昭和前期にいたる地域づくりの思想や洞察への高まりと、戦争が介在しての断絶、そして戦後の戦災復興以来現在にいたるいわゆる物づくりだけに忙しく〝心〟と〝理念〟の希薄さを脱しきれない状況、である。



■入院が、そんなに長く続くとは予知できず、建築学会創立100周年記念の「アジアの建築交流国際シンポジウム」の実行委員会の一員として、初体験の東南アジアを訪問するべく予習も続けていた。梅棹忠夫「東南アジア紀行」は、もう30年も前（1957年）の紀行であるために、書かれた地域の事情や政情は大きく変わってしまっていて、一つの歴史書といってもよい存在になっている。読みかえしていくと、初めてあの扇町のオンボロ学舎でお会いした当時の、まさに新構想大学であった大阪市立大学のスガスガしさとも重なった梅棹先生のフィールド・ワーカーぶりをほうふつさせる一言一句の記述にいきあたる。この学術調査の出発前に発表された「文明の生態史観」の梅棹構造理論とその実証ぶりとの交錯の現場をかいま読むと、学問・研究への方法や姿勢の初心の大切さを思いもどさせてくれた。梅棹先生の〝同質性より異質性〟や〝国家よりは民族〟という指摘、矢野暢氏の数々の談話と書による勉強は、アジアを理解しようとする思考の基礎になりつづけている。

シンポジウムにお招きする人々は国家代表でなく、それぞれの地域の異質性と独自性を背景にもつ都市の代表でというかたちになっていたし、当初のアジア圏に対する批判が参加を呼びかけた招待国からやはり提唱されて、アジアのに改革されたこと、などである。

そして、アジアのつながりがヨーロッパやアメリカと異なるのは、大陸文明圏でなくて、相互に海を介してひろがる海域島峡エリアであるという矢野論調は、これからおおいにとりあげたい〈島の時代〉のシナリオを支えてくれるに違いない。

■やっと退院できるかなという頃、矢野暢・福士昌寿「日本を変えるシナリオ」の新聞広告を見て、早速買ってきてもらった。ウエイズ・オブ・ライフ産業論、日本の国土開発には農村美のシナリオがない、日本のフローの文明の使いかた、日本人は心まで社会工学的にデザインしようとしている、など矢つぎばやに卓見がとびだす。時を同じくして出版された梅棹先生の「日本とは何か―近代日本文明の形成と発展」を読んだ。西洋文明と日本文明の平行進化説であるが、なりよりも〝突然、両眼の視力をほぼ完全にうしなうという事態にみまわれた……〟というそのまえがきを読んで愕然とした。

退院の直後は、山崎正和「柔かい自我の文学」がおもしろかった。

東京へ時々出かけ、また九州と親しくなってより気がつくのは、関西の知性や学問への評価と身びいきである。

未知の著者より顔見知りの方々の書にどうしても関心が向かってしまうこのごろでもある。

みずたに　えいすけ
1935年東京生まれ。神戸大学工学部建築学科卒業。大阪市立大学大学院工学研究科修士課程（都市計画専攻）。大阪市立大学助手（1960～1970年）などを経て、現在、計画同人ＴＵＲ・水谷研究室主宰、コー・プラン（都市計画コンサルタント）のアドバイザー、研究同人（シンクタンク）ベイエリア・グループのメンバー。
計画同人ＴＵＲ・水谷研究室
神戸市灘区楠丘町２―５―20　☎078―842―3563

新刊寸評

ヘテロ１

アドルフ・ロース

アドルフ・ロース研究会編

Ａ・ロースが「文化喪失の時代」と評した前世紀末から既に一世紀が過ぎ去ろうとしているいま、文化の退行現象はとまるところを知らず、「芸術」や「思想」の断片化は進行し、その「意味」は急速に消え去ろうとしている。建築のジャーナリズムに流布する言説もその例外ではなく、「知」はファッション（デザイナー）として戯れる対象でしかないかのようである。造型家、装飾家、プランナーはいても、アーキテクト不在の現在といえよう。「ヘテロ」誌は、近代建築の歴史から重要な幾人かの「建築家」を取り上げ、論評するシリーズとして構想された。その創刊号にＡ・ロースが選ばれた。Ａ・ロースほど、本誌創刊の意図にふさわしい建築家はいないであろう。なぜなら、Ａ・ロースの生きた世紀の転換期のウィーンの文化的状況がわれわれの時代に類比されるからである。このオーナメントの時代に、オーナメントに向けて放たれたロースの発言が、今ほど生き生きと蘇えるときはないように思える。タイムリーな企画とみたい。今後、年に１回の刊行が予定され、さしあたりアルド・ロッシらが検討されていると聞く。

（前田忠直／京都大学工学部建築系教室助手）

（アドルフ・ロース研究会刊　大龍堂書店販売　2,500円）

特殊目地デザイン工法複層仕上塗材

トーヨーアドブリック

製造
東陽化成株式会社
岡山市藤井238-1
TEL0862-79-1570

指定工事会社
トーヨーエンジニアリングサービス株式会社
大阪市東区横堀1-24-2 サンユータワー淀屋橋　TEL06-203-2828
株式会社東陽化成大阪
大阪市西区江戸堀2-7-29 タケダグリーンビル　TEL06-443-0977

はじめに

建築仕上塗材の代表的存在である建築用吹付材の歴史は以外に古いようである。最も古いものは「色セメント」吹付で昭和初期から用いられ、昭和25年ごろから「防水リシン」という名称の工場生産品が出廻るようになり、住宅、官公庁ビルなどに大量に使用されるようになった。

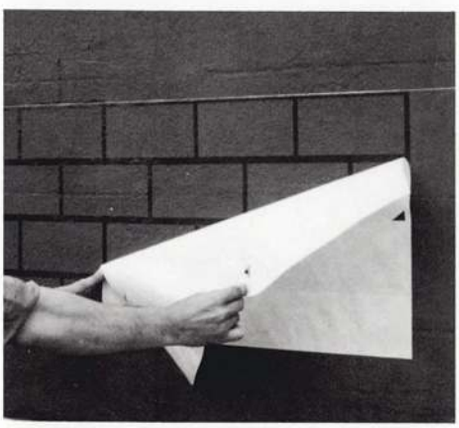
最近では、防水材に近いような「弾性仕上材」が多くなってきている。同時に壁面のデザイン化が盛んに行われるようになった。プレハブ化が進んできた中、各種化粧ボードも数多く生産されているようである。

ここに紹介する「トーヨーアドブリック」は、時代のニーズにあったユニークなデザイン調吹付材で、既設内外壁やパネルボード等を問わず、簡単に施工することができるものである。豊富なパターンペーパーと色調で、いろんな組み合わせの選択が可能であり、多年の経験と約200万㎡にものぼる施工実績を誇っている。

トーヨーアドブリックの施工手順

1)下吹き
GSリシンガンで1.2～1.3kg／㎡吹き付ける。
＊全面平滑に吹けるのがコツ。
＊十分乾燥させて次の作業に移る。

2)墨出し・型紙貼り
施工箇所のポイントから墨を割り出しチョークライナーで墨を打ち、墨に従って型紙を貼り台紙のみはがす。
＊型紙は上下逆にならないよう一定方向に貼る。
＊台紙をはがす時は十分圧着したのちはがす。



3)中吹
スキンガン等で1.3～1.5kg／㎡吹き付ける。
＊目地がややかくれる程度に均一に吹く。
＊十分乾燥させて次の作業に移る。

4)上吹
スキンガン等で2.7～3.0kg／㎡吹き付ける。
＊パターンの均一化をはかる。
＊30分～1時間で次の作業に移る。

5)目地取り、目地掃除
目地取り後すぐに左官刷毛でチリ・ハネを取り除く。
＊目地掃除の後、十分乾燥させた上、次の作業に移る。
＊目地通りをすっきりさせるポイント作業です。



6)クリヤー仕上げ
エアレススプレーガン等で0.36kg／㎡吹き付ける。
＊所定量を2回に分けて均一に塗布する。

トーヨーアドブリックの特長

A．品質
1)下吹材、上吹材は共にシリカ系だから不燃性で、しかも下地への付着力が大きい。
2)ウレタン系トップクリヤーを塗布するので、塗膜の耐久性は抜群。
3)天然石や着色骨材を用いているため、変退色が少ない。

B．デザイン
1)標準パターン　20種類。
2)ARTパターン　26種類。
3)ワンポイントマーク、文字等の作成可能。

C．作業
1)どんなサイズの建物でも即応できる。
2)型紙はうすいテープなので曲面でも簡単に貼れる。



施工例

アドブリックの性能

試験項目		試験結果	試験方法	JIS規格
耐水性		異状なし	JIS A 6909.5.6	水に96時間浸漬して、ふくれ、はがれ、変色がないこと。
耐アルカリ性		異状なし	JIS A 6909.5.7	水酸化カルシウム飽和溶液に48時間浸漬して、ふくれ、はがれ、軟化がないこと。
耐洗浄性		1000回異状なし	JIS A 6909.5.4	500g、500回往復で、下地の露出がないこと。
透水性		0mℓ	JIS A 6910.6.4	0.5mℓ以下
促進耐候性		1000時間異状なし	JIS A 6910.6.5	250時間異状がないこと。
付着強度	標準状態	12.0kgf/㎠	JIS A 6910.6.3	7.0kgf/㎠以上
	浸水後	9.6kgf/㎠		5.0kgf/㎠以上
	温冷くり返し後	8.4kgf/㎠		

建材委員／高野道雄（戸田建設）

第１、第２及び第３熱実験室改造

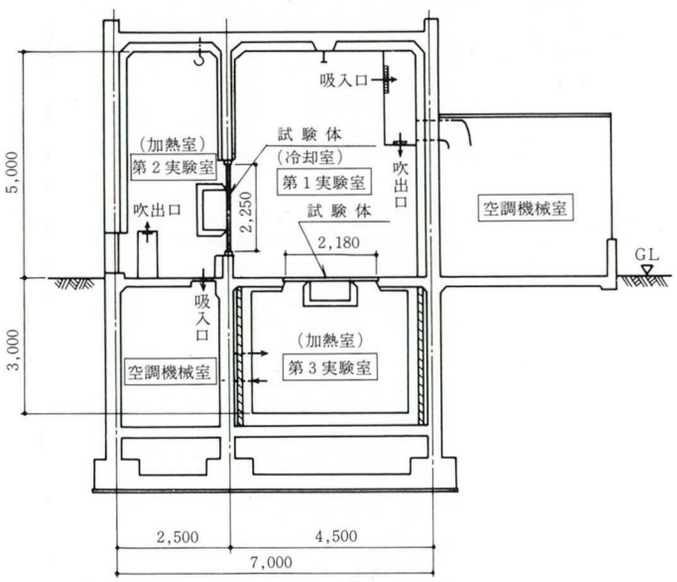
財団法人 日本建築総合試験所
所 在 地…吹田市藤白台5－8－1　〒565
電　　話…(06)872－0391　FAX…(06)872－0784
業務時間…平日：9：00～17：00
土曜：9：00～12：00

熱試験室における、熱貫流率の測定や結露実験等の主な実験には、**図－1**に示す第１～３の実験室を使用しますが、１台の冷凍機で各室を冷却するため、負荷の大きい夏場には設定温度に到達するのに相当の時間を要していました。そこでかねてより冷凍機の増設により、空調器を２系統（冷却室、加熱室用）に分離する計画を進めてきましたが、このほど工事が完了し、すでに９月より稼動しています。

今回の改造では、第２、第３実験室（加熱室）専用の冷凍機の増設とともにヒーター、ファン、加湿器など、空気調和器一式の更新を行っています。とくに、調節計についてはディジタルプログラム式のものに入れ替え、気象条件の変化（日変動）等を考慮した非定常の実験も可能となりました。また、冷凍機及びファンにはインバーターを組み込み、制御精度の向上を計っています。

なお、新しい空調設備の仕様は下記のとおりですが、今後は第１実験室系統の更新を行い、設備全体の改造・改修を終える予定です。

詳細については音・熱・動風圧試験室までお問い合わせ下さい。

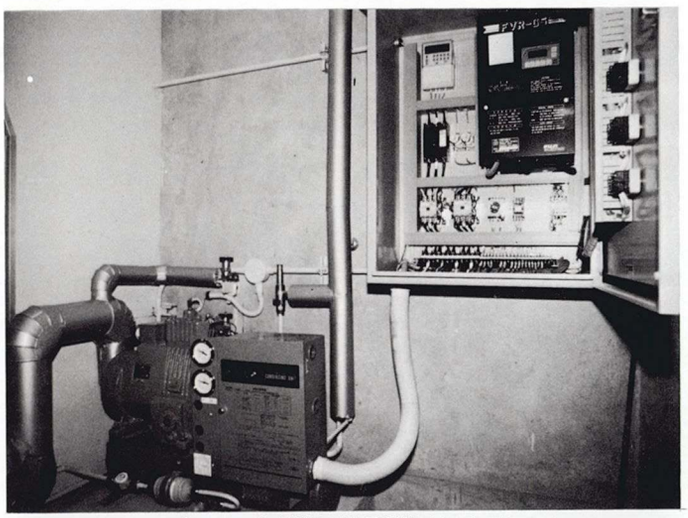


図－１　熱実験室断面図

新設空調機器の仕様

- 冷凍機
  型式：リモート空冷式　ERR-45 PAF２(三菱電機)
  冷却能力：10,000kcal/h
  容量調整：トランジスタインバーターFVR-G５(富士電機)
- 空気調和器
  方式：直膨プレートフィンチューブ
  能力：10,000kcal/h
  ヒーター：20kW（ゼロクロス時間比例制御）
  ファン：2,000m³/h×２台(トランジスタインバーターFVR-5付)
- 加湿器
  型式：電熱式蒸気発生方式　SU-065(ＰＳ工業)
  能力：6.5kg/h(5kW)×２台
- 温湿度調節器
  型式：ディジタルプログラム調節器 PC-300(横河北辰電機)
  記憶パターン数：最大６パターン（96セグメント）
- 温湿度センサー
  温度：Pt100Ω
  湿度：高分子湿度センサー(日本工学)

設計施工：富士空調機器株式会社



写真－１　冷凍機及び容量制御インバーター



写真－２　空調制御(計装)盤

けんちくの

眼



三村浩史
京都大学教授

本城博一
滋賀県審議員

山本忠司
山本忠司建築事務所

大辻真喜夫
竹中工務店取締役

7月号から12月号まで上記の4氏が担当

街頭パフォーマンスと市民のひろば

日本の都市開発でもいろいろな広場が造成されるようになった。だが、たいていの広場は、管理者や交通警察のガンジがらめの規制がきびしくて、公開空地などというわりには、市民の自由な広場とはいいがたい。もし、勝手に演説を始めたり、集まったり、ビラを配布したり、街頭の芸能を演じたりすると、たちまちに排除され、ときには軽犯罪者になりかねない。管理者からしてみると、自由使用をゆるすと、物売り、野宿地、不法駐車スペースになりかねないという危惧がある。パリの地下鉄でびっくりしたのは、車内の数駅区間でうまみに楽器を奏で帽子にコインを集めてまわる連中がいることだ。そして地上の広場には大道芸人がつぎつぎに登場する。順序には仲間のルールがあるらしい。どれだけその場面を続けられるかは、大衆の反応が決める。せっかく待って登場したのに反応が冷たいとすごすごと退場しなければならない。ロンドンのハイド・パークにも演説コーナがある。ビラやデモやアッピールおよびパーフォマンスの街頭表現の自由はいかに保障されるべきか、そこに広場が市民のひろばになれるかどうかの鍵がある。こぎれいなモール、カラータイルと気のきいたデザイン街具で日本の広場は美しくなったが、市民の表現の自由と活気は美化の名のもとに萎えていないだろうか。（H・M）

創造と心

私達が、ひたすら物の豊かさを求めた時代はすでに終わり、過ぎ去った時代に対する感懐と共に、何かが欠けているのではないか、豊かさを保っているのは〝もの〟だけではないかという素朴な疑問が頭をもちあげてきた。まさに本物を指向し、多様な価値観の展開が持たれる心の時代にさしかかったといえよう。これは建築界にとっても、文字通り量より質の時代の到来である。先年メキシコ合衆国を訪問する機会を得た。眺望がすばらしいグアヤカンガロの盆地に位置するモレリアは、初代副王ドン・アントニオ・デメンドーサによって創設されたメキシコ都市の中で最も貴族的な古都である。ここは十六世紀にすでに立派な都市計画が完成し、街の広場を中心に公園や公共の建物が立ち並び、その中心にメキシコで最も美しいとされているカテドラル（完成まで一世紀以上かかった）が純粋のプラテレスク様式で統一され、また街全体は約400年前の石造建築が今なお夫々の用途に供されている。その活々とした街並みを形成している姿は全く感激と感嘆であった。過去の長い歴史の中で、何の心も持たない粗悪なものは、建築といわず、絵画、彫刻等に至るまで自然消滅してしまう。しかし、この一連の街並みや、ギリシャのパルテノン神殿、日本の古建築等、今なお立派に存在することは、そこに創造者のすばらしい心が宿り浸透していて大衆の心を引きつけ、日常生活の中での一つの魅力となって生きつづけたからである。先人の教えこそ尊いものである。（H・H）

まちを構成するもの

パリーのまちの中に、ポンピドーセンターができたとき、市民の多くからごうごうの批難があった。あの仮設足場のような建築が、伝統的でまち並保存運動の最も厳しいパリーのまちの中に忽然と出現したのであるから、パリー市民の反応がないということがおかしい。結局は、在来とは異質なものとしてそれなりにまちの中に馴染んでいくから不思議でもある。同様なことが、かつてのエッフェル塔についても言える。まちを構成する建物が、同質なものであるべきなのか、質の違ったものが集まって構成されてもよいかどうか、その理論は大変むつかしいもののように思う。

日本のまち並も昔はいらかの屋根で統一されていた。それが昭和期に入って次第に崩れ始め、四角な箱がそれらの中に入り込むようになる。日本の場合、在来からあったものが木であり瓦であったが、それにコンクリートや鉄が入り込んできた。ヨーロッパのように煉瓦からコンクリートに移行したのとはかなり様相が異なる。一歩間違がえると混乱におち入る日本のまち、うまくいけば異質の要素が組み合わされて、活力と魅力を増していく日本のまち、いずれにしても都市機構として付加されていく建築物については、設計から施工に至る密度の高さが要求されるところで、粗雑な設計や安もの普請はいいまちをつくることにはならないことだけは事実であろう。（T・Y）

建築空間に〝遊び〟の奨め

ポストモダンのデザインが真盛りである。郷愁や古い時代の隠喩であったり、キッチュであったり仲々うまいじゃないのといえる建物が多くなった。しかしファサードにしろインテリアにしろ、この表現の面白さやファッション化の流れがモダンの後に続く本流として認知されるには、もう少し本質的な価値や意味に裏付けられた確たるスタンスが設計者に必要ではなかろうか。

終戦から今日まで日本の建築は厳しい経済条件のもと合目的的に遊びのない設計を追究して来たといえよう。しかしこの40年間に社会は価値観も物の性能も根底から変貌し、精魂を傾けた筈の新しい建築ですら20年ともたず新陳代謝を余儀なくされる状況である。日本の都市の変化の速さは世界の中でも特殊とされているが、それにしても欧米の建築の寿命の長さや再生の様子を見ると考え込まされる。単に石造や煉瓦造で朽ちないからでなく天井高が高いのである。〝遊び〟があるため要求の変化に適応し易いのである。今日の社会や都市の変貌の速さを考えれば建築の骨格をふところ豊かに建てて変化に対応できる仕掛けを組み込んでおくことが大切である。一つの骨格の中に新しい形旧い形が隠喩やキッチュでなく真の意味を持って共生できる味わいのある建築が出来ないものであろうか。（M・O）

特集●第33回青年技術者

青年技術者選衡委員会総評

選衡委員長　井上　　滉

青年技術者の選衡は第33回を迎え、400人余りの技術者を紹介したことになります。時代の移り変わりを反映し、惜しくも選衡からもれましたが、今年はシンガポールからの参加もありました。

選衡委員会においては、本人が会社の組織の中で、その仕事にどのような役割でかかわったかを正確に記述してもらって審査をいたしました。

諸兄には、今後ともますます精進されまして、日本建築協会会員として建築界の発展のために活躍をされますことを祈ります。

今回の選衡結果は、つぎの通りであります。

部　門	設　計	構　造	設　備	施　工	計　画	その他	計
応募者	10	2	4	3	5	2	26
入選者	6	1	2	2	2	1	14

設計部門：またまた応募者は著名な組織に属し、成果品もまた、その組織を代表するものとしてもおかしくないものばかりであった。私達の仕事は多くの人々の指導や協力、自己の貴重な経験等に立脚しているのだから、そうした組織の技術者が一般的に有利だと思われているのだろうが、しかし、その作品や説明文の着眼点やひらめきから十分応募者のすぐれた個人的能力を看破することが可能である。大きい組織に属さない青年も奮って応募されたい。

構造部門：Y氏は、大きな組織の中における構造設計者としての役割を十分に発揮し、適確な構造計画によって構造設計を無難にこなしている。また構造側からの提案が設計に生かされ、小作品の中にも構造的センスの豊富さが現れている。さらに、構造実験により実施設計を確認、その内容を自ら建築学会に発表している。S氏もY氏同様優れた構造設計者であることが応募作品から伺えたが、年齢超過のこともあり、Y氏を構造部門から選衡した。

設備部門：設備系4件の応募のうち、2件は大型プロジェクトにおける空気調和を主体とした全体計画で、いずれも力作である。その中から、高温度差空調を導入した点が評価されY君が選ばれたが、Y君、そしてKW君の両作品を通じて、内容が他の同種の建物と比較して極立った特徴は何か、どこに苦労工夫を凝らしたかをさらに明確にして欲しかった。作業所業務をコンピュータ化し、能率化を計ったT君の応募に関しては、さらに展開を計り、一層実のある成果を今後に期待したい。KT君の要素技術を極め、普遍化、標準化を計った資料は、日頃の地道な活動、努力が評価されたものである。

施工部門：今回は、PCなどによるシステム工法および施工機械の開発に関するものの応募が、全部で3件あった。PC化に関するものは従来よりあったが、機械に関するものは今回が初めてである。その中から着眼点の新鮮さ、改善のやり方、貢献度などの点からこの2件を選んだ。施工機械の開発、施工法の改善は今後もますます重要となるであろう。この二人の青年技術者も施工の未来像を何らかの形で先取りしているものと信ずる。

計画部門：計画部門への今年の応募は例年より多く5点。いずれも高いレベルの作品であったが、そのうち2点を推せんした。K君はいろいろな計画を通じ必要な調査、研究を幅広くこなしてきており、その成果には都市計画家としての高い識見が感じられる。M君の場合は大規模な開発計画のリーダー役として、数多くの関連分野とかかわり合いながら計画を推進しまとめてきた実績が大きい。他の3君の作品は、内容的にみて設計部門やその他の部門に近く、選外となった。

その他部門：N氏は電算部門に所属し、構造解析を担当しているが、単にコンピュータの専門家というだけでなく、構造設計者としての良いセンスも持ち合わせ、設計業務に役立っている。自ら開発したソフトも数多く、設計に反映するとともに、建築学会等でコンピュータ・ソフトに関する数多くの論文を発表している。M氏も建築の企画から保全までの一貫プロジェクトのソフト開発などを手がけ、その内容は特異かつ豊富なものがあったが、その他部門からはN氏を選衡した。

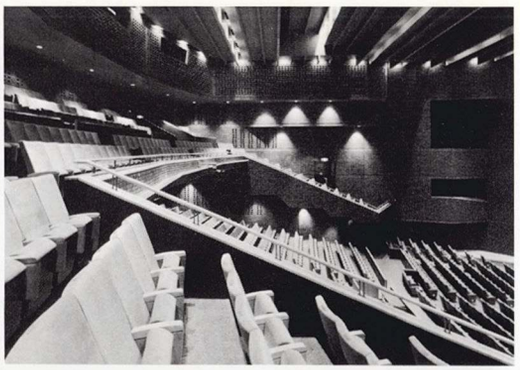
設計部門　北村　潤（東畑建築事務所）
〃　中西博隆（日建設計）
〃　茨木　保（竹中工務店）
〃　沼田　亘（昭和設計）
〃　矢野　茂（不動建設）
〃　平畑正人（藤木工務店）
構造部門　山本　博（竹中工務店）
設備部門　片山淳一（高砂熱学工業）
〃　山田祐三（安井建築設計事務所）
施工部門　倉　良廣（清水建設）
〃　中西一吉（竹中工務店）
計画部門　金澤成保（日建設計）
〃　松島　清（昭和設計）
その他部門　中川佳久（安井建築設計事務所）

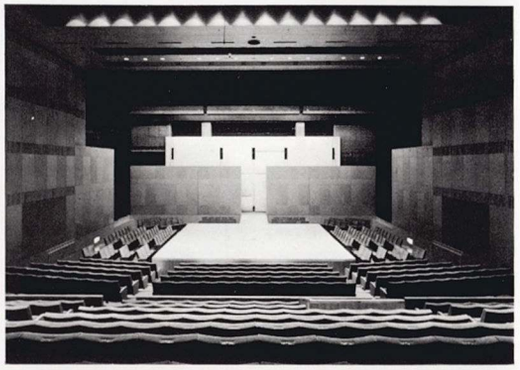
（掲載順）

第33回青年技術者選衡委員

井上　滉（高松組取締役設計部長）
寺本敏則（日建設計設計部長）
徳岡昌克（徳岡昌克建築設計事務所）
森内盛一郎（住宅・都市整備公団関西支社副支社長）
溝神宏至朗（安井建築設計事務所取締役副所長）
金多　潔（京都大学教授）
須賀好富（近畿大学助教授）
池山壮一郎（竹中工務店設備部長）
荒井　清（東畑建築事務所取締役設備部長）
荒川治徳（清水建設建築技術部長）
藤田孝吉（鹿島建設建築部次長兼工事部長）





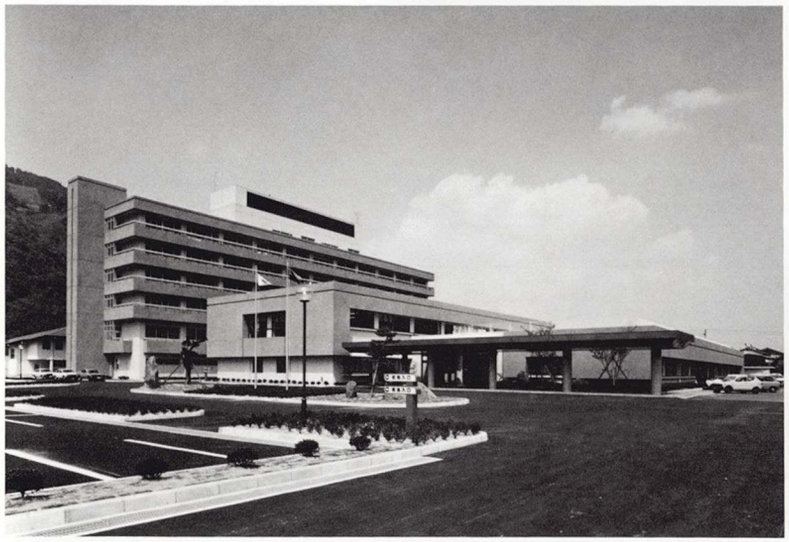


吹田市文化会館

・市街地に建つ条件上、威圧感を与えないよう周辺環境への配慮から壁面をセットバックさせ、その上を屋上庭園として活用した。
・1階を半地階とし、2階レベルを低くし、2階のエントランスへのアプローチの心理的負担を軽減させた。

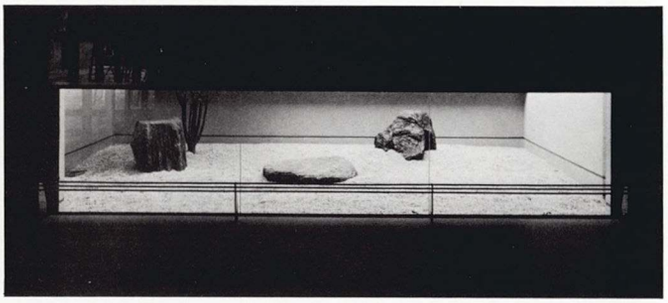






徳島県立三好病院

・地域の中核病院として、利用者の立場に立ったわかりやすい診療部門の配置と平面計画とした。
・病棟と診療部門を明確に分けることによって病棟の独立性を高めた。
・周辺環境になじんだ水平線を強調したデザインとした。





北　村　　潤

生年月日　1951年11月16日
最終学歴　1978年京都大学大学院修士課程終了
業　　歴　1978年東畑建築事務所入社、現在に至る

作品経歴
吹田市文化会館（競技設計・基本設計・実施設計・現場監理）
天理市庁舎（実施設計）
徳島県立三好病院（実施設計）
小松島体育館（競技設計）
水口文化芸術会館（競技設計）

すいせんのことば　　土肥耕一

建築を志す者の資質として、いい意味での好奇心の旺盛さがあげられる。それがものを見つめ抜く力に育つ可能性があるから。彼は生来物静かな人柄の内にこの資質を潜め、加えてもの創りへの執念を、したたる額の汗の中に滲ませている。今や開花の待たれる器である。

青年技術者としてのことば

――アナタハ　コノ作品デ　何ガ言イタカッタノデショウカ。

――バカモン　ソンナ事ガ　ハッキリト言葉デ言エル位ナラ　建築ナンゾ　ヤットラン。

できることなら、こんな風に言えるようになってみたいものです。

大阪市立東洋陶磁美術館



展示ロビー

大阪城国際文化スポーツホール



高知追手前高等学校芸術ホール

手前より芸術ホール、本館、高知城





中　西　博　隆

生年月日　昭和26年３月20日

学　　歴　昭和44年大阪市立都島工業高等学校建築科卒業

業　　歴　昭和44年日建設計に入社、現在に至る

設計に携わった主な建物

昭和50～54年　日本銀行大阪支店（51年より監理業務）
55年　大阪市立東洋陶磁美術館
56年　和歌山市立博物館
57年　大阪城国際文化スポーツホール
58年　高知県立高知追手前高等学校芸術ホール
59年　住友生命ホテルニューオータニ大阪ビル
60年　守山市市民文化会館守山市立中央公民館（工事中）
61年　住友生命ＯＢＰ事務所棟（工事中）

すいせんのことば　　横川隆一

常に異なるテーマ・新しい課題に対処できる、柔軟な姿勢と豊かな知識を兼ね備えた素晴らしい人です。

これは日頃からの努力の結果にほかなりません。

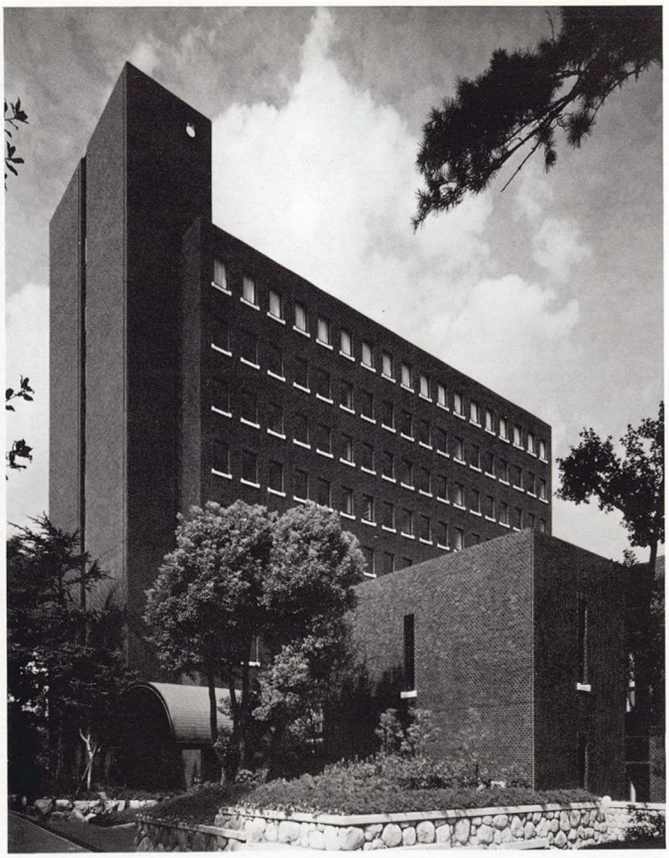
今後も、建築に正面から取り組む真摯な態度と、未来を見つめる確かな眼をもって、良い作品を生み出されるよう期待しています。

青年技術者としてのことば　多くの場合、施主にとって建物は、自分を語り、多くの人達へのメッセージでもあり、未来へつながる遺産でもある。私はこの施主の深い思いと、建物がもつ社会性および敷地がもっている過去から培われてきた豊かな伝承を大切に、より発展的に結合させることを目標に、日々の設計に携わっている。

設計されていく建物には、その建物に相応しい個性が創作されなければならないが、それは自然で素直なものが、品格をもって人々の心に残っていく、よりよい方向と考えている。

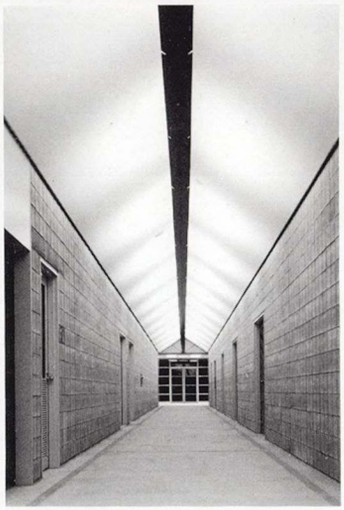
本来、現代建築はより卓越した技術力を使い、自由に創作をし、個性的に成り得たはずが、中身のない個性に埋没して、逆に個性が感じられない悲しい状況下にある。今後より一層、建物の本来あるべき姿を探求し、この世に生を受けた建物が、より美しく映えるように努めたいと考えている。



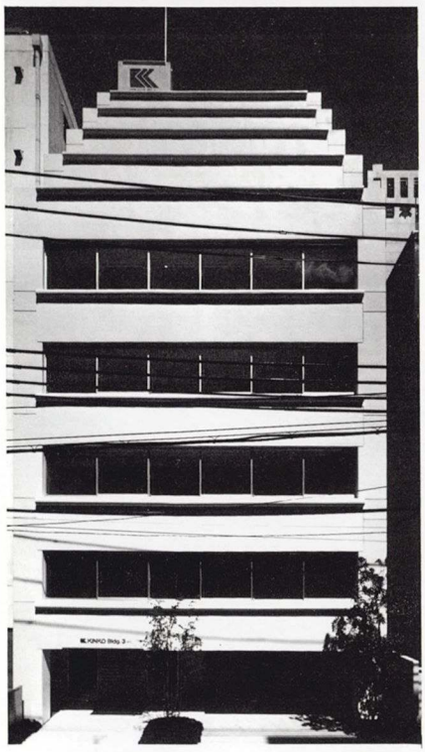


甲南大学新10号館





瓦町錦江ビル



甲南大学六甲運動施設





茨　木　　保

生年月日　昭和25年９月27日
最終学歴　昭和49年東北大学建築学科卒業
業務経歴　竹中工務店大阪本店設計部
（昭和49年入社現在に至る）
担当作品　サイコー箕面社屋
法隆寺寺務所
成晃ひかり幼稚園
甲南大学新10号館
瓦町錦江ビル
梅花学園茨木国語館
甲南大学六甲運動施設
摂津ひかり幼稚園

すいせんのことば　　上原正行

慎重かつ粘り強さが、彼の身上である。時として頑固なまで自己主張をする。要するに、設計が好きで、一途なのである。それで建築主の心をとらえる。企画から竣工まで、コンセプトのはっきりしたワークを心掛け、トータル・デザインを追求してきた。

青年技術者としてのことば　多様な価値観の交錯する今の社会にあって、建築もまた、よって立つ基盤を見失ったかのように急速に変化し、変質してきている。この情況の中で建築に携わる者の、社会に果たすべき役割も大きなものとなってきている。建築がつくる側とつくられる側との相剋の過程で具体的な形を整えるに従って、建築一個にとどまらない社会との関わり合いをもつからである。
かつての西欧の町並みや日本の民家集落のように長い歴史の過程で、つくる側とつくられる側との間の暗黙の了解の上に成り立った時代は望むべくもなく、それゆえに、私を含むつくる側自身が建築を通してどのような環境づくりをしようとしているのかの明確な価値基準こそが常に問われるべきものとなっている。
今日の混迷を深める都市的情況の中で、次の世代へどのような環境を引き継いでゆくのか、問い続けつつ、価値あるものを創り出してゆきたいと思う。







総合病院　水島協同病院

1看護単位を、4隅の柱のみで支えた無柱の大空間建築。
将来の設備的要求に対応できるＩＳＳ（設備階）の設置。

所在地　倉敷市水島南春日町1番1号
敷地面積　9,134.26㎡
建築面積　3,574.75㎡
延床面積　13,562.33㎡

構　造　鉄骨造一部鉄骨・鉄筋コンクリート造
規　模　地下1階、地上6階、塔屋1階
病床数　320床
工　期　昭和59年5月31日～昭和60年10月15日

所在地　神戸市中央区港島中町6丁目
設計監理　神戸市住宅局営繕部、昭和設計
敷地面積　10,365㎡
建築面積　7,739㎡
延床面積　13,287㎡
構　造　鉄骨造および鉄筋コンクリート造、球継手立体トラス(パンタドームシステム)
規　模　地下1階、地上3階
工　期　昭和57年12月～昭和59年7月

ワールド記念ホール



所在地　松江市西津田8丁目18－2
敷地面積　8,928.37㎡
建築面積　4,389.46㎡
延床面積　12,268.45㎡
構　造　鉄骨造
規　模　地上6階、塔屋1階
病床数　333床
工　期　昭和60年12月1日～昭和61年11月30日

総合病院　松江生協病院





沼　田　亘

生年月日　昭和26年10月3日
学　歴　昭和50年神戸大学工学部建築学科卒業
業　歴　昭和50年昭和設計入社
作品経歴
昭和　大阪市南港ポートタウン住宅
52年度　神戸市立新勤労会館
53年度　姫路市花の北市民広場
55年度　大阪市住宅供給公社佃団地
57年度　ワールド記念ホール
　神戸医療生協協同歯科
58年度　総合病院水島協同病院
59年度　川口診療所
　総合病院松江生協病院
60年度　六甲アイランド都市機能用地分譲事業計画（コンペ）

すいせんのことば　宮田照久

当社の大架構建築の実務のホープの沼田君は、基本コンセプトから設計監理まで一貫してそのイメージを追求し、そのねばり強さ、堅実さは群を抜くものがある。とくに彼が中心になってまとめた大架構医療施設群は、施主から、その発想と誠意に心から感謝されている。

青年技術者としてのことば　私は建築にたずさわる人間の一人として、常々社会の変化に、とくに最近の技術革新の波、経済情勢の変化に対して、目を向ける必要があると考えています。世の中の激しい変化により、最近では建物の完成後すぐに陳腐化が始まり、場合によれば20年前後で、建て替えということも珍しくないようです。このような状況の中、われわれ建築家は建築物の社会的ストックとしての価値をより高めるよう常に努力する必要があると考えています。そのためには社会の変化に対してフレキシブルに対応できる建築としてのシステムが必要です。
私自身、過去数例の医療施設の設計において、大架構建築をその解決法として展開してきましたが、まだ十分とはいえません。今後大架構建築のシステムとしての完成度をより高めることと同時に、建築単体に限らず、より複合した、より都市的スケールのものへの展開を目指していきたいと考えています。





薬事日報社ビル

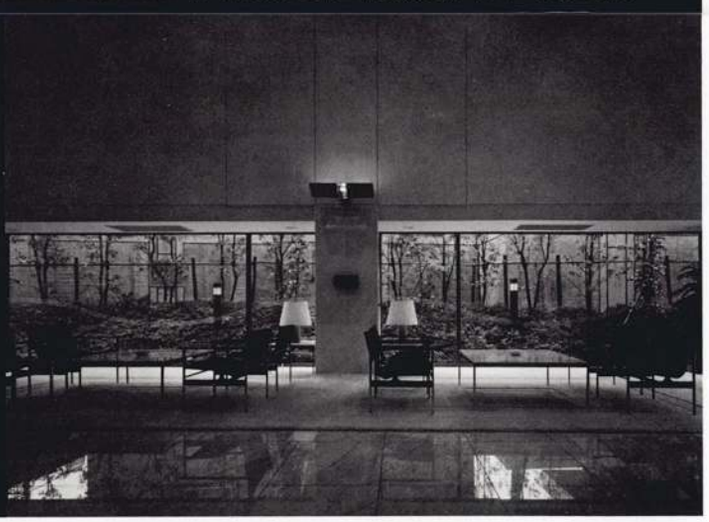
老人ホーム「光風苑」





（KDD）大阪地区職員厚生施設







矢　野　　茂

生年月日	昭和26年３月17日
最終学歴	昭和49年熊本大学工学部建築学科卒業
業　歴	昭和49年不動建設入社、現在に至る
設計経歴	房州ビル 新宿内藤ビル 鹿野山国際禅道場（増築工事） 不動建設健康保険組合伊東保養所 フドウパビルスハイツ 薬事日報社ビル 洋文社ビル 館山有料老人ホーム「光風苑」 （ＫＤＤ）大阪地区職員厚生施設

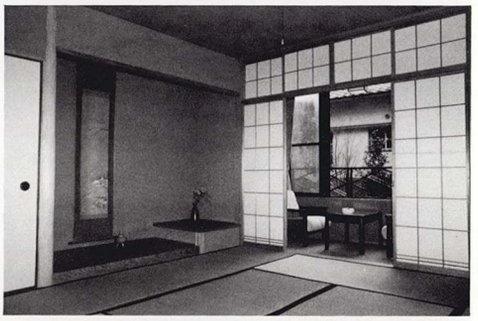
すいせんのことば　**西川幸之輔**

誠実でナイーブな人柄は、仲間内も客先にも好感を抱かせる。
常に前向きに、「まち」と「ひと」とのかかわりにおいて、建築を厳しく見つめる目を持って努力している姿勢を高く評価し、さらには、秘めたる将来へのポテンシャルに期待する。

青年技術者としてのことば　「建築の存在」は、「人の存在」と同じく、依って立つ社会状況の中で初めて成立する。したがって建築はそれ自身の中にそれぞれ独自の社会状況を持っている。すなわち「個即全」……。
「建築の設計」とは、「私とは何であるか？」という設問と同じく、「この建築とは何か？この社会状況の中でどういう位置を占め、どういう関係を持つのか？」という設問に対して答えを探っていく作業だと思います。そしてその個別の解を突きつめる中で、ある普遍性を持つ答えを見出し得た建築は、社会状況が変わろうとも時代を超えてその社会と強い関係を保ち存在し得ると思います。
私は「建築の設計」を通して社会参加してきましたが、さらに深い洞察力と豊かな感性および高い技術力を身につけることにより、一つひとつの建築に対して、より良い答えを出していきたいと考えています。







旅館清流

佐賀県嬉野市



レデンプトリスチン西都修道院

宮崎県

長崎信愛幼稚園遊戯棟

長崎市







平　畑　正　人

生年月日　昭和26年１月５日
最終学歴　近畿大学工学部建築学科卒業
業　　歴　昭和49年４月藤木工務店入社
　　昭和51年１月福岡支店設計課配属
作品経歴　聖ヨゼフの園老人ホーム
　　お告げのマリア修道会佐世保黙想の家
　　師イエズス修道女会福岡修道院
　　長崎信愛幼稚園
　　レデンプトリスチン西都修道院
　　旅館清流

すいせんのことば　　平岡寿人

当社の福岡支店は、受注工事の大半が設計施工であるが、平畑君はその中心的存在として多くの作品を手がけてきた。今回の仕事は、彼にとっても異色のものであるが、計画の初期から引き渡しまで施主と一体となって進め、これまでの研鑽と実力を示したものといえる。

青年技術者としてのことば　演劇にはシナリオ、演出、役者がいて観客がいる。建築にも同様の過程がある。難解なシナリオを演出家がもてあそび、一人の役者が自分の芸に酔いしれている姿ほど、その世界の玄人には滑稽に映るものである。瞬間芸術である演劇に比べ、建築は何世代にもわたって、その姿を人前に晒し評価を受ける。価値観が多様化する傾向のこの社会にあって、この大地をキャンバスにして時代の要求するもの、そしてつぎの時代に残る建築を。それは単に狭義の建築であってはならない。すべてを包括した文化を演出するゼネラリストとしての建築家が求められている……。と常々思いつつも、この忙しない情報化社会にあって、すべての物が増幅され、よほどのねばり強い平常心をもってしても自己喪失の危険に満ちあふれている。

いつの世にも「あれは思い召すままの普請であった」といわれる体力と能力を養いつつ。

第一生命新大阪ビルの構造設計

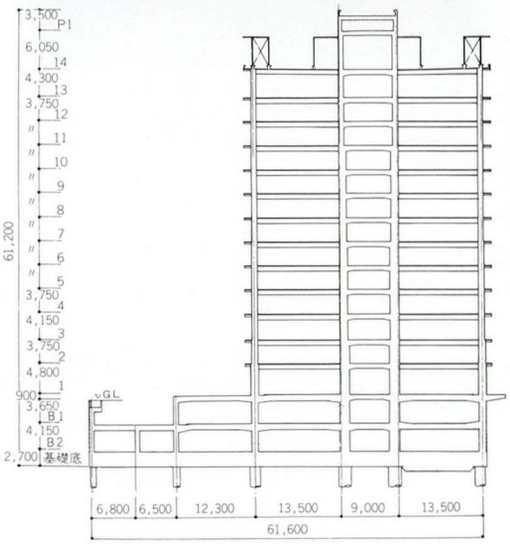


第一生命新大阪ビルは新幹線新大阪駅の北西300ｍに建つ、インテリジェントビルを指向した貸事務所ビルとして計画された。また総合設計の採用による緑豊かな公開空地が、良好な地域環境を形成し、高層化と特徴的な外装のカーテンウォールにより、新大阪地区におけるランドマークとして親しまれる建築を目指している。

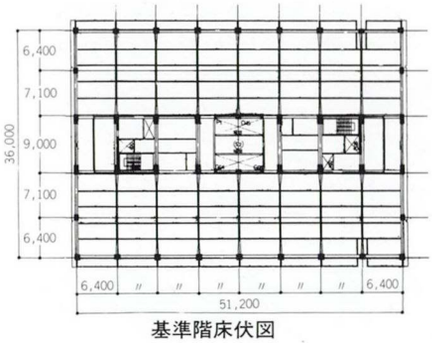
当建物の構造設計に際して、とくに配慮した事項――建物の軽量化、剛性のバランス、およびＳ大ばりの靱性の確保など――について、以下に述べる。

地上階では、平面計画上要求される壁の仕様決定〔RC壁（＝耐震壁）と軽量非耐力壁との区分〕が耐震設計上重要なポイントとなる。そこで、建物の軽量化と耐震壁の強度・剛性への寄与度とを勘案し、重量・剛性分布の平面・立面的バランスをも配慮してRC壁の配置計画を行った。そしてフロアーダクトの計画的配置・千鳥配筋の採用などによりスラブ厚を105㎜と比較的薄くし得たことと併せて、単位床面積当たりの地震荷重は基準階で0.75ｔ／㎡程度となり、建物の軽量化をなし得た。また地上階の偏心率および剛性率は桁行方向・張間方向ともおのおの0.02程度および0.8以上であり、平面および立面上バランスのよい剛性分布を賦与しえたものと考えている。事務室部分で軽量化および長スパン化のために採用したＳ大ばりには、合成ばりを用いているが、スラブハンチによりＳ大ばりの上フランジを補剛し、当該大ばりの強度剛性の安定確保と大ばり上スラブの収縮亀裂防止につとめた。またＳ大ばりの横補剛は、曲げモーメント勾配に応じて火打ち・小ばりを用いて行い、繰り返し逆対称曲げモーメント下において、変形能力を確保できるよう配慮した。なお、SRC柱・合成Ｓばりの弾塑性領域におけるはり応力伝達機構については、½供試体６体を用いて水平加力実験を行い、設計上採用した諸定数の妥当性に関する確認を行っている。

地下階は、剛強な地下外壁を主要耐震壁とするラーメン架構であるが、地下外壁の南側への偏在が避けられないため、地下階高層直下部分に１階と同程度の強度を賦与するとともに、水平力の低層部への移行に介在する１階スラブの強度確保に留意した。基礎ばりは、先端径3.5ｍの大口径杭を採用していることを考慮して、杭を弾性支点とした平面格子状モデルを用いて応力解析を行い、鉛直沈下量の差異による影響を部材断面に反映した。



張間方向軸組図



基準階床伏図

建築概要

所在地	大阪市淀川区西宮原町１－13－10	
規模	地下２階	地上14階　塔屋１階
主要用途	事務所	
面積	建築面積	2,050.04㎡
	延床面積	33,984.57㎡
高さ	軒高	GL＋57.70ｍ
	最高高さ	GL＋61.20ｍ
構造種別	地上	鉄骨鉄筋コンクリート（SRC）造、一部鉄骨(S)造
	地下	鉄筋コンクリート（RC）造一部SRC造
地業	場所打ちコンクリート拡底杭	
工期	昭和60年４月～昭和61年11月	



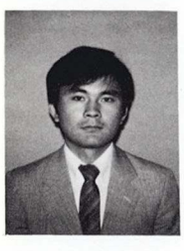


賢島竹友荘の構造設計

賢島の駅から志摩観光ホテルを左手に通りすぎ、海に突出した小丘や養殖筏の入江を眺めながら賢島大橋を渡ると、松林で埋め尽くされたなだらかな丘陵のリゾート地がひらけてくる。当建物は、このような環境の一画に設けられた保養所である。

建築計画上の設計主旨は、(1)スケールの小さい自然、起伏に富んだ地勢に合わせて、建物は小さく控え目である、(2)内部空間にも屋根の形状をそのまま表し、天井と壁とは連続的である、(3)妻面からやさしく溢れた光のグラデーションが、夕暮れ時に温かく来訪者を迎え入れてくれる、の３点に要約される。

構造設計に際しては、力学的秩序のなかで経済性・機能性を追求しつつ、これらの設計主旨を具体化できるように配慮した。すなわち、(1)に対しては、構造形式を壁式構造とすることにより、骨組のフォルムを〝控え目〟とするよう心掛けた。また、(2)・(3)に対しては、屋根を鉄骨造として軽量化を図り、軒の鼻先を臥梁として有効に活用することにより、内部にはり形を設けることなく、しかも妻面に一辺4.0ｍの三角形の開口と桁面に7.5ｍ幅の開口を取りつつ、13.0ｍ×7.9ｍの広い空間（ロビー）を構成した。なお、鉄骨ばりの変形抑止に採用したタイバーが、上記の空間に調和し、緊張感を与えているのも特徴的である。



山本　博

生年月日　昭和27年３月６日
最終学歴　昭和49年広島大学建築学科卒
業務経歴　昭和49年竹中工務店入社、大阪駅前第３ビル作業所を経て、大阪本店設計部構造課
作品経歴　第一生命新大阪ビル（工事中）
太陽神戸銀行六甲支店
赤穂中央病院、石崎医院
八尾第一生命ビルディング
賢島竹友荘、金光教姫路教会
関西テレビ蓬莱保養所
甲南ＫＮビル、クスダビル
高島屋工作所大阪工場
関西熱化学加古川工場第３期
神戸レジャーランド計画

すいせんのことば　**瀬川輝夫**

山本君の構造設計にみられる明解な歯切れの良さは、彼自身がこれまで分解・構築を重ねた「建築」に対する、力学的バランス感覚に裏付けられている。この感覚は、数値解析技術のめまぐるしい進展に伴う構造設計技術の内的変貌が著しい現在、より重要な資質と考える。

青年技術者としてのことば　東西の古い叡智が説く「人生に生くるや憂ひと共に生く」（荘子）ことの真実の中で、流れにまかせて亡びるにはあまりに未練があるがゆえに、流れ来たもののなにがしかにささやかながら自己の思い入れを注ぎ込み、流れ行くものに融合させることで、一生という刹那を生きた証しにしたいと願う。

建築はいつの時代においても社会の反映であり、ときには文化そのものであり、思い入れを注ぐのに余りある深さの淵が数多く澱んでいる。しかし文化・技術の多様化・高度化に伴い、今や個人ではその一つさえ流れに導くことが困難であり、まさに機能分化は社会の趨勢である。その中で、建築、とりわけ構造設計に携わる者として、建築とは本来分化したものの統合により成り立つことを念頭におくとともに、構造力学上の仮説なり構造設計上の挑戦・創造なりが、ある意図の実現のための文化的な根幹に関わる選択をしていることを認識し、大河の中で思い入れるべきは何か、を見据えていきたい。

クレームから標準化への道―技術チームでの活動―

高砂熱学工業大阪支店には、技術標準の作成や技術情報の収集、管理などを業務とする技術チームがある。最近まで私は、同チームに在籍し、事故の解析や技術的問題の解明などを通じて、そこから支店内の新しい技術標準の作成あるいは改訂を行っていくという業務に携わった。そこで作成された標準案は、技術部門の委員会で審議されたあと、技術員全員に通達されることになるのである。この期間に、単なる知識とは違った多くのことを学ぶ機会を得た。「ものごとに取り組む姿勢」、「事実を見極める眼」といったもので、その後の私の志向に大きな影響を及ぼした時期でもあった。

割れたガラスの謎

あるビルで、ファンコイルの冷温水管に取り付けられた流量設定器の、強化ガラスでできた透視窓が割れて、配管中の水が吹き出すという事故が発生した。

この話が持ち込まれたとき、私は、問題は「ガラスが割れたのはなぜか？」ということであるから、最初にやらなければならないのはガラスの特性をよく理解することであると考えた。そこで、社内のガラスに関する書籍を引っ張り出し、あるいは書店で購入してきて机の上に本の山を築いた。そしてガラスの理論からその特性、製造過程に至るまですべてに目を通した。それでもわからないところはガラスメーカに聞きに行ったりもした。こうしてでき上がったにわかガラス博士は、つぎにそのガラスの特性と事故現場の状況調査の結果から、ガラスの破壊要因を以下の項目に絞り込んだ。

(1)ガラスの耐圧強度不足
(2)非強化ガラスの使用
(3)ガラスの組成のばらつき
(4)ガラス内外面の温度差による応力
(5)ガラス面の傷による応力集中
(6)羽根車軸とガラスとの接触による集中荷重
(7)C－リングとガラスとの隙間に異物が混入したことによる集中荷重
(8)ウォータハンマによる衝撃荷重

この８項目について、理論解析あるいは実験によって徹底的に検討した。その結果、事故原因は、工事中にガラスに飛来した溶接スパッタがガラス表面を溶かし傷となり、水圧による応力がその傷の部分に集中し、長時間運転を重ねるうちに徐々にき裂が進行し、ついにそのき裂がガラス内部の引張応力層にまで及び、ガラスを破壊させたものであることを突き止めたのである。

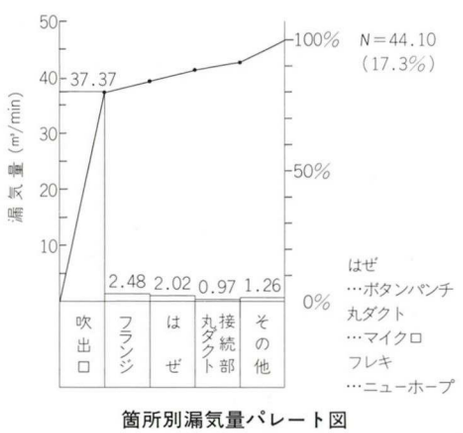
この流量設定器は、その後メーカーの手によって、ガラス面を保護するふたを取り付けるよう設計変更されることになった。

このように真の原因を捉えることができれば、比較的簡単に再発を防止することができるものである。多くの教訓を残してくれた事故であった。

ダクトリークに取り組む

配管から水が漏れると大きな被害を伴うことになるが、ダクトからわずかな空気が漏れても、今まで問題視されることはほとんどなかった。しかし、このダクトリークは、実は大きな問題をはらんでいるのである。せっかく空調された空気を捨ててしまうというロス、漏れる空気のことまで考慮して必要以上の送風をしなければならないというムダ、省エネルギーが叫ばれる昨今、このような問題を放っておくことはできなくなった。昭和50年代は、このダクトリークの問題がクローズアップされ、多くの人々がさまざまな研究をし、文献に報告した時期であった。しかしそれらのいずれも、フランジやはぜの種類による漏れ比較といった部分的な取り扱いにとどまり、「ではダクト系全体でいくら漏れるか」ということになると皆目雲をつかむような話であった。実はこの全体の漏気量こそ、重要な点なのである。実際にダクトリークによるロスがどの程度であり、いくら低減させる必要があるのか。またそのためのコストはいくらまでならペイするのか。こういったことがすべて全体の漏気量の把握に係っているのである。

そんなとき、ある客先の要請もあって計画されたのが、考えられるあらゆるダクトの部位、形状、種類についてその漏れを実験により把握し、その積み重ねによってダクト系全体の漏気量を明らかにしようという研究であった。



箇所別漏気量パレート図

実験の結果から、各部位ごとに静圧をパラメータにした漏気量算出式を見いだした。そして静圧計算との併用でダクト系の漏気量予測手法を確立し、計算の省力化のためパソコンソフトも開発した。その後、いくつかの現場で漏気量を計算したり検証して、驚くべきことがわかった。図は、漏気量計算結果の一例であるが、吹出口取り付け部からの漏れが他の部位に比べて圧倒的に多く、全体として漏気率は17.3%を示している。吹出口は、風量調整のためシャッタを絞ると内圧が上昇し、より多くの漏気を生ずるのである。はぜ、フランジの漏気をうんぬんするよりもまず、吹出口取り付け部の漏れの低減こそが望まれる。

こうしたことから、各現場で工夫して、さまざまな低漏気型吹出口が提案されてきている。投げかけた波紋の大きさに驚きながらも、問題点を明確にすることが、多くの改善を生み出す原点となることを強く感じた。

技術の時代に

設備業者の技術力とはいったい何かと思うことがある。

設計部門では、概略設計、概算見積金額などが建物用途などによって即座に答えられること、施工部門では、優れた工程管理と予算管理が、あたかも技術力であるといった風潮を感じるのは私だけであろうか。もちろん、これらも優れた技術力であることは言うまでもない。しかし、設備工事に携わっていると、毎日のように沸き起こってくる多くの未知の問題に直面する。その一つひとつに答えを出す余裕もなく無視したり、あるいは他者の見解をうのみにして進めてゆくことに苦痛を感じながらも、やむを得ないとあきらめている感がある。不幸にして大きな落とし穴にぶつかったとき、検討不足を後悔することがある。こんなとき、現場や設計の責任者は、何もかも自分で結論を出さなければならない、信頼できる相談相手がいないことにいらだちを感じる。これは技術力の欠如というよりも、組織力が欠如しているために起こる不幸だと思う。

先人の多くが同じように悩み、時には明解な結論を出し、時には失敗して設備工事の歴史が培われてきた。それならば、その教訓を後世に生かしてこそ、進歩があるのではなかろうか。まったく新たな問題に直面して、自力解決の余裕がないときバックアップすることのできる即応体制があれば、また過去の貴重な資料を管理して活用できるシステムがあれば、この技術の時代をいきる設備業者の大きな技術力となるに違いない。そしてこの組織こそがわが技術チームの目差す道であろう。



片　山　淳　一

生年月日　昭和29年３月19日
最終学歴　昭和49年３月国立高松工業高等専門学校卒業
業　　歴　昭和49年４月高砂熱学工業入社。
岡山営業所にて倉敷中央病院、岡山市民病院ほかの現場を経た後、昭和57年４月から大阪支店技術部に転勤、現在に至る。

すいせんのことば　　谷村富司

空調設備の技術者として、何が社会的に要求されているかを自覚し、旺盛なチャレンジ精神と情熱を持って仕事を成しとげてきた青年技術者である。

技術チーム在籍中は多くの技術的問題の解決に力を発揮し、その取り組み姿勢および成果は高く評価できるものである。

青年技術者のことば　今日の建築設備技術は、他の多くの工業技術と同じく、失敗を乗り越えて徐々に築き上げられてきた。事故や苦情を技術力向上の糧にできるか否かは、その真の原因や問題点をいかに正確に把握できるかにかかっている。ところが近年、建築設備の分野には、実に多くの技術が包含されるようになってきた。機械、化学、電気、電子等の工学はもちろん、芸術、医学などの分野に係ることもある。これらのすべてに精通することは個人の能力をもってしては到底為し得ぬ技である。しかし裏返せば、ひとつの問題に正面から取り組めば、その結果多くの知識が得られるということになる。そしてその知識が他の問題解決に非常に役立つことがある。自分にとり未知なる荒野を前に、立ちすくんでばかりいないで、少しでも前に踏み出してみよう。そんなひとりの小さな一歩が集まれば、技術を更なる高みに押し上げる大きな推進力となるに違いない。

大阪ターミナルビルの空調設備計画

大阪ターミナルビル（アクティ大阪）は、大阪駅改良事業の一環として計画され、百貨店、ホテルをはじめとし、多用途の商業施設を収容する大規模超高層複合ビルとして計画された。

空調機能としては、明らかに多様な負荷特性に対応すべき建物であり、商業施設として高グレードな空調環境を保持しつつ、省エネルギー効果の高い経済的空調システムとすることが大前提となった。

このような条件の中で、とくに計画上の課題となったのは、①商業施設としてのフロア構成、有効面積率の向上を極力図ること、②大容量熱源のエネルギー供給をできる限り一元化し、相互関連のある総合的熱源計画を達成すること、の２点である。

熱源計画

冷房総容量5000ＲＴに及ぶ熱源の計画に当たっては、機器単体の熱効率を上げるのみでなく、総合的なエネルギーの流れにのったエネルギーの有効利用を行い、総合的な熱効率を上げることを目標とした。負荷特性としては、空調冷房負荷と給湯加熱負荷に特徴があり、とくに給湯加熱熱源が定常的に必要とされることから、ランニングコストを検討の結果、都市ガス～蒸気～各用途へのエネルギー変換の流れを主体に構成した。

蒸気源としては、ガス焚炉筒煙管蒸気ボイラーを設置し、基幹熱源として蒸気供給を行い、蒸気二重効用吸収冷凍機、暖房用熱交換器により空調冷温水を、給湯貯湯式熱交換器により給湯温水を、供給する方式である。

百貨店系統の冷水供給にはその空調方式の特徴から４℃の冷水が必要であり、吸収冷凍機に対し電動ターボ冷凍機を直列設置することにより都市ガス、電気併用方式とし、その条件を満たした。

熱源系における熱回収についても、総合的熱効率の向上に欠かせないものであり、ホテルの給湯補助加熱源として蒸気ボイラーの排ガス熱回収、電動ターボ冷凍機冷却排熱の回収を行った。各熱回収温度のレベル的差異については、排ガス熱回収を貯湯槽加熱、ターボ冷凍機排熱はダブルコンデンサー型式として給湯補給水予熱に利用し、排熱温度に応じた熱回収の有効性の向上を図った。

空調計画

大阪梅田の一等地に建設される商業ビルとしては、大阪駅からの動線、地階低層階の商業的価値を有効に発揮し、超高層ビルとして設備系搬送ルートの均一化を図るなど、建築的付加価値を高める観点から、主要機械室を、中間階である18階に集約配置した。このため、耐震的検討、防振防音の技術的検討について十分な理論的、実験的検証を行った。

また、低層から中間層を占める百貨店店舗についても、売場面積の有効率を極力拡大することを目標とし、各階における設備スペースの低減、階高の節約による階数の増加によりフロア面積を拡大できる空調方式を新規に開発採用した。

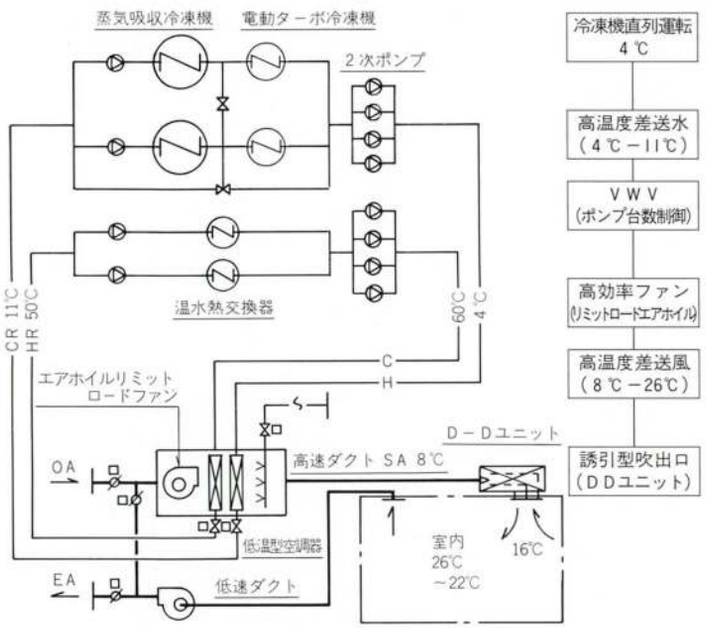
この方式の基本概念は、送風量をいかにして減らし、空調器サイズ、ダクトサイズを縮小できるかであり、従来方式の50%程度まで供給熱量を変えることなく給気風量を節減することができるかであった。

この方式は、吸収冷凍機と電動ターボ冷凍機の直列運転により４℃の低温冷水を供給し、各階の高静圧仕様空調器から８～10℃の低温冷却空気を高速送風して、誘引ユニット吹出口へ供給するものであり、誘引ユニット吹出口では高速給気ノズルからの一次空気により室内空気を誘引混合して室内へ給気する方式である。

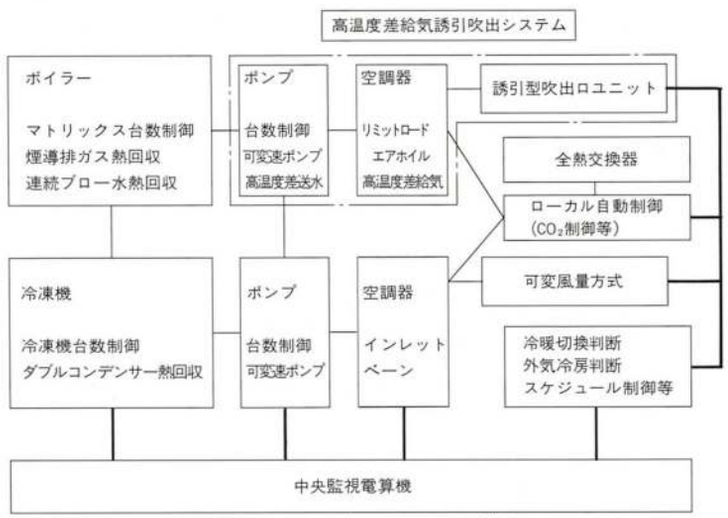
以上の方法により、従来方式に比べ10%程度の有効面積の拡大が可能となり、またシステム特性として、高温度差送水、高温度差送風による搬送系動力低減のメリットも付加できた。

将来への展望

建築設備計画においては、そのシステム的性能の向上により、建築総体の付加価値を高めるものでなくてはならない。この考え方はわずかではあるが大阪ターミナルビルで反映することができたと考えている。以降の計画設計においても、最近の先端技術をはじめとする技術的展開の中で、真に建築に必要とされるものは何かを見極め、努力してゆきたいと考えている。



誘引ユニットシステム



空調省エネルギーシステムの構成



山　田　祐　三

生年月日　昭和26年８月27日
最終学歴　早稲田大学大学院建設工学修士課程修了
業　　歴　昭和52年４月安井建築設計事務所入社、現在、大阪事務所設備部主任

作品経歴
サントリー中央研究所生物医薬研究所棟
御上会野洲病院
私学共済組合大阪ガーデンパレス
大阪ターミナルビル（アクティ大阪）
小野薬品福井安全性研究所
私学共済組合広島ガーデンパレス
大阪ガスコンピューターセンター
佐賀銀行事務センター

すいせんのことば　　紙　克行

研究熱心な彼は、たえず新しい設備システムを追求して止まないが、建築のこともよく知っている優秀な設備技術者である。一般の人に専門的な事柄を理解してもらうのは難しいことであるが、明解な説明でそれを得られるのも、確かな技術力がある証しであると思う。

青年技術者のことば　建築設備の計画に当たって必要とされる姿勢は、工学技術的にかたよることなく、建築を構成する有機的要素としてバランスのとれた設備計画を行うことであると考えている。エンジニアリング部門を担当するわれわれは、居住者の満足する最適環境を作り上げるために、時としてメカニックな力によるシステムへ傾斜しがちであるが、建築を自然と対立する概念としてとらえるのでなく、自然に包含される一要素としてのエコロジカルな環境形成の視点に立つことが大切であろう。

こうしたパッシブな基本をふまえ、建築の中のメカニカルシステムをより妥当なものとするため、消費されるエネルギーの多元的な利用を図るべく、システム構成を行う必要があると考えている。

今後とも計画設計にたずさわってゆくに当たり、こうした基本姿勢をもって、より幅広い視点から建築を見る目を養ってゆきたい。

新しいノンサポート工法―ハーフPC工法を中心に―

日本アイ・ビー・エム野洲工場第５期増築工事は、以下の特徴をもっている。

①ＳＲＣ造、地下１階、地上４階の建家で、タテ70ｍ、ヨコ90ｍ、高さ27ｍと規模が比較的大きく、とくに階高は最大11ｍと非常に高い。

②工期についても厳しく、階別の躯体完了期日の厳守が要求されており、従来の工法（前回工事の実績比較）ではとても工期の厳守が不可能と考えられた。

そこで、施工計画段階からの抜本的検討が必要となり、私が中心となって躯体工事の省力化についての計画、検討を実施した。

問題点を整理した結果、型枠支保工をなくすことによって、労力の低減と工期の短縮がはかれると確信するにいたり、その具体策について（コストの比較検討を含め）、当社技術スタッフとくり返し検討を重ねた。その結果、下記の工法を採用することに決定し、それが、今までに手がけなかった『新しいノンサポート工法』に結びついた。

すなわち、

①ＳＲＣ梁については、ＮＳ工法

②スラブについては、フラットデッキ工法

③ＲＣ小梁については、ハーフＰＣ工法

の組み合わせ工法である。（現設計は、大梁＝ＳＲＣ、スラブ＝ＲＣ、小梁＝ＲＣとなっている）

実施計画において、上記三工法を、それぞれ有機的に関連させ、とくに構造の安全性の確保および各工法の取り合い（大梁と小梁、小梁とスラブ）には、入念な検討を要した。

ＮＳ工法およびフラットデッキ工法おのおのの単独使用実績は多数あるので、今回は、ノンサポート工法の中で、ハーフＰＣ工法の実施計画について述べることにする。

ハーフＰＣ工法

ハーフＰＣ工法の実施計画は、当時施工中の計画書を参考に検討を進めた。

まず、本体鉄骨にかかる応力の計算、およびチェック等と平行して、当工法に付与すべき項目を整理した。すなわち、

①現場打ちコンクリートと一体化する。

②鉄骨と同時に取り付け可能とする（取り付け時補助サポートなし）。

③フラットデッキの取り付け方法に対応する。

④大梁の配筋型枠および小梁の上筋配筋を考慮する。

ことである。

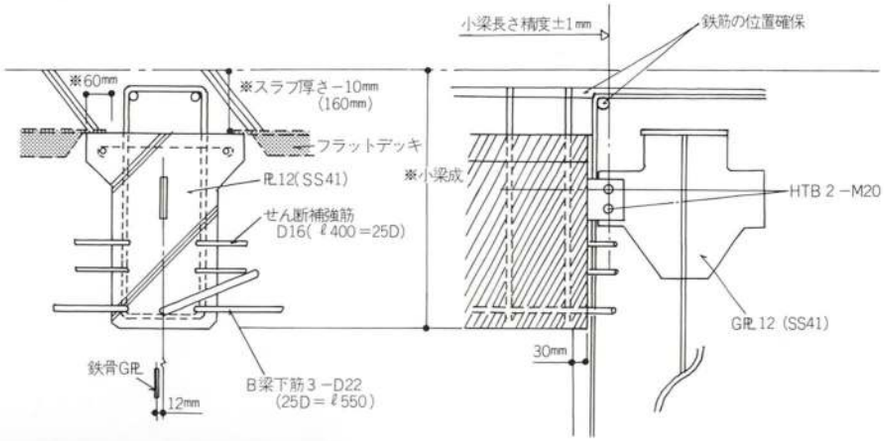
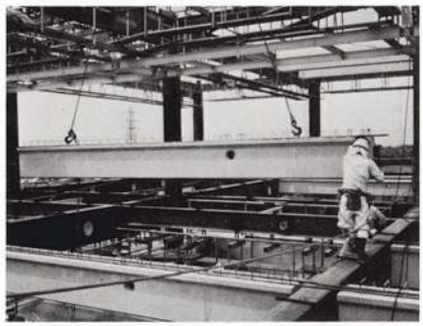


図１　ＰＣ小梁形状（左）と取り付け（右）



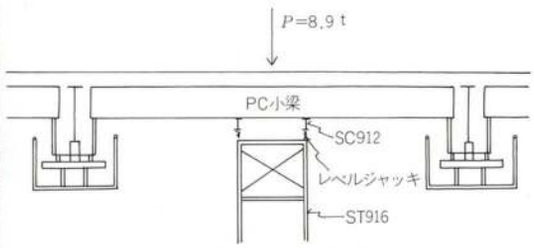


図２　補強サポート設置要領

これらは、つぎに述べる施工法で解決した。

(1)ＰＣ小梁形状および取り付け要領

●現場打ちコンクリートと一体化させるために

①**図１**のように、スラブ断面を残して製作し、現場にて上主筋配筋コンクリート打ちとする。

②大梁躯体内に30㎜くいこませる。

③下端主筋およびせん断補強筋を大梁内に25Ｄ定着させる。

●鉄骨と同時に取り付け可能とするために

①大梁鉄骨にＧL12㎜を取り付ける（小梁芯より一方向に12㎜偏芯させる）。

②小梁の製作において、長さ精度を±１㎜とする。

③コンクリート打設前までノンサポートとするため、ＧLの形状を決定し、取り付けボルトＨＴＢ２－Ｍ20とする。

●フラットデッキ取り付けを考慮して

①小梁のピッチ内法寸法－20㎜をデッキ長さとするために、図１のような形状にした。また、デッキの仮置きのとき、ズレ落下を防ぐため、デッキ受けを幅60㎜とする。

②スラブ厚確保のため、工場打設コンクリート高さを、スラブ厚－10㎜（デッキプレート端部厚み）とする。

●型枠、配筋を考慮して

①小梁の上端主筋の圧接箇所は、Ｓ.Ｔを上部開放型とする。

②小梁のピッチをできるかぎり統一し、梁側型枠の転用を考える。

③大梁主筋上部に小梁主筋が載るよう、鉄筋の位置を確保する。

(2)コンクリート打設時の補強要領

コンクリート打設時に、ＰＣ小梁のクラック防止のため、中央にＳＭ枠組足場を架構し、現場打設コンクリートの設計基準強度を確認後、解体する。

ノンサポート工法の標準化に向けて

こうして決定した実施要領は、工事現業スタッフと工程等を含めて細部にわたって検討を重ね、鉄骨、仮設等各工事へ展開し、P.D.C.A.をくり返し実践し、『ノンサポート工法』として完成したのである。その成果は、当初の目標をすべてクリアーし、無事完工することができた。

今後、労働年齢の高齢化に伴い、躯体工事における若い労働力はますます減少すると考えられる。労力の低減と工期の短縮の具体策として、ＳＲＣ造における、ＮＳ、ハーフＰＣ小梁、フラットデッキ各工法を一体化したノンサポート工法を標準化し、その水平展開を図りたいと考える。



倉　　良　廣

生年月日　昭和28年６月15日
最終学歴　国立明石工業高等専門学校
業　　歴　昭和49年４月清水建設入社、建築部配属、現在に至る

主な工事歴
刀根山グリーンハイツ（大阪）
京屋旅館（京都）
東大寺整肢園（奈良）
安曇川ショッパーズプラザ（滋賀）
三菱自工独身寮（滋賀）
建隆ビル（神戸）
ＩＢＭ野洲工場（滋賀）

すいせんのことば　　**松田僖男**

大規模で階高の高い４階建の電算機の工場を、超突貫で施工するに当たり、倉君は、ハーフＰＣ小梁による無支保工工法を関係者に提案し、実現させた。その結果、すべてにわたり立派な成果をあげた。彼の持つ技術力、行動力、熱意によるもので、優秀な青年技術者として推せんする。

青年技術者としてのことば　建物は、施主、設計者のニーズに基づき実現された半永久的構造物で、私にとっては人生の軌跡です。建築は、施主、設計者のニーズを把握し、それを実現させるために、事前の周到な計画と日々の造り込み活動を行い、建物の品質を保証し、構築することで、私にとっては人生そのものです。

そして今回の経験は、安全で合理的な工法への挑戦であり、総合技術力の結集がいかに重要であるかということ、問題意識をもって創意、工夫を重ねることの大切さを、私に教えてくれました。

今後も積極的に合理化に取り組み、自分の軌跡を楽しくながめられるよう、全力を尽くしたいと思います。

コンディスクレーンの開発と実用化

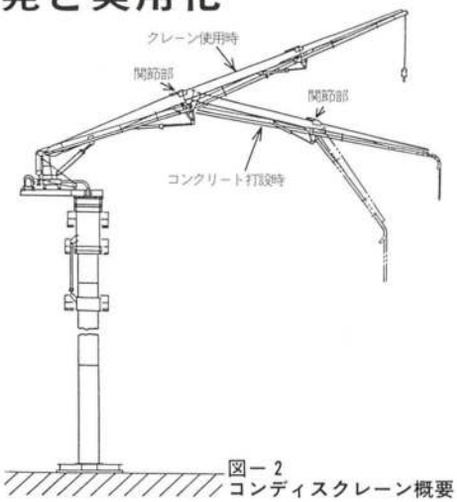
建築工事におけるコンクリート打設工事では、生コンクリートの運搬・打ち込み方法としてコンクリートポンプによる配管圧送方式が一般的である。このコンクリートポンプ工法は、生コンクリートが吐出される筒先ホースを人力で振り廻しながら打設するため、重作業であること、および配筋検査完了後の鉄筋上での作業のため、これを乱すおそれがある、などが従来よりの問題点としてあげられてきた。また一方では、コンクリート打設時は現場に設置した揚重クレーンが休止する状態となり、非効率的であることもひとつの問題点であった。

これらの現状をふまえて、〝コンクリート配給機能を有するクレーン〟の開発を行い、完成した機械が、「コンディスクレーン」である。「コンディス」とは「コンクリートディストリビュータ」を略したものである。（以下コンディスクレーンと呼ぶ）

本機は、主として傾斜ジブクレーンとして使用し、コンクリート打設時はブームが３段屈曲するコンクリートディストリビュータとなる。なおコンディスクレーンは開発段階で工業所有権（特許１件、実案10件、外国出願２カ国）を出願申請している。

開発のねらい

図－１に示すように、社会ニーズ面からは建設労働者の賃金上昇が顕著で、高齢化に伴う技能労働者不足があげられる。これらに対応するため、コンクリート工事の自動化による合理化をねらいとした。社内ニーズ面からは、コンクリート打設時の配筋の乱れを防止して、構造体品質の確保および定置式クレーンの付加価値を高めることにより、生産性の向上を図ることをねらいとした。



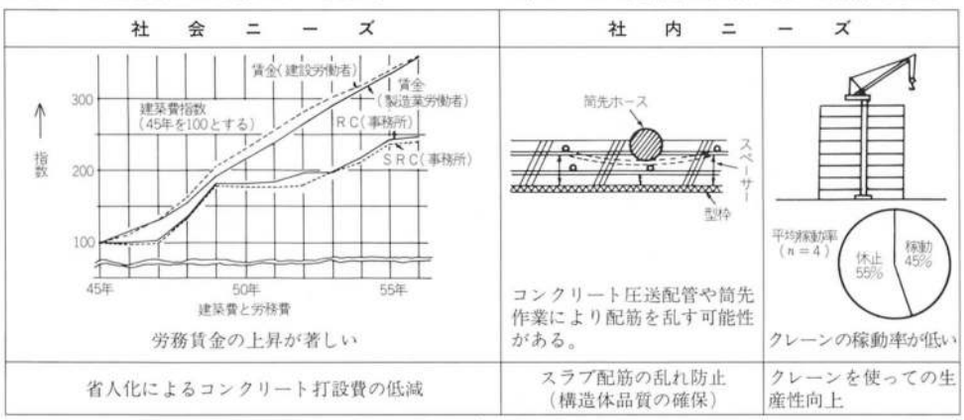
図－２
コンディスクレーン概要

開発機の概要

コンディスクレーンの概要を**図－２**に示す。この機械は、通常作業時は、主に傾斜ジブクレーンとして鉄筋・型枠材料等の資材の揚重用として使用し、コンクリート打設時は、ブームが屈曲してコンクリートディストリビュータとなる。

クレーンとしての使用時には、屈曲用の油圧シリンダーに負荷が働かないよう、関接部に固定ピンを設けている。このピンの脱着はすべて地上操作で可能であり、固定ピンがセットされていない場合は、クレーンとして作動しない安全機構を設けている。

ディストリビュータとして使用する場合のコンクリート圧送管（125φ）を、マスト内部およびブームに配管しているため、現場ではコンクリートポンプ車からマスト下部までの水平配管を行うだけで、直ちにコンクリート打設作業を行うことができる。またコンクリート打設時はクレーンとして使用しないため、クレーンフックが不要になるので、ブームの先端部に収納固定する機構とした。



図－１　ニーズと開発のねらい



写真－１　クレーンとしての使用状況



写真－２　ディストリビュータとしての使用状況

なお、クレーン使用時の状態からコンクリート打設時の状態への変更は10分程度で可能であり、従来のコンクリートポンプ工法が配管の設置に数時間を要するのに対し、非常に効率の良い作業が可能となった。

工事における実用化

実工事への適用として、コンディスクレーンは開発以後すでに６件の工事で使用し、その特長を十分に生かし、生産性の向上に寄与している。

コンディスクレーンを使用する場合のポイントを下記に示す。

①使用に適する工事はＲＣ構造、あるいはＳＲＣ構造の積層工法である。

②コンクリート打設範囲、揚重範囲を広くとるため、建物内部に設置するのが有効である。

③スラブのレベル差が多い建物のコンクリート打設に有効である。

④設置方法は、支持杭上、基礎梁上、仮設受梁上（Ｈ鋼）など、どのような設置方法も可能である。

なお、Ａ工事（図書館・ＲＣ・４Ｆ）におけるコンディスクレーン使用状況を**写真－１、２**に示す。

おわりに

コンディスクレーンは、建築工事においてすでに定着しつつあり、その生産性向上に寄与している。しかしながら、まだ改良すべき問題および新しいニーズへの課題等、実施工をふまえて、より完成度の高いものを目指してゆきたい。



中　西　一　吉

生年月日　昭和28年７月16日
最終学歴　昭和49年奈良工業高等専門学校機械学科卒業
業　歴　昭和49年４月竹中工務店入社
昭和50年４月大阪本店製作所
昭和51年４月生産本部
昭和53年７月技術研究所
昭和55年７月大阪本店技術部
昭和58年10月大阪本店作業所
昭和61年６月大阪本店技術部

すいせんのことば　古田周三

建設業にとって、生産性向上と労働環境の改善は重要な課題であり、建設工事のロボット化に対するニーズは非常に高いものがある。

日頃から研究熱心な彼は、建設の機械化・自動化に意欲的に取り組み、ロボット化技術の開発と実用化に大きな実績をあげた。

青年技術者としてのことば　最近の建築工事は、短工期、大型化、労働環境の改善等により機械化施工のウエイトは非常に高くなっており、その生産性を左右するものである。また、建設機械の種類、能力は非常に多岐になり、ハード技術の向上は著しいものがある。とくにメカトロニクスの発展は、これに大きく貢献している。

しかし現状での生産性は必ずしも満足すべきものではなく、多様な建築工事において建設労働者への依存は依然として高いものがある。将来的には高齢化社会への移行によりますます労働者不足が予測されるため、機械化施工による生産性の向上が不可欠となってくる。

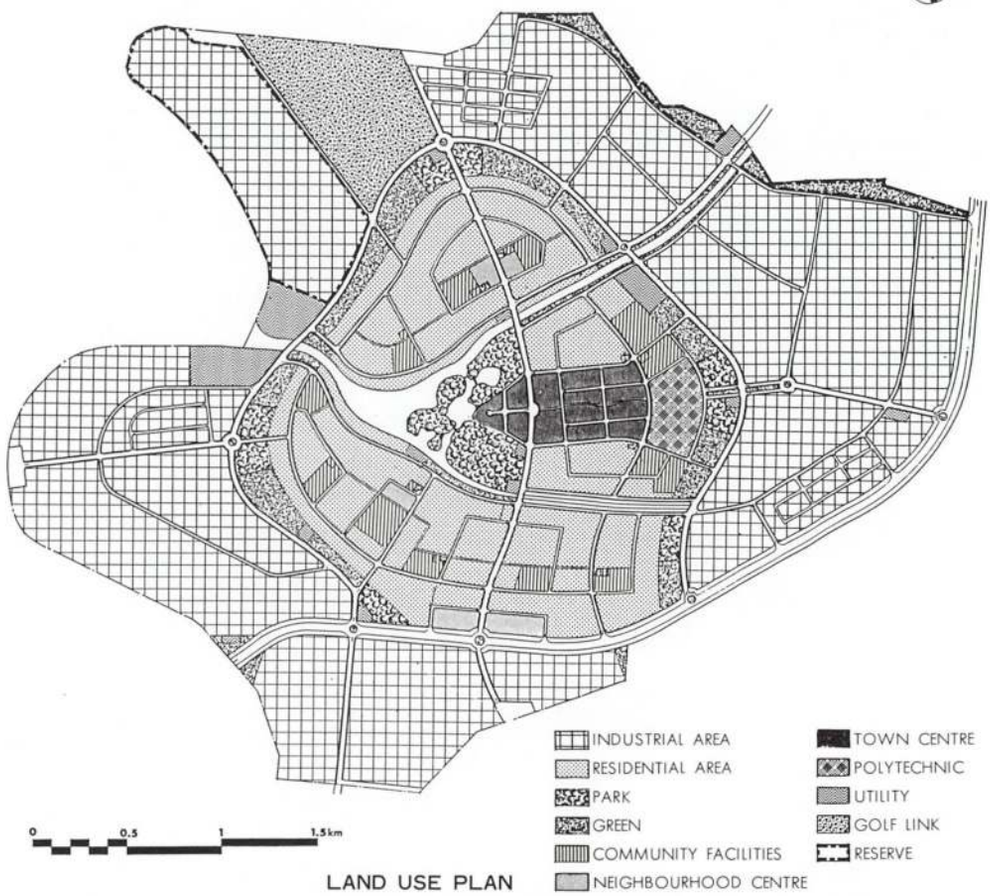
このような背景の中で、将来指向として顕在化しているニーズを、適確に把握して技術開発してゆくのが急務であり、重要な課題と考える。また潜在ニーズの発掘についても、常に社会情勢を注視しておく必要性を感じる。そしてこれらを具現化するための技術の研鑽に努めたいと思う。

インダストリアルパーク計画(マレーシア)

この計画は1985年、マレーシアの経済開発公団から委託を受け策定したもので、工業および住宅の大規模複合開発の基本計画である。このうち第1期分470haの実施設計を現在、現地で作成中である。

計画作成に際しては、ここに概要を紹介する土地利用、施設計画の立案のほか、産業雇用構造の分析と誘致業種の選定等、ソフトの分野の調査もおこなっている。

マレーシアは、Look to East の政策をとっており、わが国の都市開発の計画技術や制度等の移入に熱心である。



LAND USE PLAN

計画理念

- 産業および居住の新しい拠点建設
- 快適な都市生活を可能とする施設・サービスの充実
- すぐれた都市景観の形成
- 技術者育成のセンター
- 変化に対応できる計画

土地利用

総面積	1,257ha	
工業地	515.5ha	41.0%
住宅地	150.5	12.0
公園、オープンスペース	195.4	15.5
地区センター(商業・サービス)	24.5	1.9
道路	289.0	23.0
コミュニティ施設	38.9	3.1
高等教育施設	11.2	0.9
都市設備、その他	32.0	2.6

人口

50,000人（住宅総戸数10,000戸）

主要施設

- 小学校×10
- 中学校×2
- 保育所×8
- 工業技術専門学校
- 地区商業センター
- 行政センター（市役所、警察）
- 郵便局、電話局
- 医療センター
- 文化ホール、図書館
- スポーツセンター（体育館、プール）
- ゴルフコース（9ホール）
- モスク、教会、寺院
- 中央公園
- 近隣公園×8
- 小公園×7
- バッファグリーン





金澤成保

昭和26年5月29日東京都に生まれる
50年10月　イタリア・ヴェネツィア建築大学留学
51年9月　Instituto Universitario di Architettura di Venezia（文部省国際学生交換制度）
53年3月　京都大学大学院修士課程修了
53年4月　日建設計大阪本社入社、都市計画部員

〈主な業歴〉
- 大阪市都市再開発基本計画
- ミナミ地区整備計画
- 道路空間の有効利用に関する調査
- 高見フローラルタウン計画
- インダストリアルパーク計画(マレーシア)
- みおつくしプロムナード

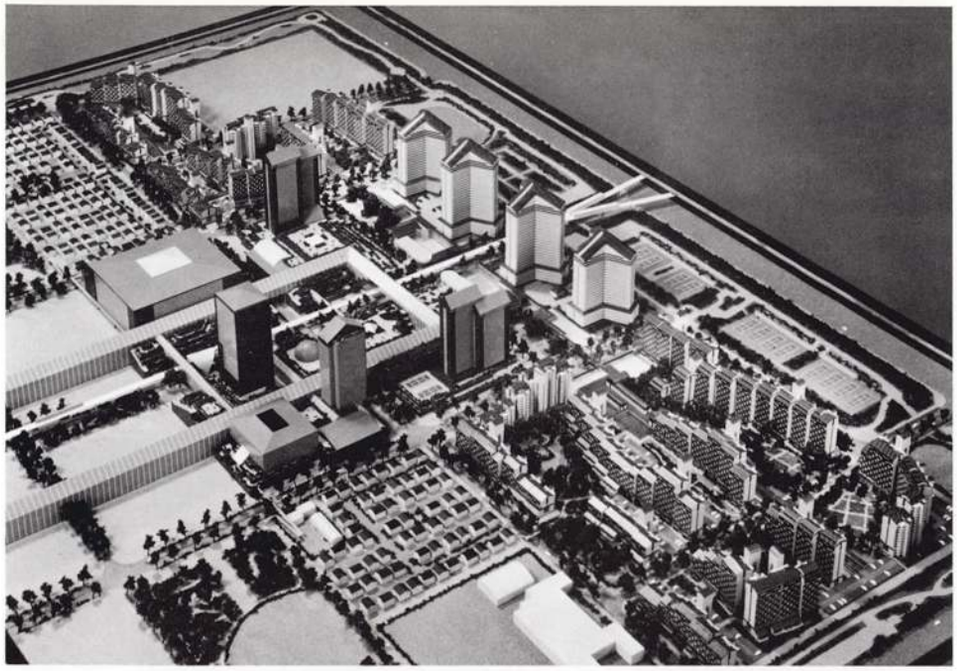
すいせんのことば　山本清

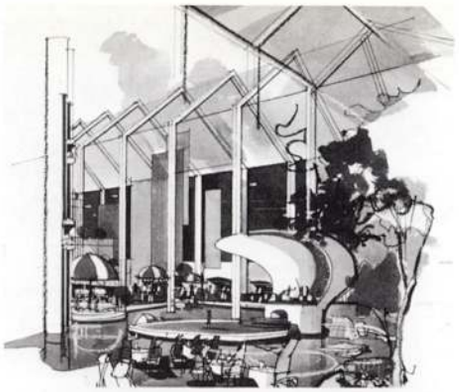
地域整備から都市デザインまでの多様な業務を通じ、幅広い見識、綿密な分析力、鋭い直観力で優れた業績を残している。また、論文・著作の発表、各種委員会など若いながら幅広く活発な活動を行っており、都市計画界のオピニオンリーダーとして将来が期待される。

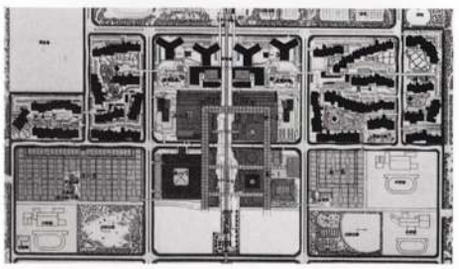
青年技術者としてのことば　これからは、海上都市あるいは水辺都市の建設と、拠点開発の時代といえる。前者は、港湾機能の再編と膨大な都市廃棄物の埋め立てに伴い、今後とも都市開発の大きな課題となる。後者は、国鉄遊休地の処分や民間資本の都市開発へのシフトがきっかけとなり、都心および都心周辺の再開発が活発化すると考えられる。

そうなると、既存の都市集積さらに地域間の競合が進み、都市構造の大きな変化も余儀なくされるだろう。副都心の形成や中枢管理機能の分散化・分極化がおこなわれ、オフィスや住宅のいわゆるインテリジェント化が進展する。

こうした中で、プランナーには総合的な視野と先見性に加え、構想企画力、調整能力がますます期待されるようになるだろう。今後、高機能でかつ人間的な都市空間の形成が、都市開発の目標とならねばならないと考える。







六甲アイランド都市機能用地分譲事業計画

基本コンセプト　人間生活の永遠のテーマである《衣》・《食》から、「ファッション文化」と「食文化」を二つの大きな要素とし、魅力のある都市施設〝ヒューマンファシリティー〟と常に活気にあふれかつフレキシブルな街であるための〝街づくりシステム〟を備える。

ヒューマンファシリティー　人々の出会いを演出するシティモール、散策を楽しめるリバーサイドウォーク。住宅ゾーンに関しては、奇をてらう実験都市ではなく、安らぎのある街づくりを目指す。さらにコミュニティーの創造のためのクリエイトセンターによる快適な生活のバックアップを行う。

街づくりシステム　都市空間の自由な交換、伸展を可能にし、六甲アイランド全体への拡がりのあるシティモール・ニューメディアシステムによる高度情報ネットワーク網、島内住民の健康管理システム・セキュリティシステム。低層～超高層までのバランスのとれた住戸構成。

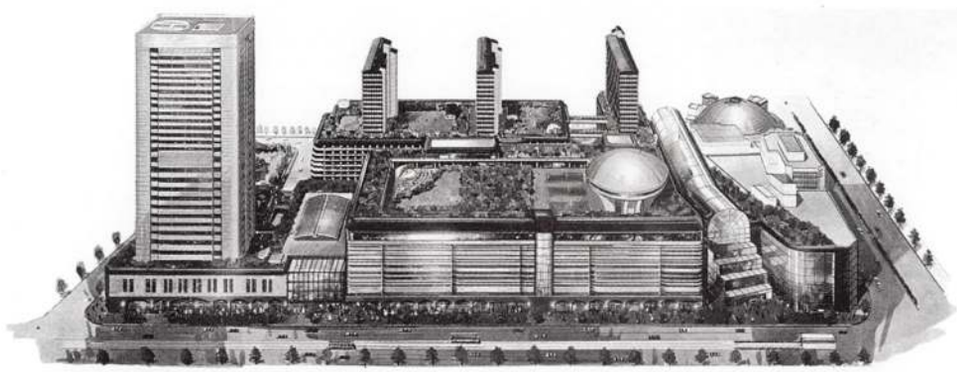
食文化　あらゆる食生活の提案を行う食文化商業ゾーンおよびタウンファーム、四季の実のなる街路樹などをもつ住宅ゾーン。

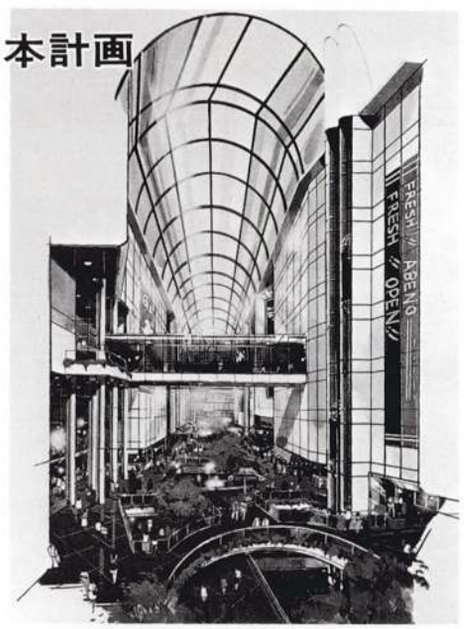
ファッション文化　世界の最先端のファッション卸売の集積地となるマーケットセンターの誘致とファッション関連のコンベンション、エキジビジョンの可能なシティホテルおよび住居部分については、親しみやすいデザインの住棟、オープンスペースを設ける。

阿倍野地区第２種市街地再開発事業Ａブロック基本計画

Ａブロックまちづくりの考え方

- 若者が集まり、広く市民が楽しめ、買い物ができ、憩えるまち。
- 新しい文化が育ち、また国際的なつながりが生まれるまち。
- ユニークで特色ある建築形態、都市空間の創造による新時代に即応したまち。
- 建物の不燃化、道路・公園等のオープンスペースの確保により、安全で快適な人間性豊かなまち。







松　島　　清

生年月日　昭和26年５月26日
学　歴　昭和53年大阪市立大学大学院修士課程建築学修了
業　歴　昭和54年昭和設計入社
作品経歴

昭和54年	三宮駅東地区Ｂゾーン市街地再開発事業（基本計画）
昭和55年	天理教湯神分教会教職員住宅（設計）
昭和56年～	阿倍野地区第２種市街地再開発事業Ａブロック（基本計画）およびＡ２、Ａ３棟（基本設計）
昭和58年	
昭和57年	高槻グリーンプラザ周辺整備計画
昭和58年	三宮駅東地区Ｂゾーン旭通３丁目再開発住宅（設計）
昭和59年	総合病院松江生協病院（設計）
昭和60年	六甲アイランド都市機能用地分譲事業計画（コンペ）

すいせんのことば　三宗司郎

幅広い知識を持った、計画面における当社の中心的存在の松島君は、都市計画、都市デザイン、都市再開発の分野において卓抜した能力を発揮している。阿倍野再開発、六甲アイランドコンペ等において、その斬新な考え方は、着実に実現に向かい、その要の存在である。

青年技術者としてのことば　建築をもっと愛そう、街をもっと愛そう、そして空間（特化した意味をもつ場）をもっと愛そう――そうすれば、どんな街もきっとすばらしい街になるでしょう。すなわち住む人の誇りとなる、暖かみのある、個性溢れる街であり、一度は訪れたくなる街です。今、このような街づくりが求められています。現在、街には種々雑多な建築が溢れています。見て楽しい建築も多くあります。しかしいくら見かけのよい機能的な建築や街であっても、そこに良い空間がなければ、決して本来的な魅力あるものとは言えません。そんな建築や街が多過ぎます。今私達に課せられた役割は、いかに良い空間を社会に提案できるかということです。良い空間は一朝一夕には生まれません。計画者が全力を尽くしてはじめて獲得できるものと確信しています。私はこれからも、このテーマとの取り組みの中で、その実現に向けて、微力ながら力を発揮できるよう精進していきたいと思っております。

耐震設計分野における一連のプログラム開発

当社電算室は、一般のコンピュータ部門に比べてきわめて現業部門に近く、建築とコンピュータの境界領域にあって、さまざまなテーマに取り組んでいる。したがって、私の業務内容も単にプログラム開発にとどまらず、設計者が種々のプログラムを利用するときのサポートや、開発などで得た経験や知識を活かす形での構造設計への参画など、広範囲にわたっている。

図1は、このような環境のもとでこれまでに開発し運用してきた耐震設計分野のプログラム群であり、耐震設計の手順に位置づけて示したものである。プログラム開発に際しては、適用範囲の広汎化、計算コストの低廉化、入力の簡便化、出力の視覚化などの点についてとくに留意した。

また、当社プログラムは自社の設計業務での利用のほか、社外ユーザーの利用をも前提として、市中計算センターを通じ積極的に公開している。ここでは、その代表的な2例について概要を紹介する。

弾塑性地震応答解析プログラム「SR030」

単列型(串団子型)モデルと任意型モデルの2種類の質点系モデルを対象とした地震応答解析プログラムである。とくに、せん断ばねと軸方向ばねで構成される2次元の任意型モデルは〝多点拘束機能〟を用いて幅広いモデル化が可能であり、建物の全体曲げ変形や地盤との相互作用の影響なども容易に考慮できる。**図2**は、基礎のロッキングとスウエイモードを考慮するために、各節点間の水平・鉛直自由度を多点拘束機能によって関連づけたモデル化の一例である。

保有水平耐力計算プログラム「SFN01」

建築基準法施行令に定められた保有水平耐力の検討を行うプログラムである。開発当初研究レベルの塑性解析法は多数存在したが、実際の建物に適用可能な実用的計算法の提案はほぼ皆無であった。このような状況のもとで、略算法は計算コストの面で有利であるが、建物の適用範囲に大きな制約があるため、あえて精算法を採用し、まず線形計画法による極限解析プログラム「SFN01－PART1」を開発した。引き続き、PART1ではぜい性部材が扱えないことや、弾塑性応答解析において建物の崩壊に至るまでの詳細な情報（層の復元力特性や部材の塑性率）が必要であるなどの理由から、増分解析プログラム「SFN01－PART2」を開発した。

両プログラムとも、解析コストの低廉化などいくつかの困難な問題に遭遇したが、たび重なる改善によって実用可能となった。とくにPART2は、設計レベルの許容範囲内で解析精度を粗くすることにより、大規模な建物でも十分処理可能となり、この分野の設計の道具として実用性の高いプログラムである。**図3**に、PART2によって出力された崩壊メカニズム図の一例を示す。

今後の課題

コンピュータの高性能化や解析技術の進歩によって、耐震設計の分野もさまざまな検討が行えるようになった。しかし、一方では地震荷重の設定や安全性の判定基準など本質的な部分が未だあいまいである。このような状況にあって、終局強度と変形能力にもとづいて、建物のこわれ方を設計者が定める「終局強度設計法」や、構造物の耐力や荷重の不確かさを確率論的手法で扱う「荷重・耐力係数法」などが提案されている。

今後、これらの設計法にも目を向けつつ、簡便さの中にも真の安全性が実感できる構造設計を理想として、システムづくりを進めていきたい。

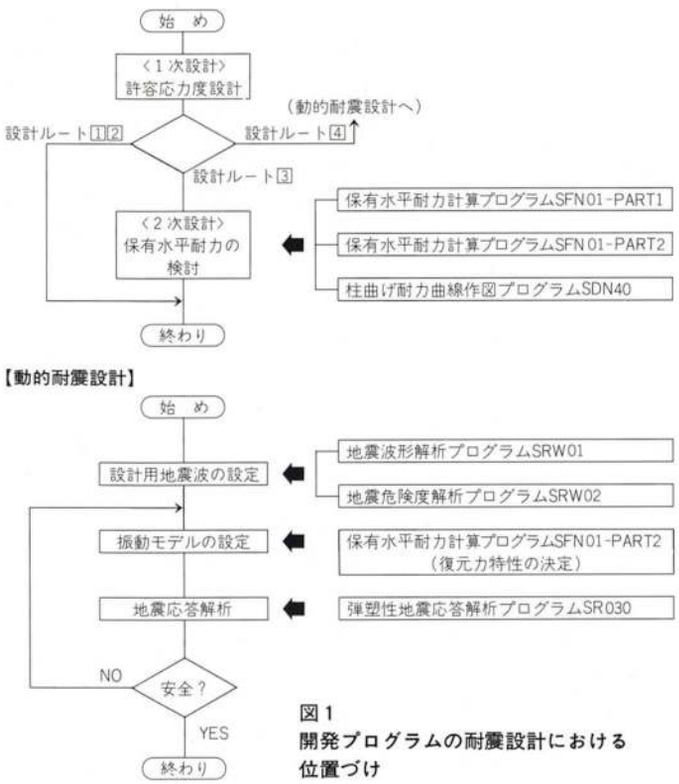


図1
開発プログラムの耐震設計における位置づけ

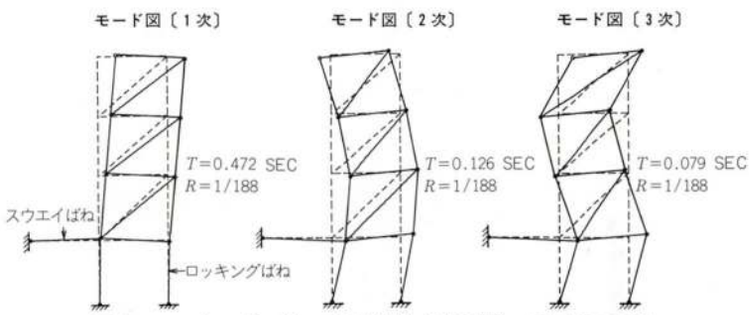


図2　ロッキングスウエイを考慮した任意型モデル(SR030)

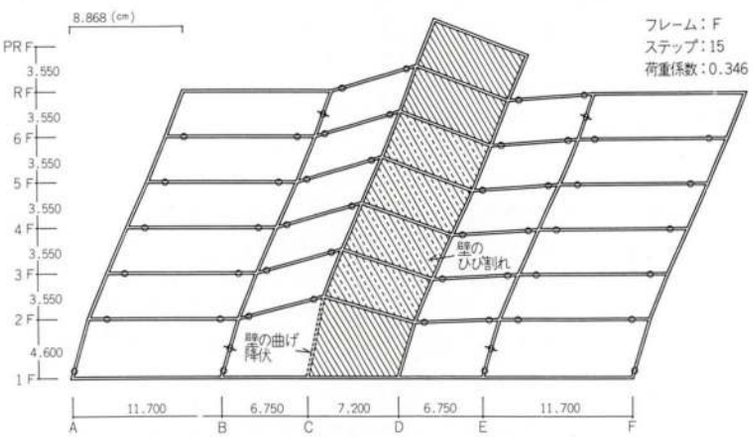


図3　崩壊メカニズム図(SFN01－PART2)



中　川　佳　久

生年月日　昭和26年8月11日
最終学歴　昭和51年大阪大学大学院工学研究科建築工学修士課程修了
業　歴　昭和51年安井建築設計事務所入社、構造部、昭和53年電算室、現在に至る

作品歴
- プログラム開発：多質点弾塑性地震応答解析プログラム、保有水平耐力計算プログラム(その1、その2)など
- 構造設計支援：太陽神戸銀行神戸本部ビル、広島市西区民文化センターなど
- 発表論文："保有水平耐力計算法に関する一考察"、建築学会、1985、"大スパン床ばりの振動性状の検討"、IBM REVIEW、1985など

すいせんのことば　**横山誠一**

中川君は、構造設計とコンピュータの境界領域を担当し、プログラムの開発のみならず、これらを用いて多くの高層ビルの設計に参画してきた。構造設計技術が広範に高度化してゆく時代にあって、欠かせない強力なパートナーであり、新しいタイプの構造家である。

青年技術者としてのことば　構造設計におけるコンピュータ利用は、黎明期、発展期を経て、構造設計や構造図の作成など、日常の設計業務に幅広く定着しつつある。しかし設計者の立場から現在のコンピュータ利用を見ると、コンピュータの得意とする部分の機械化に重点がおかれてきたこともあって、設計の道具としてはいまだ不十分な点も多い。また一方では、プログラムのブラックボックス化や誤用など、コンピュータ利用特有の脆弱性も確実に増大している。このような状況にあって、真のコンピュータリゼーションを推進していくには、コンピュータの可能性のかげにかくされたさまざまな問題点を直視するとともに、構造設計のあるべき姿について客観的に見つめなおす必要があるように思う。

今後、これらの点を念頭において構造設計における電算化ニーズの実現に努力し、社会のスピード化や技術革新にも十分に対応しうるフレキシブルなコンピュータ利用体制の確立をめざしたい。

◀「建築と社会」誌バックナンバー一覧【昭和42年～61年】

バックナンバーがそろっております。購入ご希望の方は日本建築協会まで(電話06－348－0635)お申し込み下さい。バックナンバーは特価以外¥ 750(58年4月号以降は¥ 950)です。なお、郵送料は実費いただきます。年間購読のお申し込みも応じます。

＊印は欠号

巻＼号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
昭和42年(48集)	＊国立劇場	建設機械	日本建築協会50周年記念号	社会と建築	都市と流通空間	住宅と設備	生産施設	モントリオール万博	建設資金	最近の外装	第14回青年建築家	建築と生命
昭和43年(49集)	都市生活	都市のいこいの場	＊50周年記念事業記録号	＊幼児施設	＊教育施設	＊医療施設	都市交通施設	都市供給処理施設	群としての住居	都市のアクセサリー	第15回青年技術者	新都市計画法の諸問題
昭和44年(50集)	＊建築産業の構造と方向	鉄筋コンクリート構造耐震設計の再検討	計画と住民－中部からの報告	老人とすまい＊	建築史の方向－現代によみがえる過去－	建築行政に期待するもの	転換しつつある住宅生産	＊解決をせまられる公害問題	＊海洋開発	＊民家の系譜と保存計画	＊第16回青年技術者	九州からの報告＊
昭和45年(51集)	現代社会とは何か	建築と安全	日本万国博と技術開発＊	設計のシステム化	グッドデザイン運動＊	高層建築問題	欧米における契約	建築家の課題と責任	＊工事計画	ディベロッパー	第17回青年技術者	山陽・山陰からの報告＊
昭和46年(52集)	住宅－60年代の総括と70年代の展望	都市エネルギと無公害化ビル	建築基準法	都市生活とみどり	＊企画と設計のプロセス	解体工学	都市と港湾	転換期のニュータウン	軟弱地盤＊と震災	変貌する建築生産	第18回青年技術者	自然とレジャ空間＊
昭和47年(53集)	冬季オリンピックと札幌	600号記念号	インテリアデザイン	＊都市交通問題	＊水利用	量産住宅の設備	＊一般号（桂中学）		都市住環境へのアプローチ	＊都市防災	第19回青年技術者	北陸の新建築
昭和48年(54集)	建築教育	＊泉北ニュータウンのコミュニティ施設	大阪大林ビルディング＊	レジャーと施設＊	大阪国際ビルディング＊	老人コミュニティ＊	住宅－建築家のすまい	＊新用途地域制と環境	構造と施工	仕上と材料	第20回青年技術者	ヨーロッパのまちづくり＊
昭和49年(55集)	歴史的環境保全	明日の建築はどうなるか	保養所作品	既成市街地の住宅地整備の方策	北摂ニュータウン計画	建築生産と流通機構の変容	ビルの省エネルギ化	高層プレハブ住宅の構造設計	＊みどり	＊屋根防水工事の失敗例とその対策	第21回青年技術者	ビル防災に関する12章
昭和50年(56集)	図書館	東海の新建築＊	＊インテリア	PC板を使用した工業化住宅	＊社会・建築・法	都市の景観と施設	建築とプレストレストコンクリート	生活排水処理施設のあり方	＊人間環境としてのターミナル	騒音対策と防音材料	第22回青年技術者	＊集合住宅の設備
昭和51年(57集)	証言'76－建築デザインの動向	＊建築基礎構造の問題点	医療施設	＊床工法と材料	＊建築防災と法	＊市街地整備	工場建築と設備	鉄骨構造のジョイント	集住体のハードとソフト	＊結露防止対策と断熱材料	第23回青年技術者	設備からみた建築の問題点
昭和52年(58集)	＊デザインの動向－部分と全体	兵庫県－その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号●ニュータウンの管理	コンクリートの品質管理と行政指導の方向	＊日影規制と法	＊身障者施設	照明設備	埋立地における構造問題－大阪南港と芦屋浜を例として	日本住宅公団と建築作品	ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ	建築における省エネルギー化	第24回青年技術者
昭和53年(59集)	デザインの動向－新旧のコントラスト	＊水	医療施設－病院建築と情報システム	外壁塗装材料	＊電波障害と建築	組合方式による集合住宅計画	住宅設備	新しい耐震設計	CAD－設計とコンピュータ	＊一般号	第25回青年技術者	ビル環境
昭和54年(60集)	＊転換期の再開発	大阪南港ポートタウン	商業空間	コンクリートのひびわれ	日影規制	ホテル建築と情報システム	＊農村施設の変貌	建物の終局強度の検討	庄内のまちづくり	80年代のインテリア	第26回青年技術者	建設業の労務事情
昭和55年(61集)	80年代の都市と建築－まちづくりの歴史と展望	＊●今後の省エネルギーの趨勢●建築金物	＊●最近の銀行建築●安井建築設計事務所作品集	住宅の耐久性	建築行政と法規	最近の防水工法	都市景観とアメニティ	屋内体育施設の設備	水ぎわのまちづくり	今後の外装吹付仕上材	●第27回青年技術者●転機にたつマンション・集合住宅	設計のための新耐震設計法
昭和56年(62集)	職能論	中国の論文－北京の都市計画	＊ポートピア'81	台所まわりの計画と設備	シーリング材の知識	災害と法－安全な環境をめざして	都市住宅－住まい手からの発想	●建築物と風－デザイナーのために●日建設計作品集	住宅・都市整備公団－関西における都市整備を中心とした新公団の役割	間仕切壁の性能評価	第28回青年技術者	障害者の暮らしやすい環境と設備
昭和57年(63集)	新たな商業空間の展開	省エネルギーと開口部	医療施設－地域医療と設備計画	近畿の地盤と地質	都市景観－まちなみ美観への誘い	大阪市庁舎（第1期）	音とホール建築	大スパン構造	＊昭和設計作品集	●絵本にみるすまいとまちづくり●オー・エム・ホテル日航ビル	●第29回青年技術者●地方の庁舎建築	風土・空気と人間
昭和58年(64集)	＊関西の建築文化を考える	マイコンの建築への利用	＊多様化する運動施設	建築と品質管理	計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	大阪駅とターミナルビル	維持管理と設備更新	東海の将来と文化を考える	オフィス・インテリアの変革	プレストレスト(鉄筋)コンクリート構造	●第30回青年技術者●大阪城国際文化スポーツホール	集合住宅と生活音
昭和59年(65集)	21世紀への関西－魅力あるまちづくりを問う――	関西の超高層ビル	ビルのリフレッシュ－内外装補修技術の現状と発展－	建設産業とロボット開発	住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間●京都駅南口再開発ビル（アバンティ）	消防設備のポイント	みどりとそれをとりまく人々	高齢化社会と生活空間	床の構工法	●第31回青年技術者●ディテールの思想	光応用システムと建築
昭和60年(66集)	大阪湾物語	東海の現在と近未来	●自由様式への道－建築家安井武雄●建築物の基礎を考える	情報化をめぐる建築・都市事情	ホール－それが生みだす文化－	建物の表情－最近の外壁材料	大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出●神戸研究学園都市	都市と健康スポーツ	●接合●日建設計作品	●村野藤吾の一断章●東海特集	第32回青年技術者
昭和61年(67集)	これからの住空間－都市型集合住宅にみる	屋根－そのデザインと素材	●現代デザイン－ポストモダニズム10年●これからの防水工法	インテリジェントビルの建築・設備計画	自治体営繕と公共建築	●建築防災と法●大阪市庁舎	21世紀の住居と設備	●開発●ツイン21	CAD－その応用と展開	オフィス空間の構成	第33回青年技術者	リニューアル



都市の新次元。

21世紀をめざす、不二建設のテーマです。

不二建設


東京本社


大阪本社

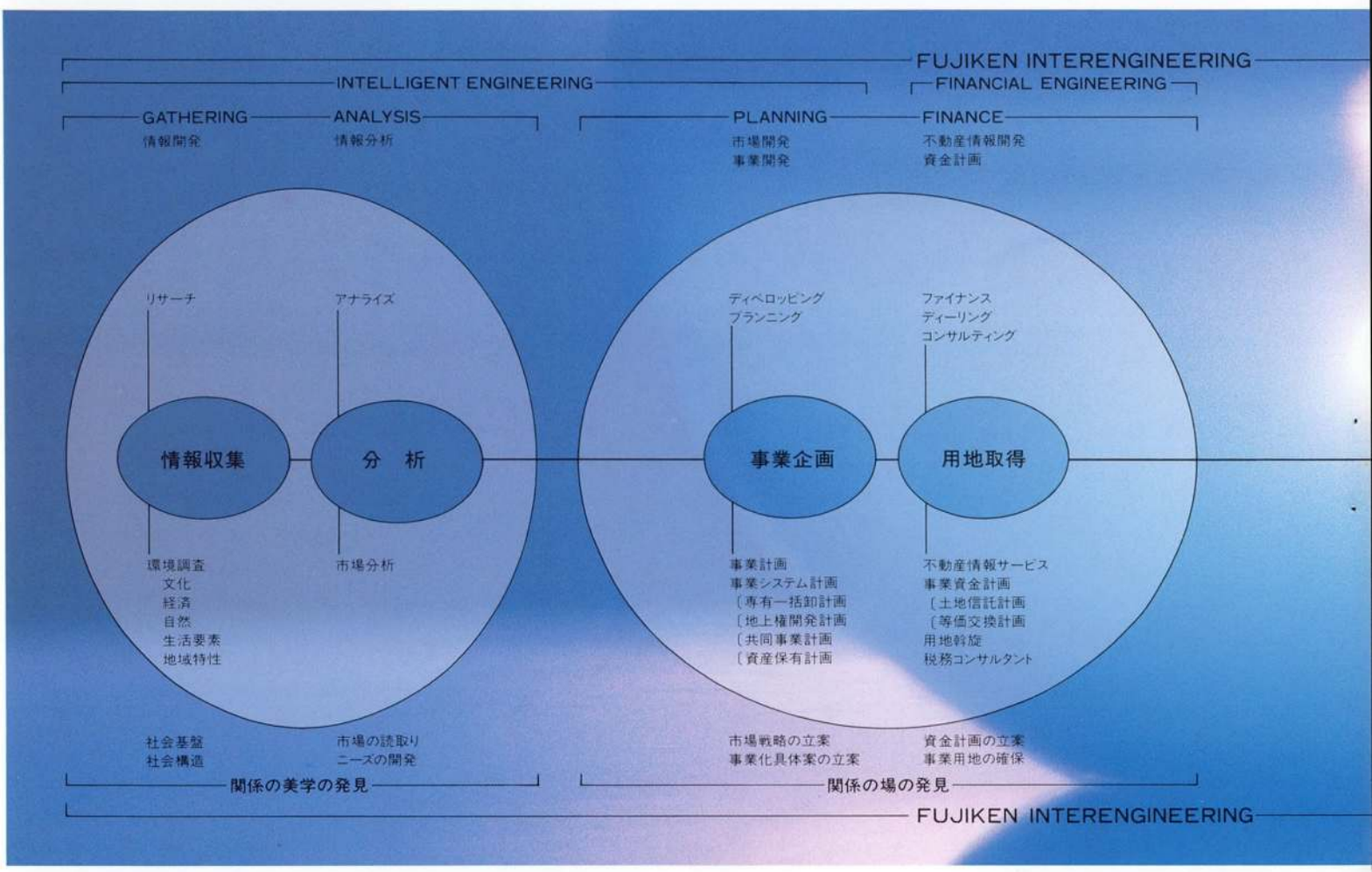
「価値ある空間づくり」をテーマに40年。

街を、都市を活性化し、いきいきとした生活の場面を通じて、時代の新しい価値を生みだしてゆく建築、そしてディベロップ事業を目指して、不二建設は、昭和21年創業以来40年「価値ある空間づくり」をテーマに建築に取り組み、その技術と真摯な姿勢に対して数多くの評価と、信頼を得てきた。

戦後、荒廃した都市の復興に積極的に取り組もうと東畑謙三建築設計事務所のスタッフを中心として設立された不二建設は、その技術力とバイタリティで今日の地位を築くに至った。創業以来、産みの親として、師として不二建設を見守ってきた東畑氏が、不二建設創業30年の記念に贈った、樹木の成長にたとえてその期待を語られた一文がある。

「最良の苗は、誰でもが手にすることができる。問題は植えつけてからである。必要不可欠の雨は天の恵みを待つしかない、運良く根づいても２、３年が最も手のかかる時である。手強い雑草や忍び寄る蔓草、これら密林化への誘惑を退け、良い肥料があれば苗は見事に成長するだろう。この時、徒らに伸びた枝を削ぎ払い、真っ直ぐに上に伸ばす。ここまでくると、自らの落ち葉と繁みによって、根元に腐葉土をつくり地味も肥えてくる。更に10年苗からして15年、やっと間引き出来るようになる。然し、この程度では角材でしかなく、30年してやっと林の態をなし、40年で初めて樹木としての価値がみえてくるのである。しかも、床材として使うには60年、柾板にいたっては100年と、まだまだ先は長い……。」

氏の言葉によれば、40年目を迎えた不二建設にとって、その真価が問われる年というわけだが、下の図に見えるように、単なるコンストラクチュアとしての業態を脱して、総合的な建設業としての地歩を固めつつある方針には、今後の60年を経て巨樹に成長しようとする意図が明確である。

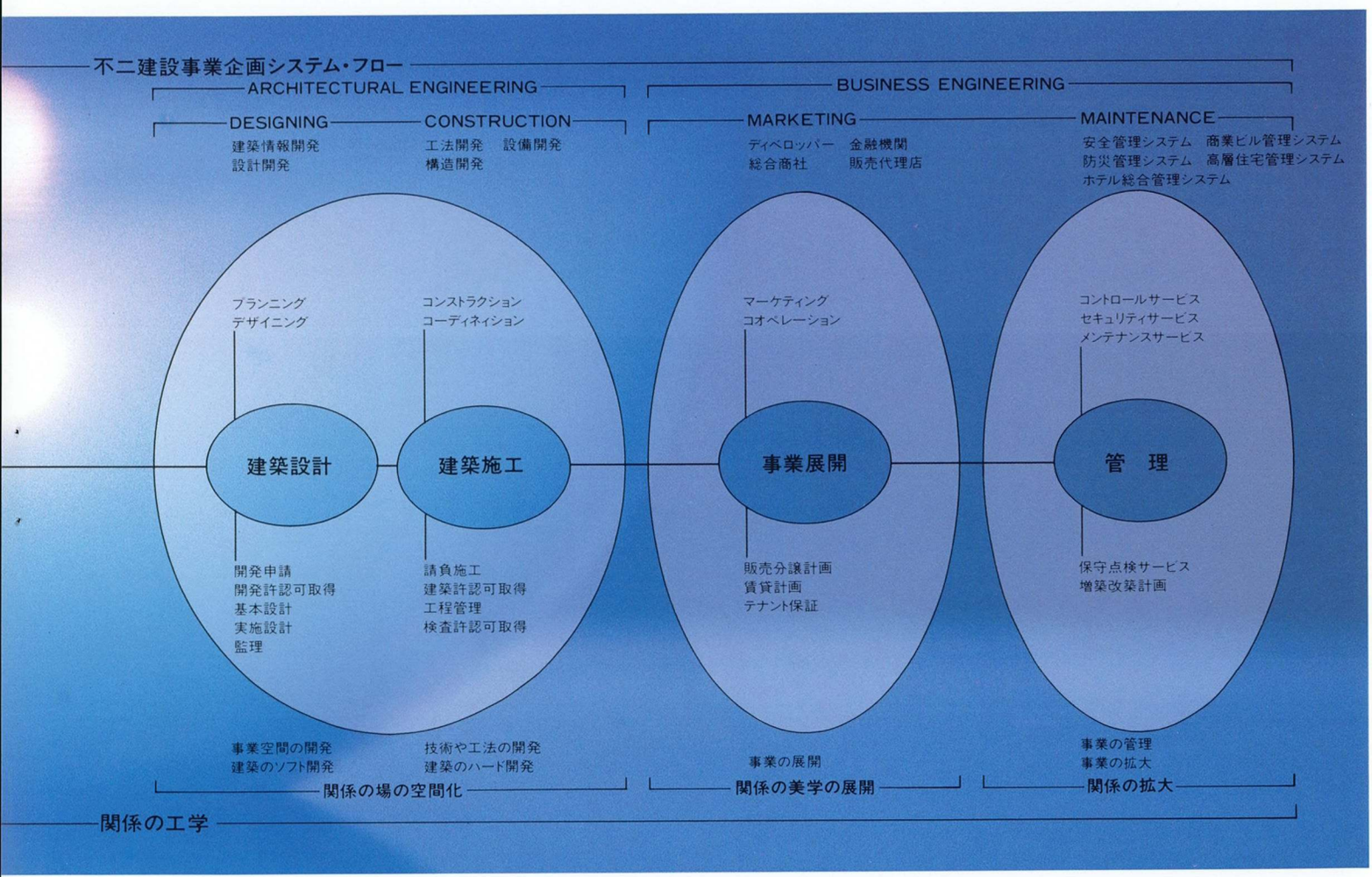


不二建設略年史

昭和21年
不二建設株式会社設立。資本金18万円。
初仕事は岩井産業三休橋倉庫新築工事を受注。創立当初は住宅の大量生産を研究、現在発達せるプレハブ先駆者として30数年前に発想実施したが、日本の経済状態の衰微のため中断。建設工事の本格化を計りつつ業務は進展した。
昭和24年
大阪知事登録(い)第424号を受ける。
昭和25年
本社事務所を大阪市西区江戸堀南通3-15へ移転。
姫路市に広畑出張所を開設。
昭和26年
大阪府知事認可登録(ろ)424号更新。白雪会発足。
資本金150万円に増資する。
昭和27年
建設大臣登録(ロ)第2738号に登録換。本格的ビル建設進む。
樫山ビル新築のため東京に進出。不動産を重視、宅地建物取引業を併設。大阪府知事認可①第1311号を受ける。
昭和28年
東京都新宿区淀橋に東京出張所を開設。大阪市西区江戸堀に本社新築。
昭和29年
資本金375万円に増資。名古屋、大垣に出張所を開設。
建設業者登録(ハ)第2738号に更新。
昭和30年
本社寮を新築。
昭和31年
東京出張所を支店に昇格。大阪府建築コンクール知事賞受賞。
資本金750万円に増資。創立10周年記念式典挙行。一級建築士事務所を併開設。(大阪府知事認可(イ)第343号)建設業者登録を(ニ)第2738号に更新。
昭和34年
職員は104名となる。
昭和35年
本社ビル新築。資本金1,500万円に増資。名古屋出張所新築。
昭和32年以降にかけてこの岩戸景気年を反映して、年間受注件数は急増した。建設業者登録を(ト)第2738号に更新。

昭和36年
本社を西区阿波座上通に新築移転。創立15周年記念式典を挙行。
資本金を3,000万円に増資。業務は急上昇を続け、年間受注も増大。
昭和37年
京都出張所を開設。建設業者登録を(チ)第2738号に更新。
昭和38年
資本金を6,000万円に増資。由良川畔に海の家を新築開設。
昭和39年
資本金8,400万円に増資。淀倉庫新設。
建設業者登録を(ヌ)第2738号に更新。
昭和40年
資本金を1億円に増資。みろく会発足。
昭和41年
資本金を1億450万円に増資。和光寮新築。
創立20周年記念式典を挙行。広栄建設を吸収合併し、不二建設広畑出張所夢前作業所とする。職員数は200名を突破する。建設業者登録を(ル)第2738号に更新。
昭和42年
名古屋出張所を支店に昇格。
和光寮新築。由良川畔海の家建替新築。忍ヶ池倉庫新築。
昭和43年
木曽山荘新築。建設業者登録を(ワ)第2738号に更新。
昭和44年
大分市に出張所開設。
昭和45年
資本金を1億2,000万円に増資。伊豆保養所新築。
建設業者登録を(カ)第2738号に更新。山口吾郎社長が全国建設業協会より受彰。
昭和46年
資本金を1億3,200万円に増資。更に同年10月、1億5,000万円に増資。東京高円寺寮、京都倉庫、新築。
創立25周年記念式典を挙行。
昭和47年
資本金を2億円に増資。白雪寮新築。
福岡市に博多出張所を開設。建設業者登録を許可に変更。
(特-47)第243号を受ける。
昭和48年
資本金を2億8,000万円に増資。本社にコンピューターを導入。事務合理化を計る。

由良川畔海の家増築。千代田寮完成。東浜寮完成。
昭和49年
資本金を5億円に増資。河口湖畔に保養所を開設。
千葉長沼倉庫完成。職員数300名を突破。
昭和50年
東京支店新社屋完成。東京支店にコンピューター導入。
仙台出張所、広島出張所、開設。
建設業者許可番号を(特-50)第243号に更新。
昭和51年
創立30周年記念式典挙行。
昭和52年
静岡出張所、開設。京都出張所、新社屋に移転。
琵琶湖西岸に松園保養所開設。
昭和53年
建設業者許可番号(特-53)第243号に更新。
昭和54年
東京支店を東京本社と改称し、大阪、東京の二本社制とする。
札幌出張所開設。名古屋支店、新社屋に移転。
博多出張所を福岡支店に昇格。
昭和55年
山口慎一郎代表取締役社長就任。
昭和56年
資本金を6億円に増資。創立35周年記念式典挙行。
TQCを導入。建設業者許可番号を(特-56)第243号に更新。
昭和57年
高層ビル建設に本格的に取組む…神戸ポートアイランド沖ジャヴァ・ファッション・ドミニアム。
昭和58年
商業ビルの自社開発に取組む…ジャスマック札幌弐番館ビル新築。
昭和59年
土木工事業の建設大臣許可を取得。
建設業者許可番号(特-59)第243号に更新。
昭和60年
商社ビル自社開発第二弾…ジャスマック札幌六番館ビル新築。
ジャヴァ・ファッション・ドミニアムが第4回神戸市建設文化賞を受賞。
昭和61年
資本金7億2,000万円に増資。
ロスアンゼルス支店開設、海外事業に進出する。
創立40周年式典挙行。

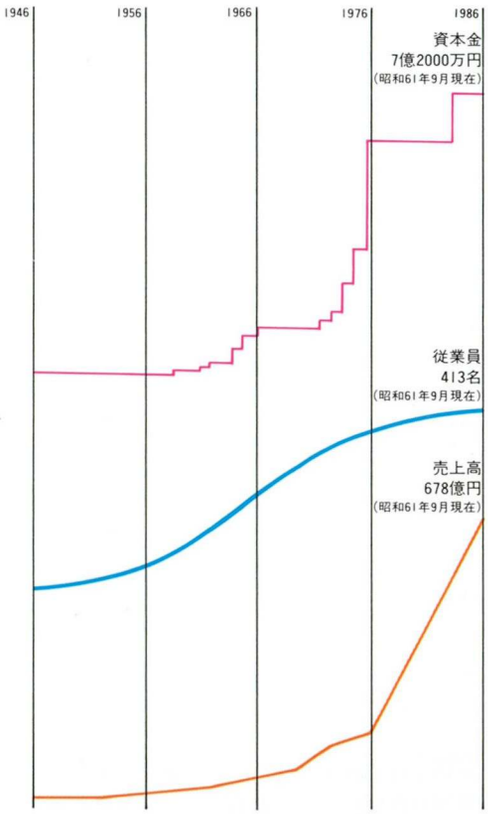


会社概要

商号——不二建設株式会社
設立——昭和21年11月16日
資本金——7億2000万円（昭和61年9月現在）
従業員——413名（昭和61年9月現在）
年間売上高——678億円（昭和61年9月現在）
営業内容——総合建設業〈建築・土木の設計・施工〉
（昭和61年9月現在）

業者許可・登録番号

特定建設業 建設大臣認可	（特-59）	第243号
宅地建物取引業 建設大臣免許	（7）	第236号
大阪府知事 1級建築士事務所	（ヌ）	第343号
東京都知事 1級建築士事務所		第14572号
愛知県知事 1級建築士事務所	（い）	第2678号
岐阜県知事 1級建築士事務所		第4059号
兵庫県知事 1級建築士事務所	（姫1）	第171号



ステップ・アップする企業理念。

不二建設が掲げる社訓のひとつに「一流の品位」という言葉がある。この「一流」を「最高級」と読むと、その成就が困難なものにも思えるが、「個性的な」とか「筋の通った」と捉えると、自らの背筋をのばした姿勢の良さが伝わってきて、好感が持たれる。
また、「流」という語は時間の概念を表現する言語でもあり、「時代を超えて在る」と言ったりすると、企業としての意気込みや、未来思考のダイナミズムさえ感じてくる。
いずれにしても、「時代を貫く一筋の流れ」というイメージは、時代の状況がいかに変化しても、強固な意志を持ったアクティビティを提供しながら、環境への柔軟な対応を計ろうとする不二建設の姿勢を的確に表現しているといえよう。
さらに「品位」とは「品質」を超えるものとして位置づけられる「本物の良さ」だといえるだろう。この言葉には、機能や雰囲気を優先して「質」を得るというような単元的な甘さではなく、複雑に入りまじる、さまざまな

大江ビル（仮称）不二建設大阪本社

この計画は、時代のニーズでもあるオフィスビルのインテリジェント化をテーマに不二建設が取り組んでいる共同オフィスビル計画である。計画地は、地下鉄谷町四丁目駅に隣接し、大阪官庁街の南端にあり、上町台地北西部の好条件に恵まれた砂礫層を支持地盤としている。
建築計画の骨子は、高度情報化社会の動向を検索し、そのニーズの具体化を計るものであり、その要件としての通信系、ビル管理系、セキュリティ、シェアードサービス等のシステマティックな構築を計画している。また、公開空地公園による自然環境のとりこみへのアイデア、高性能省エネガラスによるカーテンウォールがつくりだすダイナミックな造形など「人間の環境」としての要件をいかに昇華するかが検討されている。



「関係」の向上をはかるための技術が問われていることを示しているのではないのだろうか。最近の建築におけるトレンドは、いわばここに掲げられた「クオリティからディグニティへ」の時代を示しており、この文脈からいえば、不二建設が「品位」を標榜し、その技術が「ちょっと辛口」でありつづけてきたのは、先見の明というべきものだろう。

確立するか、ビビッドな「空間工学」。

41歳を迎えた不二建設が掲げるテーマが「都市の新次元」である。自然界の壮大な営みは別として、人間の意図が加えられた空間としての都市。この都市のあらゆる部分には、過去を想起すると同時に未来を予見させるさまざまな状況、要素を「発見」できるわけであり、つまり時代の変容がもたらす、社会の変化対応を情報的に捕捉した時、変貌する都市を予測し得るということである。しかし、情報を集積しただけでは役には立たない。不二建設では、どのようなシステムでこの情報を有効化しようとしているのだろうか。

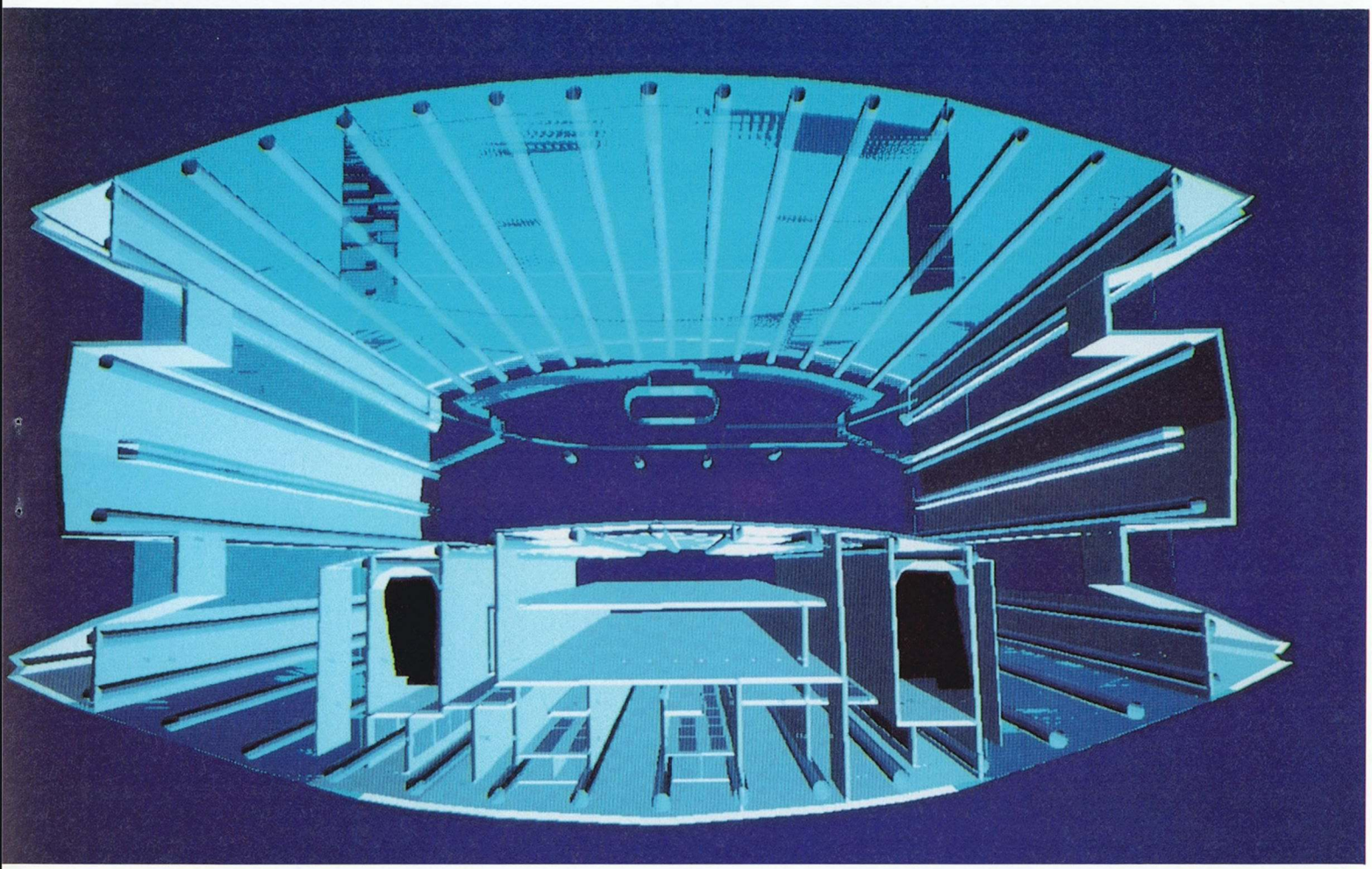
不二建設は情報に価値を生むための「インテリジェント・エンジニアリング」をはじめとするさまざまなエンジニアリングのシステマティックなオペレーションに「関係の工学」というキーワードを基に取り組んでいる。
それは、この時代を形づくっている、あらゆる物質、精神、仕組み、自然、人間等々の相互の「関係」を軸として、それらのより良い状態をつくりだすための技術であり、風俗、習慣、流行、社会機構などにおける、それらの関わり合い方をテーマとする「空間づくりの工学」として考えられている。
「インテリジェント」「ファイナンス」「アーキテクチュア」「メンテナンス」等のエンジニアリングを一つのフローで動かすことから受身であった建設業を、積極的なディベロップメントを主体とする業態にぬりかえようとする意図がこれである。不二建設の「関係の工学＝インターエンジニアリング」がどのように開花するのか。都市が内包する「新次元」がどこまで発見されるか。21世紀の不二建設に期待すると同時に、興味つきない企業として注目したいところである。



1986年8月4日ロスアンゼルス支店開設
よりグローバルに成長しています。

不二建設ネットワーク

東京本社 東京都新宿区西新宿4-5-2 〒160
大阪本社 大阪市西区西本町3-1-9 〒550
札幌支店 札幌市中央区北一条西10-1-7
(第百生命札幌第2ビル5F) 〒060
名古屋支店 名古屋市東区泉1-21-35 〒461
福岡支店 福岡市博多区博多駅前2-1-1(福岡朝日ビル7F) 〒812
ロスアンゼルス支店 1127 WILSHIRE BOULEVARD, SUITE 938,
LOS ANGELES, CALIFORNIA 90017. U.S.A.
仙台出張所 仙台市花京院2-1-11
(三和プレシーザ仙台ビル6F) 〒980
静岡出張所 静岡市常磐町1-8-6(第百生命静岡ビル8F) 〒420
大垣出張所 大垣市歩行町2-57-1(第百生命大垣ビル3F) 〒503
京都出張所 京都市右京区西院東中水町7 〒615
広畑出張所 姫路市広畑区正門通り4-8 〒671-11
広島出張所 広島市中区東平塚町1-14
(第百生命広島ビル6F) 〒730
大分出張所 大分市東浜1-13-17 〒870





ジャヴァ・ファッション・ドミニアム本社

兵庫・神戸

竣工/昭和58年

基本・意匠/山口デザインルーム　設計/不二建設㈱一級建築士事務所

神戸市が造成した人工島―未来都市ポートアイランド。シンボリックな建物が並ぶインターナショナルスクエアー。その中央に位置するところにジャヴァ・ファッション・ドミニアムがある。ジャヴァグループの基本理念である愛(ラブダイム)、感性(センソリアム)、創造(プリメッジ)3つのコンセプトを、3つの円形タワーの組み合わせで表現したものである。
軸線との一致は低層部で対処し、市民広場及ポートライナー市民広場駅さらにアベニューよりの「見え」も考慮した。
市民広場側、アベニュー側に空間をとり商業スペースとして飲食―カフェテラス・レストラン、物販―ブティック(第二期)で構成している。
又、反対車道側にはテニスコート一面、駐車場(64台)を配し、植栽、ベイブにより景観を考慮しビルの圧迫感を取り除いている。
外壁は、型押タイル打込P.C.版、カーテンウォール及堅軸回転はめ殺し連窓は、熱遮断40%の熱線反射 ガラス両面コーティングを使用し、エアーコンディションの効率化と外部の映り込みによるミラー効 果をねらったものである。
ファサードは、センターに円形展望用エレベーターを設け、来訪者は7階のロビー・インフォメーションに直接乗り入れることができる。外観からのイメージとは異なるロビー はニューアールデコ様式とし、シャンデリア、小物は1920年代の工芸家ルネ・ラリックの作品を使 用している。
ロビーのある7階を中心に、ビルのもつ3つの機能、すなわち、低層部―デリバリー・インベントリー、中層部― エキシビションホール、上層部―オフィス・ミーティングルームへと導かれる。13階には社長室、会議室、VIPルームとしての和室(20帖)広縁をとり、3層の機能分担とともに、マネージメントの中枢機能をもたせている。



岡慶東京支店

東京・中央

竣工/昭和58年

設計/出江寛建築事務所

京都の老舗である帯問屋の東京支店で、従来ならこの種の建物は、緊楽土に杢目という自然の素材で造られる数寄屋風建築が求められるのであろう。しかし、そういうマンネリズムの殻を破り、現代の工業材でどこまで伝統の精神性を表出しうるか試みてみたのがこのビルである。
そこで外観には、日本の伝統美の一つ、心敬僧都のいう「水ばかり艶なるはなし」の冷艶美を表現すべく、銀色の感性を持たせた特殊アルミを使用した。また畳の縁や障子は日本人には馴染み深いものであり、その線の構成を外観のアルミパネルの構成にも表現してみた。
床間の床柱は鉄管に金のペンキを塗ったものであり、床壁は銀色のラッカー塗装仕上げとアルミパネルである。工業化・量産化された、確かでしかもローコストな材料で構成し、現代の材料で伝統の精神を求めてみた、いわば「ペンキの数寄屋」がこのビルである。





メイセイビル

東京・渋谷

竣工/昭和60年

設計/㈱レーモンド設計事務所





ジャスマック札幌6番館

札幌・中央

竣工/昭和60年

設計/弾設計㈱

ススキ野に特有の細長い短冊状敷地、しかも中程でくびれ、クランク状に折れ曲がった変形敷地である。延床千坪からなる飲食ビルを、どうこのひねくれた敷地に合理的に押し込むか？ テナントのアパートみたいには絶対したくない。
平面計画上、細くくびれた部分に縦動線を集中するのは誰でも思いつきそうな解決だが、ホールからの導入を円滑にする工夫と、基準階の45°に振った角度で、路地っぽい空間を生み出したあたりが、ミソと云えば云えるかも知れない。
前面道路があまり広くないために、建物の半分以上がセットバックして、ほとんど見えない。誰も9階建とは気づかない筈だ。
眼に入るファサードの大部分を、ミラーガラスのカーテンウォールで、キュービックな箱を構成することにした。カーテンウォールは2層分の吹抜けを持つエントランスホールを内包し、活動の開始される夜になると内側の光でミラーガラスは消失し、ホール空間が浮かび上ってくる。複雑に入り組んだ鉄骨トラス、照明装置、サイン等のにぎやかな仕掛、ホールにうごめく人影などが垣間見えてきて、酔客達に対する誘蛾燈の役目を果している。
昼間、この建物は休息する。北向きのミラーガラスは、対向面の、陽の当った景色を映し出しながら、倍の広さと明るさを獲得し、この、一寸陰うつな街路に、多少のさわやかさを与えているように見える。

オンワード代官山ファッションビル

東京・渋谷

竣工/昭和61年

設計/鈴木エドワード建築設計㈱





裾野カンツリー倶楽部 クラブハウス

静岡・裾野

竣工/昭和60年

設計/㈱奥保建築事務所

第二観光ホテル 魚友

愛知・知多

竣工/昭和60年

設計/不二建設㈱一級建築士事務所



B&B渋谷

東京・目黒

竣工/昭和60年

設計/不二建設㈱一級建築士事務所





藤井㈱夢科山荘

長野・茅野

竣工/昭和61年

設計/不二建設㈱一級建築士事務所

第百生命九条山社宅

京都・山科

竣工/昭和60年

設計/㈱レーモンド設計事務所





西宮高座スカイハイツ

兵庫・西宮

竣工/昭和59年

設計/不二建設㈱一級建築士事務所

当地は、大阪・阪神間を結ぶ大動脈、阪急(西宮北口)および阪神・国鉄(西宮)の3線を自在に乗り分けられる恵まれた立地条件にあり、このあたりは関西でも有数の学園街で、私学の名門神戸女学院、関西学院大学をはじめ衆和女子大などが点在する。
この建物は、文教住宅都市・西宮らしさが、さらにすぐれた景観・環境を構成しうる要素になるべく、その敷地の特性を適確にとらえ処理し、統一されたデザインでその意図を表現しようとしている。約20mの高低差の敷地を北は人工地盤とし、南はひな段状の公園とし、その中間約13mの位置に建物のレベルを設定することで地下駐車場(40台)を確保し、住戸は高さを得て、北の甲山および、そのカントリーな眺望を一挙に獲得している。アプローチから見上げるさまは、豪快な中にもやさしい繊細さを失わぬよう、すべて統一されたデザインで処理している。階段をはさんだダブルアーチのバルコニーは鳥の翼を広げたおおらかさを表現している。石畳の歩廊、エントランスの2本のドーム屋根、ホールの半円筒の連続する天井、三角平面のアスレチック室、等々さまざまな工夫により、120戸に住まう人々がより豊かな生活環境を享受できるよう演出されている。

ヤスコ・ビレッジ

兵庫・西宮

竣工/昭和57年

設計/安井建築設計室



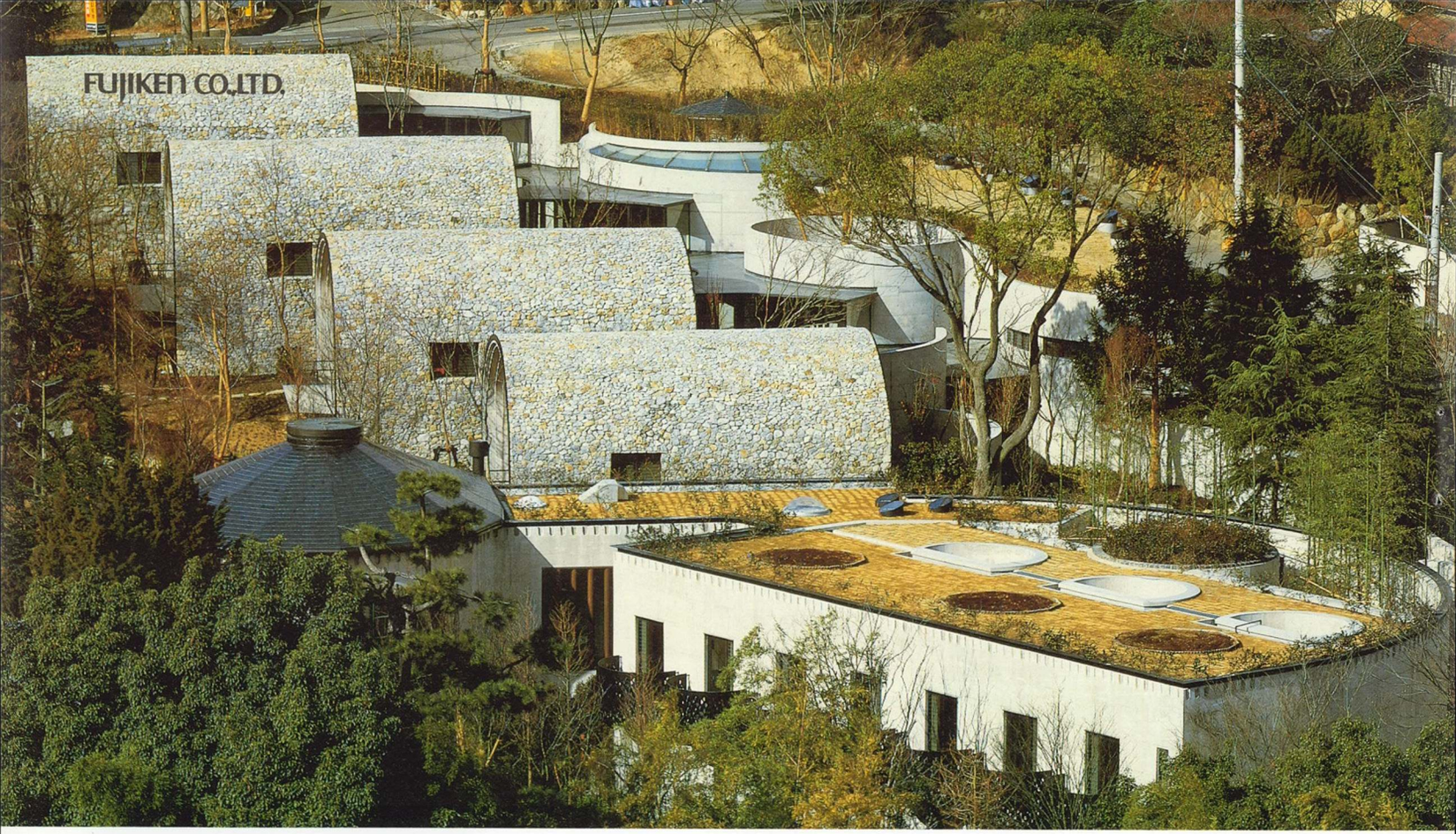
プレステージ新千里西町マンション

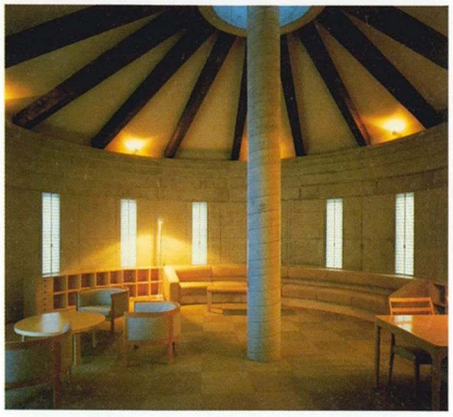
大阪・豊中

竣工/昭和60年

設計/㈱遠藤剛生建築設計事務所







カトリック大阪大司教区修道院宿舎

兵庫・西宮

竣工/昭和60年

設計/美建設計事務所

神父ドミトリーとシスタードミトリーのふたつの棟で構成されたこの施設は、現況の地形と自生樹木を残すため敷地の表情に従って、斜面の地形になじませ地表にはりついている。
立木を避けるように壁面は大きく弧を描き、この曲面に呼応するかのように 次のカーブが生まれる。
曲面は連続したり離れたりしてリズムをつくる。
敷地の勾配に応じた各室の配置が、変化のある立体的空間構成を生み出す。
周辺環境に対する配慮としては、敷地勾配に沿った自然なレベル設定をし、建物の 一部を地下に沈めることにより建物の高さを抑えてヴォリューム感を減じ、屋根も石積みの ヴォールト以外はすべて芝貼りとして建物の存在感を抑制している。
建物自体を庭園化することによって周辺の住宅からの俯瞰に耐え得る景観となってほしい。自由な曲線や曲面で構成されたこの建物群はその形態と仕上材を自然界の土・石・植物等から引用することによって、自然と融合させることを意図している。

リヒト産業㈱南港作業所

大阪・南港

竣工/昭和60年

設計/不二建設㈱一級建築士事務所



藤井㈱滋賀商品センター

滋賀・野州

竣工/昭和59年

設計/不二建設㈱一級建築士事務所



設備の頁

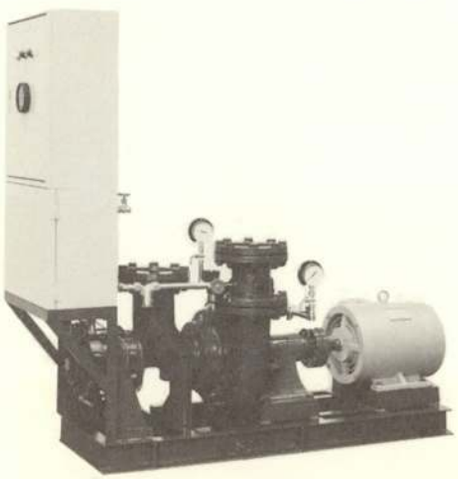
145 空調リニヤポンプ

小林　一成

近年、建築設備の省エネルギー化はますます進み、その成果も大きくなっている。

空調用ポンプについても、従来の汎用ポンプの台数制御から進んで、ポンプの回転数制御を行い、空調負荷に対応したポンプ性能に抑制することによって、省エネルギーを計るようになってきている。この回転数制御は、可変速モータの使用から、現在ではインバータによる周波数制御（ＶＶＶＦ制御）へと移っているようである。

空調リニヤポンプは、上記のような回転数制御を全くしないので、現行のインバータなどに比較すると異色の技術といえる。このポンプの特長は、圧力制御のメカニズムと方法がユニークであり、省エネルギー性能にすぐれていること、およびシステムユニット化されているため使いやすいことのほか、騒音が低いことなどである。



空調リニヤポンプ

圧力制御

ポンプの省エネルギーを極大化するには、ポンプの運転圧力を、負荷が必要とする値に絶えず一致させる制御をすればよい。**図１**で説明すると、密閉回路の場合、管路抵抗曲線に沿う制御がそれで、推定末端圧一定制御（当社では抵抗制御）と呼ばれている。現行のインバータなどで行われているのは、圧力一定制御、送りと還りのヘッダー間の差圧一定制御、還り水温を検出する水温一定制御などであるが、空調リニヤポンプでは、上記抵抗制御一本に絞って、大きい省エネ効果を挙げようとしている。

図１の直線Ａ－Ｂの傾きを次第に寝かせて、水平となる吐出圧一定までの斜線部分において、圧力制御設定を自由かつ容易に選ぶことができる。圧力制御設定が行われると、連続した流量信号を入力することによって、ポンプは、現在の水量における必要圧力ちょうどに性能を合わせる圧力制御が行われる。

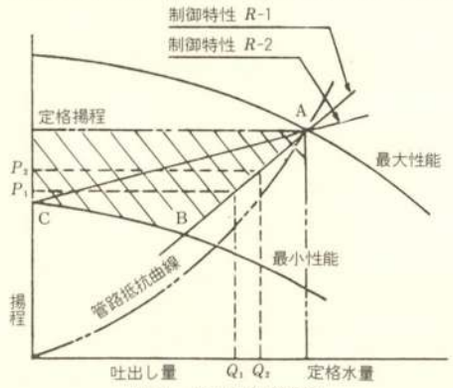


図１　圧力制御説明図

メカニズム（開放羽根スキマ制御）

空調リニヤポンプは、回転数制御によらず、独自の水力制御によって前記の圧力制御を行うことができる。圧力制御を行う前提としてポンプ性能を任意に変更することが必要であるが、空調リニヤポンプは開放羽根スキマ制御によってこれを行っている。

一端を開放した羽根車の前方のスキマを大小に変化させると、ポンプ性能は、あたかも回転数制御したようにスキマに応じて滑らかに変化する。スキマを変えるには、羽根車の前方に置いた円板を水力ピストンと連結し、このピストンの動作を別に制御すればよい。ピストンの一方の側に一定圧力を加え、反対側にはポンプ吐出圧力を加えておく。流量が変化すると、圧力設定線上で偏差が生じるから、これが信号源となってピストンの吐出圧側へ通じる電磁弁が開かれ、新しい目標圧力となるまで開放羽根スキマが変化する。この間、ポンプ付属の圧力伝送器により本管圧力検出し、圧力目標とのフィードバック制御を行い、目標に達すると電磁弁は閉じる。

空調リニヤポンプの圧力制御メカニズムは、このように至って簡単な水力制御である。これらの制御に必要な計装機器も、小口径の電磁弁２コ、同減圧弁１コの合計３コに過ぎない簡素なものとなっている。

省エネルギー

空調リニヤポンプは、前述のように回転数制御を行わず一定回転のまま運転するから、軸動力の低下は、別の面から生まれる。開放羽根スキマを大きくしてゆくと、ポンプ発生揚程も低下するが、この時に所要軸動力も減少する。揚程と軸動力の関係は、同じ水量において揚程の低下した比率の平方根に比例して軸動力が下がっている。これから計算すると、揚程を40%に下げると軸動力は約63%に低下することになり、省エネ率は（1－0.63＝0.37）37%得られることになる。

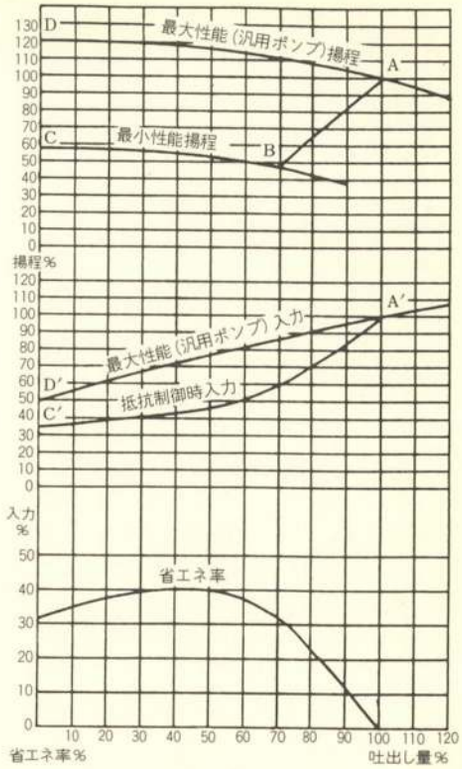


図２　省エネ性能図

図２は、定格水量比100に対し70において、揚程を同じく比率で50まで下げた場合の性能を表したもので、節約動力すなわち省エネ率は、広い範囲にわたって、30%から40%の間にあることが判る。

特長

上に説明した項目も含めて特長をあげると、つぎのようになる。

(1)　システムユニット化

空調ポンプに特別な性能制御を加える場合は、制御の設計を行うとともに、計装機器の選定や配置を行わねばならない。たとえばインバータによってポンプに回転数制御を加え圧力制御を行おうとすれば、汎用ポンプ、インバータのほかに、回転数並びに圧力制御の両方の計装、制御の設計を行い、かつ機器を取り揃え配置、配線までしなければならない。この点、空調リニヤポンプの場合は、目標圧力設定と制御のできるメカニズム、計装機器一式が完全にユニット化されているから、このような手数を全く要しない。

(2)　省エネルギー

前述のように最大40%に達する省エネ特性をもっている。

(3)　圧力制御の選択

目標圧力の設定上の傾きは、図１のように自由度が大きい上、現場で変更するのも容易に行える。

(4)　騒音

モータを変速せず使用するから、騒音は汎用ポンプ並みの低騒音となっている。また、ノイズが出ないので、コンピュータに障害を与えないのも特長の一つである。

（こばやし　かずなり　株式会社相互ポンプ製作所代表取締役社長）

構造の頁

143

倉敷紡績本社ビルの構造設計

福本　早苗

構造計画の主旨

倉敷紡績本社ビルの設計計画において、下記の基本フィロソフィーを考慮し、構造計画をした。

(1)　石材系の材料を外装に用いた、彫りの深いデザイン（石貼りではなく、石造に見える）

(2)　壁面受熱量の大きい東西面の開口部を極力小さくする。

(3)　事務室内は、無柱空間とし、フレキシブルな間仕切りに対応する。

(4)　省エネルギーを重視し、かつ快適な居住空間の確保に努める。

(5)　ＯＡ機器の変化に対応できる床配線を可能とする。

十分な厚み（最大600）を有する耐震壁（③④ⒶⒷ①Ⓙ通）と、スパン1,750の柱列（②⑤通）を耐震要素とし、コア内部は、耐震架構に制約されない自由なレイアウトを可能にする。

構造種別は鉄筋コンクリート造とすることにより、層間変形を小さくし、湿式工法による外装石貼りに対応する。事務室部分の床は、端部下端をカットした両端ピンとなる小梁にて支持させ（図

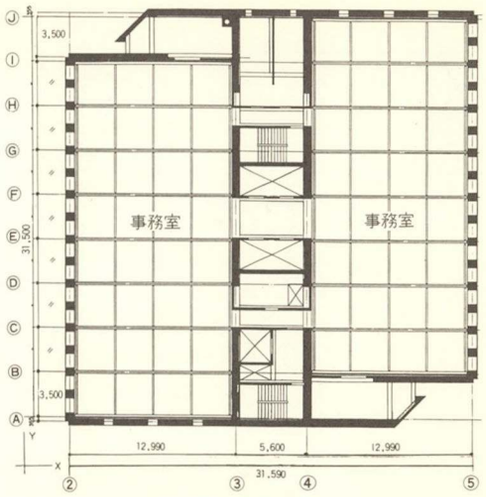


図-1　基準階床伏図（1:600）

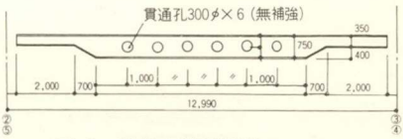
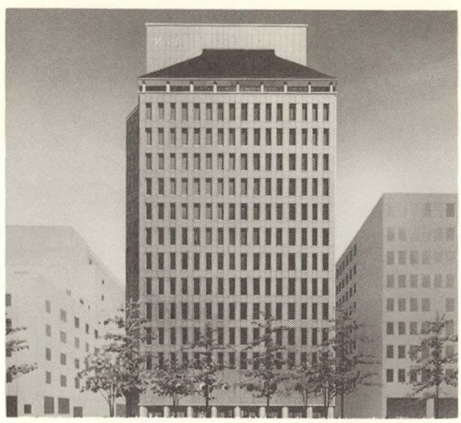
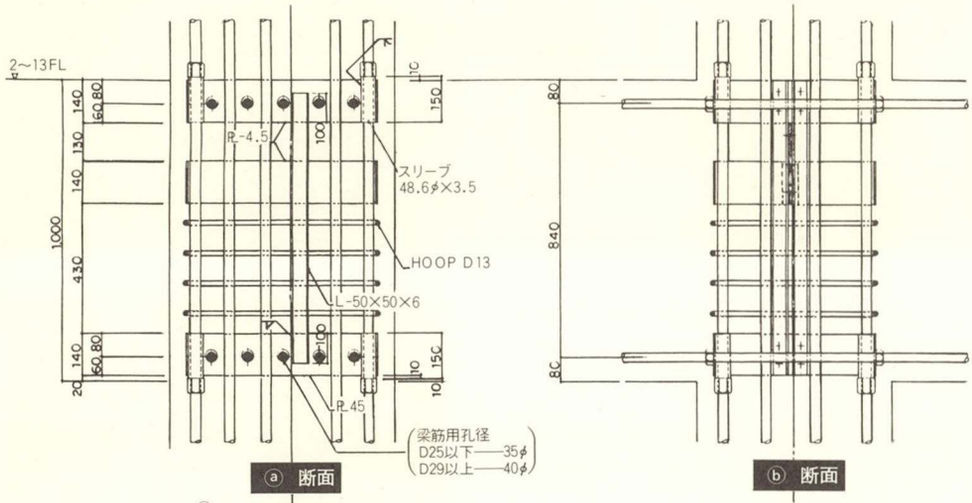
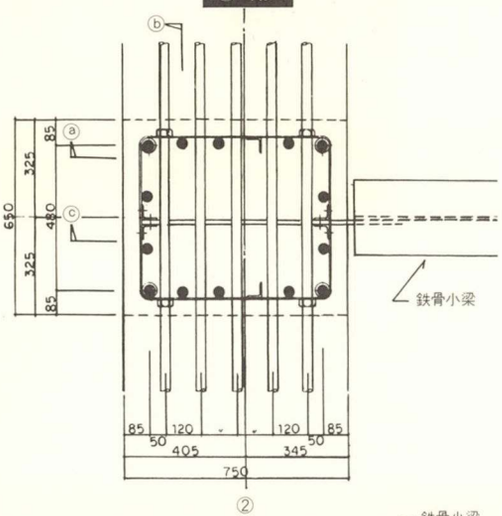


図-2　鉄骨小梁の形状（1:250）







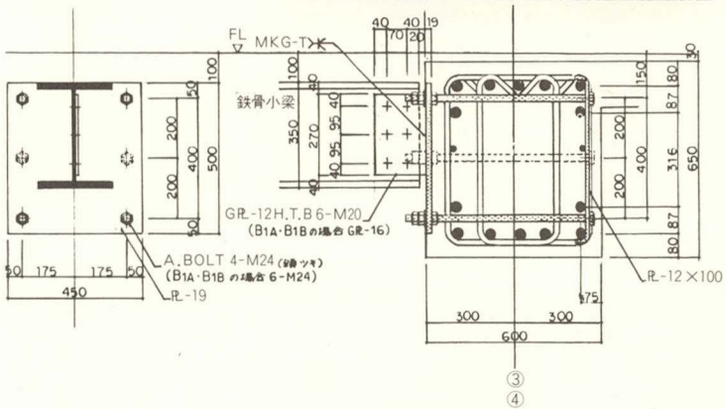
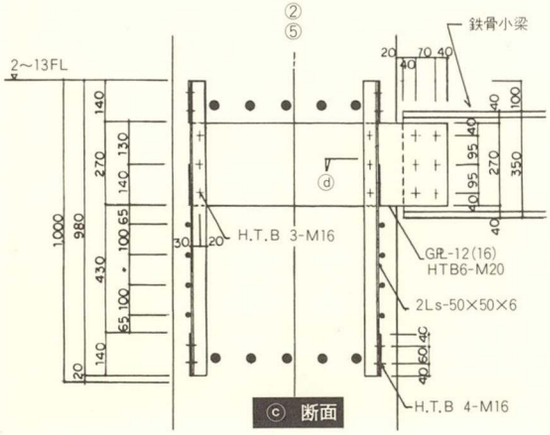


図-4　鉄骨小梁と③④通、大梁との取り合い部（1:25）



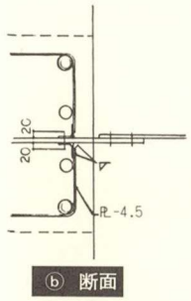


図-3
鉄骨小梁と②⑤通、柱（組立鉄筋）との取り合い部（1:25）

所在地	大阪市東区北久太郎町２丁目40番地他
主用途	自社専用事務所
敷地面積	1625.07㎡
建築面積	976.19㎡
延床面積	16659.70㎡
規模	地上14階・地下２階・塔屋２階
高さ	軒高：GL＋51.15m
	最高部：GL＋59.75m
	基礎底深さ：GL－12.2m
構造種別	主体構造（架構）／鉄筋コンクリート造
	（一部、鉄骨鉄筋コンクリート造）
	床／鉄骨造
	屋根／鉄骨造
	基礎／鉄筋コンクリート造べた基礎
	（GL－12.2mのN値40の洪積砂礫層）
工期	昭和60年12月～昭和63年１月（予定）

表-1　固有周期　（単位　秒）

	1次	2次	3次
X方向	0.729	0.316	0.202
Y方向	0.745	0.298	0.185

-2参照)、設備のメインダクトの配置を容易にすると同時に、②⑤③④通の構面に鉄骨梁との取り合い部にて面外曲げを生じないよう配慮する。鉄骨梁の両端部は図-3、図-4に示す。②⑤通の柱、梁は、組立鉄筋工法を用い、鉄骨梁との仕口を明解にするとともに、高層RCとしての接合部の靭性と耐力の確保、さらには品質向上、工期短縮を図る。地下階は、地上階よりも平面的な広がりをもたせ、転倒に対し安定した形状とし、同時に1階床の床面剛性を確保し、地下外壁への剪断力の移行をスムーズにする。

構造解析・耐震設計

(1)　応力解析

・一種のチューブ構造を形成している。

・床面内剛性を評価することにより、各耐震要素の地震力分担を適切に把握する。

以上の理由により、立体解析を行った。

(2)　地震応答解析

設計用層剪断力分布に比例した各層剪断力を漸増させたときの架構の弾塑性解析から、各層の剪断力――層間変位関係を求め、これをTri-Linear型のスケルトンカーブに近似し、復元力特性として用いた。短周期構造物ゆえ、地震波の入力レベルは加速度にて評価し、弾性150gal、弾塑性350galとした。

表-1、2に、固有周期および地震応答解析結果を示す。

(3)　断面設計

柱、梁の剪断破壊等の脆性破壊を生じないように留意し、③④通の耐震壁の各端部には柱型を設け、スパイラルフープを密に挿入し、圧縮縁のコンクリートの拘束を高めた。ⒶⒿ通の耐震壁は、曲げ降伏を生じにくいプロポーションゆえ、剪断強度の向上に努め、弾塑性応答値（350gal）に対しても、余裕のあることを確認した。

床スラブに生じる面内剪断応力度については、コンクリートの短期許容剪断応力度以内に十分おさまっている。

（ふくもと　きなえ　株式会社大林組建築設計第4部）

表-2　地震応答解析結果(最大応答値)

	方向	応答の種別	EL-CENTRO 40NS		TAFT 52EW		OSAKA 205 63EW	
			応答量	発生階	応答量	発生階	応答量	発生階
弾性(150gal)	X方向	層間変位(cm)	0.56	11	0.44	11	0.73	9
		層間変位角(rad)	1/655	11	1/835	11	1/503	9
		層剪断力(ton)	4161.8	B2	4819.8	B2	5099.7	B2
		剪断力係数	0.44	14	0.35	14	0.41	14
		転倒モーメント(t·m)	139564.7	B2	154988.9	B2	178660.8	B2
	Y方向	層間変位(cm)	0.47	7	0.60	8	0.67	7
		層間変位角(rad)	1/775	7	1/609	8	1/543	7
		層剪断力(ton)	3772.0	B2	4287.2	B2	4408.6	B2
		剪断力係数	0.29	14	0.31	14	0.33	14
		転倒モーメント(t·m)	137405.5	B2	153291.7	B2	171524.0	B2
弾塑性(350gal)	X方向	層間変位(cm)	1.39	11	1.65	11	1.72	11
		層間変位角(rad)	1/262	11	1/221	11	1/213	11
		層剪断力(ton)	7932.2	B2	6890.8	B2	7174.4	B2
		剪断力係数	0.57	14	0.61	14	0.61	14
		転倒モーメント(t·m)	256883.6	B2	210335.2	B2	219237.9	B2
		塑性率	0.886	1	0.826	11	0.858	11
	Y方向	層間変位(cm)	1.23	1	1.32	10	1.37	8
		層間変位角(rad)	1/335	3	1/277	10	1/267	8
		層剪断力(ton)	7699.1	B2	6088.9	B2	6717.4	B2
		剪断力係数	0.56	14	0.60	14	0.58	14
		転倒モーメント(t·m)	247357.8	B2	210532.7	B2	230187.4	B2
		塑性率	0.769	1	0.536	10	0.540	10

企画：日本建築協会

プロのノウハウ　最新刊

職業訓練大学校教授　矢吹 茂郎　著

とかく敬遠されがちな基準法の諸問題を読みやすく解説

基本問題40講　建築基準法の実際

●幅広い経験のすべてを込めて奥深い諸問題を説く

建築基準法の難しさは，設計，行政，司法という三つの面から出る多様な問題を，どう一つに止揚させていくかにある．本書では，様々な問題を事例をあげてわかりやすく解き明かす．著者の幅広い立場上の経験に審査会の裁決等も加え，単なる法規の解説ではなく，内容にも突っこんだ形で編集した．基準法諸問題解決のための好著

四六・ 224頁・定価1800円

内容概略

- 敷地の定義と用途上の可分・不可分
- 道路の定義と位置指定
- 地域指定と建築規制
- 土地利用と容積制限
- 斜線制限と絶対高さ
- 総合設計制度と容積・高さの緩和
- 地域による防火規制の変遷
- 地域がまたがる場合の問題点
- 長屋と共同住宅
- 居室の採光と有効の算定
- 火災の拡大防止と防火区画
- 排煙設備の有効性
- 仕様書規定と性能規定
- 建築基準法最低基準論
- 隣地境界線と外壁後退
- 建築確認の法的性質
- 確認審査および検査の省略
- 消防同意と建築基準法
- 行政指導と確認留保の限界
- その他，21講

プロのノウハウ　好評発売中

TQCから見た建設業　問題解決の決め手
荒木睦彦著 / 四六・ 192頁・定価1600円

軀体工事監理のチェックポイント100
須賀好富著 / 四六・ 224頁・定価1800円

パソコン会計術　設計事務所編
西部明郎著 / 四六・ 224頁・定価1800円

建物の値打ちの高め方　ビル・マンションの新しい評価法
小林清周著・四六・ 208頁・定価1700円

空調設備のトラブル50　建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著・四六・ 224頁・定価1800円

衛生設備のトラブル50　建築に携わる人へのヒント
建築設備トラブル研究会著・四六・ 224頁・定価1800円

〈目録進呈〉

学芸出版社

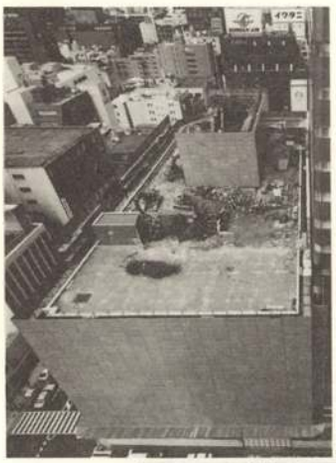
〒600 京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
TEL 075(343) 0811

施工材料の頁

144

還元井戸（リチャージウェル）の施工例

山中　健



昭和59年6月
解体工事
着手時



昭和61年2月
竣工時

地下水や雨水を地中へ還元(リチャージ)する井戸を、還元井戸(リチャージウェル)と言う。還元井戸の実施例は少なく，また大きな成果を上げたものはほとんどない。ここに紹介するのは、工事中に汲み上げた大量の地下水の大部分を再び地中へ還元するのに成功した例であり、かつ今までにない新しい方式を開発したものである。

開発の経緯

工事名称	丸紅大阪本社ビル新築工事(２期)
建築主	丸紅不動産株式会社
所在地	大阪市東区本町３丁目３番地
構造規模	ＳＲＣ造、地下２階
延床面積	4,053.6㎡
用途	事務所
工期	昭和59年５月～昭和61年２月
設計監理	三菱地所株式会社
施工	株式会社竹中工務店、大成建設株式会社 鹿島建設株式会社、清水建設株式会社 共同企業体

丸紅大阪本社ビル２期工事は、１期工事に継続して近接する旧建物（Ｆ８、Ｂ３一部Ｂ１、延べ約24,000㎡）を解体し、旧建物外壁および基礎を残し、その内部に地下部分のみを構築、１期部分と接続する工事である。地下工事の概要は、**図１**に示す通りである。

ここで大きな問題は、以下の悪条件により工事中に多量の地下水を汲み上げなければならないことであった。

１）旧建物が敷地いっぱいに建っており、山止めが施工できない上、地盤の不透水層が旧建物基礎以深にあり、いわゆる、山止めによる遮水工法が採用できない。

２）基礎下レベル(ＧＬ－11,500)に対して、自由水位が高く(ＧＬ－4,300)、また透水係数が大きい（$K=5\times10^{-2}$cm/s)。

これら条件のもと、その対策の一つとして新しい還元井戸の開発に取り組んだ。

還元井戸の開発(図２)

１）１本の井戸で二つの役割を果たす。上部は排水用井戸、下部は還元用井戸の役割をし、上下の境界は鉄板で仕切り、外部は不透水層部で薬液注入にて閉塞する。

２）還元の原理は、下部の被圧水頭(GL－9,000)と地上との落差を利用し、還元用パイプを通じて地上から下部へ水圧がかかることで、下部砂礫層（ＧＬ－30m～40mおよび55m～65m）に地下水が注水される。それが繰り返されることで地下水の還元が行われるものである。

３）還元井戸は、一般に長時間使用していると、地下水中の金属の酸化物や微砂などで還元される地層（ＧＬ－30m～40mおよび55m～65m）が目づまりを起こす。還元の効率を上げるためには、これを洗浄する必要があり、つぎのような方法を考案した。まず還元を中止し、洗浄用バルブ操作ハンドルでバルブを開ける。すると下部地下水が、被圧水圧により上部排水用の井戸へ吹き上がる。すなわち、還元していた地層から地下水が逆流して目づまりの洗浄が行われる。また当工法の場合、被圧水圧のみでなく、エアーリフトの原理も利用して上部への吹き出し力を増し、洗浄効果を上げるようにしている。上部へ吹き出した地下水は、水中ポンプで地上へ排出される。

４）洗浄が終わると、バルブを閉じて還元を継続する。

５）70m深さの井戸の施工は、ベノト工法で不透水層までを掘削、ベノトケーシングをスタンドパイプとして利用し、以深をリバースサーキュレーション工法で掘削した。掘削孔を井戸として利用するため、安定液はベントナイトの代わりに使用後分解消滅するレスターを用いた。

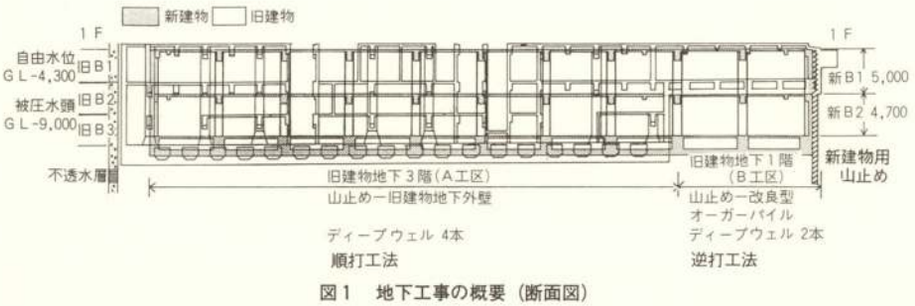


図１　地下工事の概要（断面図）

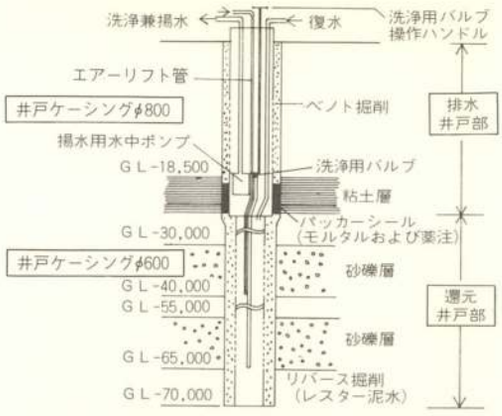
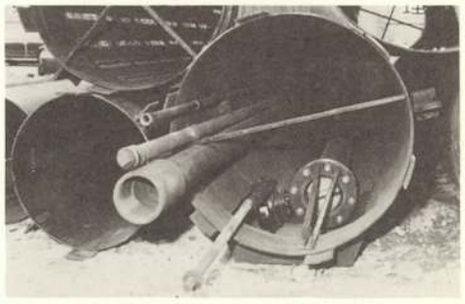


図２　排水・還元兼用井戸



洗浄用バルブ（排水・還元兼用井戸）

古井戸を還元井戸として利用(図３)

旧建物に古井戸があったのを、還元井戸として利用した。初めに注水テストを行い、７kg／cm²の圧力で、1.0～1.5㎥／minの注水が可能と判った。還元井戸とするために、還元用パイプと、目づまり時の洗浄用水中ポンプを装備した。この場合の洗浄方法は、水中ポンプにより強制的に地下水を排水させ、逆流を起こさせる方法である。

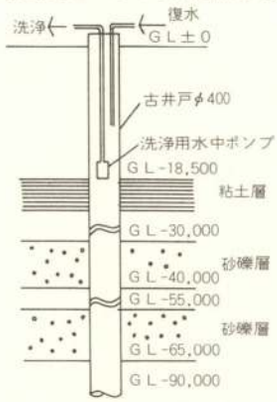


図３　古井戸の還元井戸利用

（やまなか　たけし　竹中工務店大阪本店）

日本建築協会

月間の動き

昭和61年9月分

理事会

常任理事会
24日　4時～5時　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか15名
議事　(1)建築関係団体合同忘年懇親会開催の件
(2)建築基準法改正意見提案の提出
(3)建築工事実務講習会開催の件
(4)ヴェネツィアと大阪・都市と広場シンポジウム後援の件
(5)「建築物と風」講習会協賛の件
(6)創立70周年記念事業に関する件
(7)入退会者承認の件
(8)報告事項

編集委員会

第6回作品作風小委員会
2日　4時～8時　於本会会議室
出席者　寺本副委員長ほか8名
議事　(1)最近の掲載状況報告
(2)「Gallery」内容報告と今後の検討
(3)特集について
(4)新建築作品調査・学校関係について
(5)当小委員会のあり方

「官公庁営繕と行政建築家」特集第1回幹事会
4日　4時～7時　於本会会議室
出席者　増渕委員ほか7名
議事　特集構成の企画

第3回「設計者のプロフィール」幹事会
5日　6時～9時　於本会会議室
出席者　加藤委員ほか12名
議事　「設計者のプロフィール—関西の昭和生まれの建築家」収録増刊号の発行企画

第5回投稿欄小委員会
8日　4時～6時　於本会会議室
出席者　増渕副委員長ほか5名
議事　(1)読者の頁、「この人」の企画
(2)アンケートの検討
(3)「建築の生字引」について

第5回計画分科会
11日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか9名
議事　(1)昭和62年1月号計画特集の企画
(2)昭和62年3月号「70周年記念号」の企画

第6回編集委員会
11日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか4名
議事　(1)9月号「CAD—その応用と展開」特集経過報告
(2)10月号「新しいオフィス空間の構成—求められる機能と構成要素—」特集経過報告
(3)10月号「インテリア・イクステンション—これからのリニューアルの方向」特集報告
(4)11月号「第33回青年技術者」特集の件
(5)12月号設備特集の企画
(6)昭和62年1月号計画特集の企画—温泉特集—
(7)2月号構造特集の企画
(8)3月号70周年記念号の企画
(9)来年の表紙デザイン
(10)小委員会報告
(11)収支状況報告

第1回設備分科会
17日　4時～6時半　於本会会議室
出席者　遠藤幹事ほか4名
議事　(1)「建築と社会」昭和61年12月号設備特集の企画
(2)「設備の頁」10月号以降の企画

第3回構造分科会
24日　4時～6時15分　於本会会議室
出席者　阪本幹事ほか2名
議事　(1)9月号「CAD—その応用と展開」特集の原稿調整
(2)「構造の頁」の企画と確認
(3)62年2月号構造特集の企画

12月号「腐食」特集編集幹事会
25日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　遠藤幹事ほか4名
議事　設備特集「腐食」の企画

第33回青年技術者選衡委員会
25日　1時半～4時　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか9名
金多潔委員は9月30日出席
議事　第33回青年技術者選衡

第4回「設計者のプロフィール」幹事会
26日　6時～10時　於本会会議室
出席者　柏木幹事ほか2名
議事　「関西の建築家—設計者のプロフィール」臨時増刊号編集企画

第5回「設計者のプロフィール」幹事会
29日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　高田幹事ほか2名
議事　「関西の建築家—設計者のプロフィール」臨時増刊号編集企画

62年1月号「温泉」(仮称)特集第1回編集幹事会
29日　6時～8時半　於本会会議室
出席者　田中幹事ほか4名
議事　「温泉」(仮称)特集の構成の具体化

第6回広告企画小委員会
30日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　井上委員長ほか7名
議事　(1)9月号「CAD—その応用と展開」特集広告収入報告
(2)10月号「インテリア・イクステンション—これからのリニューアルの方向」特集広告経過報告
(3)10月号「新しいオフィス空間の構成—求められる機能と構成要素」特集広告経過報告
(4)11月号「第33回青年技術者」特集報告

事業委員会

第4回若い会員の集い小委員会
2日　6時半～8時　於本会会議室
出席者　石川副委員長ほか13名
議事　(1)前回の事業委員会の報告
(2)本年度第1回企画「浪速短期大学の伊丹キャンパスを見る」の実施報告
(3)第2回以降の企画

第4回広報小委員会
3日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか7名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)第2回企画「桂離宮」講演と映画会の実施報告
(3)第3回以降の企画

第4回見学会小委員会
8日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　伊東副委員長ほか8名
議事　(1)前回事業委員会の報告
(2)8月、9月の見学会
(3)10月以降の見学企画

第4回事業委員会
11日　0時半～2時　於本会会議室
出席者　西村委員長ほか4名
議事　(1)各小委員会の事業報告並びに事業企画
(2)本年度建築関係団体合同忘年懇親会

若い会員の集い企画分科会
17日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　福廣幹事ほか1名
議事　本年度・第2回企画「みどり学習会」

第5回広報小委員会
18日　6時～7時半　於本会会議室
出席者　原見副委員長ほか6名
議事　第3回以降の企画

若い会員の集い企画分科会
30日　6時半～9時　於本会会議室
出席者　大川委員ほか3名
議事　(1)出江寛氏の個展企画経過報告
(2)池上俊郎氏の個展の企画

建材委員会

18日　3時～5時半　於本会会議室
出席者　牧田委員長ほか10名
材料説明：シーストン（天然御影石）
担当：高野委員
議事　今後の検討建材

出版委員会

16日　5時～6時　於本会会議室
出席者　須賀委員長ほか9名
議事　(1)選書とプロのノウハウの経過報告
(2)今後のテーマと執筆者選定

創立70周年記念事業

第1回総務委員会
11日　4時～5時半　於本会会議室
出席者　佐野会長ほか10名
議事　(1)式典などの会場について
(2)式典について
(3)表彰式について

募金・表彰制度創設委員会
17日　2時半～4時半　於本会会議室
出席者　佐野会長、薬袋委員長ほか9名
議事　(1)表彰制度の創設について
(2)募金方法について

第1回式典・表彰小委員会
25日　5時～6時半　於本会会議室
出席者　三品小委員長ほか6名
議事　式典・表彰式の準備について

第1回講演・祝賀会小委員会
26日　5時～6時半　於本会会議室
出席者　西村小委員長ほか4名
議事　講演・祝賀会の準備について

建築クラブ

朝食会
9日　8時～9時半　於大阪グランドホテル
演題　「遊牧民の天幕生活」
講師　太陽工業㈱工事部長　磯野義人氏
出席者　82名

建築防災関係法令研究連絡会

12日　2時～4時　於建築家会館(東京)
出席者　構成団体選出各委員
議事　(1)建基法と他法の整理・統合の一般的基準
(2)その他

在阪建築9団体会長午餐会

16日　0時～2時　於ガスビル食堂
出席者　各団体会長、支部長など30名

9月の入会者(敬称略)

〔個人会員7名〕
笹川健二（大林組）　田中一郎（高松組）　松本富士男（高松組）
高田佳子（アートランド）　鶴岡照子（鶴岡建築設計工務所）　中村城一（モリアン）
吉田稔（吉田稔建築設計室）



▲建築／くらま辻井

所在地：左京区鞍馬本町447
建築主：辻井　理紀也
設計者：吉村建築事務所
施工者：上野工務店

この店舗併用住宅は、近世、近代の歴史を伝える民家が数多く残る鞍馬街道沿いに建つ。建て替えに際し、鞍馬の町なみの特徴である骨太の柱や梁、深い軒、粗格子などを継承し、伝統的な町なみと調和する優れた建築である。

応募数69点の中から、京都美観風致賞審査委員会により、写真等書類審査、現地審査を含め、2回にわたる厳正な審査の結果、4点が受賞作品に決定した。

第4回
京都美観風致賞

河原町二条の交差点北西角に建つこの建物は、敷地内に植栽スペースを適切に配置するとともに、ガラス、金属パネル、タイルなどの異なる材料を用いながら外壁を雁行に分節し、にぎわいと拡がりを感じさせる優れた建築物である。

所在地：中京区河原町二条北西清水町362
建築主：株式会社ジョイ(代表取締役　伊野　富恵)
設計者：建築計画　山本良介アトリエ
施工者：清水建設大阪支店

▼建築／セ・シビル・ジョイ・ビル



緑地・広場／西京桂坂第一工区内緑道▶

所在地：西京区大枝北沓掛町6丁目
建築主：株式会社 西洋環境開発
設計者：西洋環境開発
施工者：青木・日本国土・鹿島共同企業体

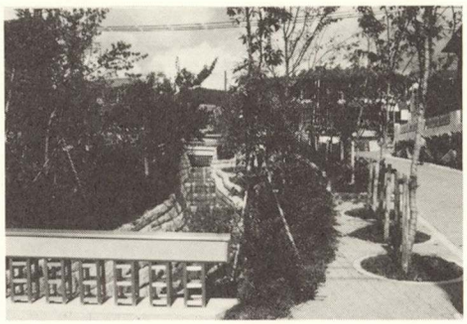
この緑道は、洛西の丘陵地に新たに造成された住宅地内にある、歩行者優先の道路である。緑道には、せせらぎや広場を設けるとともに、サクラやモミジなど季節を感じさせる樹木が植えられ、うるおいのある住環境を形成している。



▲屋外広告物／株式会社 昭和商会(サイン)

所在地：右京区西院春日町2番地
建築主：株式会社 昭和商会(代表取締役　松田　嵯一)
設計者：睦建築設計事務所
施工者：アド工芸

社名の一字をデザインした洗練されたシンボルマークを、落ち着いた色彩に仕上げて、壁面に設置している。取り付け位置や大きさなどに、建築物との調和を十分配慮した、優れた屋外広告物である。



編集後記メモ

■去る10月29日～11月1日に、大阪駅前第2ビル地下2階北広場にて、「GATHERS構想 in UMEDA提案展」がありました。これは、大阪梅田貨物駅跡地の再開発をどうするかについての、新建築家技術者集団大阪支部の提案で、22ヘクタールに及ぶ広大な跡地を、緑豊かな丘陵地帯として、その下に10階建から2階建にだんだん傾斜をするような、ビルを埋めるという構想です。もちろんビルの採光や交通のために、放射状の道路があり、附近の道路と接続しています。市民の憩いの場としての広場もあり、永久的な森林地帯のほかに段状のテラスも設けています。

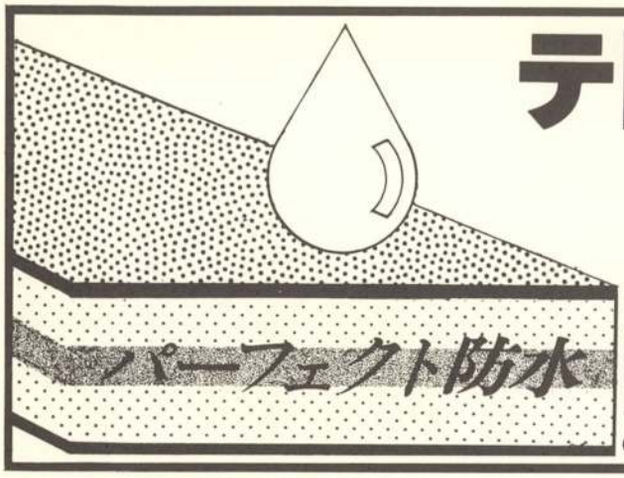
■題して、GATHERS構想というのも面白いと思います。Green、Art、Time、Hill、Earth、River、Sunの頭文字をとったそうです。

ギャザリングということばは、最近の都市世相を移しとるのに便利です。人々とくに若い人たちは、ギャザリングを求めて、都市をさすらいます。ときには、地上のあちこちで思わぬイベントや、ファッションショウ――中国語では、時装表演と記すそうですが――が開かれたりして、集合するのです。そういう市民のための広場がいま求められているように感じます。そういった意味で、GATHERSも、緑、芸術、時、丘、大地、川、太陽の意味以上に、現代的で、興味をひきました。



■アーサー・ケストラーの『ホロン革命』という本を読んでいるところですが、「ホロン」という用語は十数年前にケストラーが命名したもので、「部分」と「全体」を見る視点に新たな座標を与えてくれます。ギリシャ語のholos(＝全体)に添字onをつけたもので、onはproton(陽子)、neutron(中性子)のような粒子または部分を暗示させるためのものだといわれます。この「亜全体」ともいうべきホロンは、社会や都市のシステムをみるときに有効なように思います。

■本号の特集は「第33回青年技術者」の紹介です。もうひとつの特集として、「インテリア・イクステンションとリニューアル」も予定していましたが、都合で次号以降に廻しますので、ご了承下さるようお願いいたします。　(松井記)



テトカッパー防水層

防水専業の研究・経験から生れたすくない資源のパーフェクトな防水層です。
この防水層は（一層防水）施工するだけで、防水は完璧です。
温度変化に伸びがなく、柔軟性に富み、耐酸、耐薬品性に優れ、腐蝕しません。

カッパー防水帯　コーバータイト　新工法
オクロン防水帯　プレノテクト吹付工法

●お申込次第カタログ進呈

奥山化工業株式會社

本　社	東京都中央区銀座8—4—9	電話03（571）2703
大阪事務所	大阪市淀川区東三国6—1—41	電話06（391）1081-2
埼玉営業所	埼玉県桶川市東1—3—30	電話0487(74)2845-6
厚木出張所	神奈川県厚木市金田259	電話0462（21）1761
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話052（811）3660
九州出張所	佐賀県佐賀郡諸富町大字諸富津450	電話0952（47）2945

■防火・防煙シャッター　■軽量シャッター
■ステンレスシャッター　■クリスタルシャッター
■アルミニュームシャッター　その他特殊シャッターの製造

アフターサービスの24時間態勢完備

鈴木シャッター工業株式会社

大阪市北区茶屋町5番2号	電話大阪	06（市外局番）371代表4151～6
北陸営業所　金沢市長田町119番地	電話金沢	0762（市外局番）65—5135～6
神戸営業所　神戸市長田区大橋8-4-7	電話神戸	078（市外局番）611—7971 631—2021

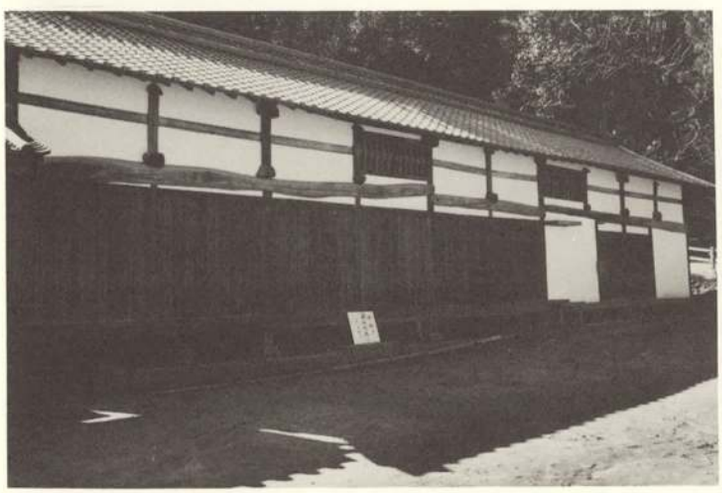
防火・防煙から避難装置まで
建築防災の総合メーカー

豊かな経験
最新の技術

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社

本社：大阪市東区両替町1—12 日生ビル　☎（943）6571代表
東京・横浜・盛岡・仙台・水戸・静岡・岡崎・名古屋・富山・大津・京都・神戸・広島・高松・福岡他全国主要都市





空気調和・給排水・衛生・防災設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区浜松町1-25-7　電話 (434)6171(大代)
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 (302)2271(代)
支　店　北海道・東北・名古屋・中国・九州
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話 (352)1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667)3431 (大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

空調・衛生
防災・汚水処理 設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区角田町2番15号 電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル 電話 京都561局4944(代)
神戸市中央区下山手通6-2-8 電話 神戸341局5892

空気調和・衛生設備 設計施工

株式会社 三晃空調

本　社　大阪市東区城見ツイン21MIDタワー　電話 06－949－1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話 03－344－1911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話 06－363－1371
支　店　仙台市大町2丁目2番10号　電話0222－61－3002
名古屋市中村区名駅南2丁目14番19号　電話052－581－8571
広島市中区紙屋町1丁目2番22号　電話082－247－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話092－761－3795
出張所　青森・秋田・宇都宮・千葉・川崎・横浜・富山・福井・京都・神戸・松江・高松・下関・熊本・鹿児島・沖縄

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

大阪電気暖房株式会社

本店・大阪本社　大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　〒550 電話(06)441-8231(大代)
東京本社　東京都中央区銀座2丁目2番17号　〒104 電話(03)535-5251(大代)
支　社　名古屋・福岡
支　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・京都・神戸・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・松江・徳島・長崎・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン・スリランカ

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む——

株式会社精研

本　社　大阪市南区瓦屋町2丁目11番16号 (オートセンタービル1,2階)
郵便番号542　電話 大阪(06) 768－5031代表
メンテナンス部　電話 大阪(06)768－1 6 5 1代表
東京支店　東京都千代田区九段南2丁目2番5号(九段ビル2～4階)
郵便番号102　電話 東京(03) 262－3241代表

■給排水衛生　■冷暖房
■空気調和設備　■その他管工事一切の設計・施工

斎久工業株式会社

本　社　東京都千代田区大手町2-6-2 (日本ビル)
電話 03-(270)-7411(代)
大阪支社　大阪市北区中之島4-2-38　電話 06-(443)5041(代)
支　店　札幌・岡山
営業所　仙台・千葉・横浜・名古屋・金沢・四国・広島・福岡
出張所　福井・倉敷・松山・宇都宮・静岡・苫小牧

新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜1丁目2番6号 (新大ビル)
電話 (06) 344－6031 (代)
本　社　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279－5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

空気調和設備
給排水・衛生水道
電気設備
厨房

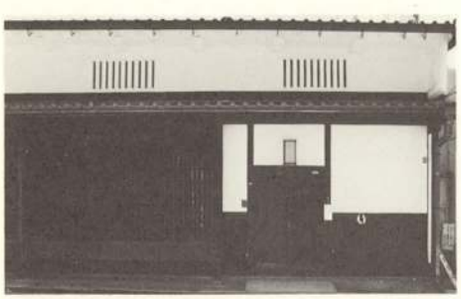
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

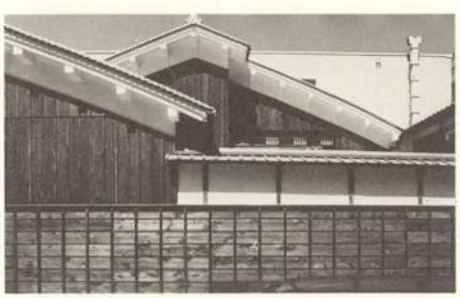
三機工業株式会社

取締役社長　玉置純治郎
大阪支店長　杉浦敏郎
大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪(202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・四国・シンガポール
営業所　横浜・静岡・豊田・岡山・金沢・新潟・香港

cleanair
一年中 秋のすがすがしさ!

創業1901
須賀工業株式会社
大阪市西区土佐堀1丁目2番30号 TEL.06-441-5171(大代表) 〒550







電気・計装工事 設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長 栗 原 信 英

大阪市北区角田町1-1 東阪急ビル TEL06-313-1101
支 店 東 京・名 古 屋・舞 鶴・京 都・天 理
大 阪 南・神 戸・広 島・四 国・九 州

電気設備 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役 山 本 貴 士

本 社 大阪市北区中之島３－２－４ 朝日ビル TEL 大阪06 (385)1361(代)
大阪営業所 TEL 大阪06(385)1361(代) 京都営業所 TEL 京都075(311)1185(代)
東京営業所 TEL 東京03(574) 0 6 6 5 福岡出張所 TEL 福岡092(771) 6 1 6 8

電気工事設計施工

株式会社 三 興 社

代表取締役 土 井 敏 裕

本 社 大阪市北区西天満２丁目６－８(堂ビル７階)
電 話 (361) 3 6 7 1 (代)
支 店 東京都中央区日本橋箱崎町20番５号
電 話 (671) 1 4 7 8 (代)
出張所 川 崎・相 模 原・堺・滋 賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

大 阪 支 社

大阪支社長 横 田 幸 一

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地 電話大阪 (202)0325～９番
本 社 東京都千代田区西神田１丁目４番５号
支 社 札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
営業所・出張所 全国主要都市2ヶ所

――誠実と技術でお応えする――

住友電設

取締役会長 小 林 四 郎
取締役社長 代 谷 正 元

住友電設株式会社
本社／〒553 大阪市福島区福島7丁目22-8 ☎(06)452-1151(大代)
東京／〒105 東京都港区芝２丁目２－17 ☎(03)454-7311(大代)

営業種目 設計・施工・監理

●電力工事
発変電設備工事
架空送配電線工事
地中送配電線工事

●設備工事
ビル電気設備工事
工場電気設備工事
防爆電気設備工事
計 装 工 事
空 調 工 事
給排水衛生工事
特殊配管工事
消防施設設備工事

●プラント工事
●情報システム工事
光伝送システム工事
CATVシステム工事
各種アンテナ装置工事

限りなきクリーンに挑戦する!!
電気設備・クリーンルーム・冷暖房設備
給排水衛生設備・計装制御設備・立体自動倉庫
エネルギー集中監視システム・回転式自転車置場
設 計 施 工

三宝電機株式会社

取締役社長 嘉 納 伝 三

本 社 〒530 大阪市北区西天満２－６－８(堂ビル) TEL 06(364) 1 4 7 1
TELEX 523－3 2 8 7
東京支店 〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル) TEL 03(504) 0 2 3 1
TELEX 222－6 7 2 4
名古屋支店 〒462 名古屋市北区金城三丁目12－14 TEL 052(991) 5 1 3 1
神戸支店 〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル) TEL 078(881) 5 5 7 1

奉仕感謝の店

タイル工事施工

株式会社 川岸窯業商店

本 社 〒550 大阪市西区西本町１－13－33
電話 大阪 06(532)代0461 〒550
天理営業所 天 理 市 丹 波 市 新 町 50

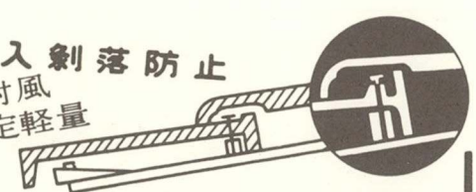
電気・計装・空調工事 設計施工

ヤマト電気エンジニアリング株式会社

取締役社長 山 本 永 造

本 社 大阪市北区西天満５丁目１番３号
TEL 06－364－3056 (代)
支 店 東京・神戸・広島・岡山
事業所 名古屋・岡山・札幌・苫小牧・浜松・滋賀
京都・高砂・三原・徳山・松山・新居浜・福岡・沖縄

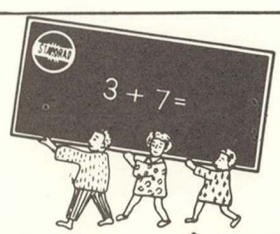
雨水浸入剝落防止
耐震耐風
安定軽量



ナニワ緩勾配瓦

3寸緩勾最適軽量水止付(空葺)瓦

ナニワ瓦株式会社
大阪市浪速区難波中一－三－一八
TEL〇六－六四一－五〇六五



Standard Board&Slate

フタバ工業

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5 TEL 大阪06(792)5858(代)

模型製作

石膏模型・アクリル模型製作

宮岡建築模型製作所

〒103 東京都中央区日本橋浜町3 14 11
電話 (03)669 7565 FAX (03)669 7565

造園設計施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東２－６－17
電話 0797－88－0501(代)

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－344－1851(大代)　大阪本社 ☎06－448－3603(代)
大阪支社 ☎06－448－5851(代)　名古屋支店 ☎052－211－1535(代)　中国支店 ☎082－247－5541
九州支店 ☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津６丁目８番４号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西

空気調和　搬送機設備
給排水衛生　設計施工

第一工業株式会社
大阪支店

大阪支店　〒530　大阪市北区西天満３丁目６番１４号
電話　０６－３６４－６６６１(代表)
本　社　〒100　東京都千代田区丸の内３丁目３番１号
電話　０３－２１１－８５１１(代表)

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町２０番地の１
電話(681)５１０１～５・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話(06)352－3501(代)
三重支店　津市栄町２－１１１　電話(0592)26－3610(代)
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53－7431(代)
滋賀営業所　大津市中央２丁目4-28　電話(0775)22－9738(代)

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

高砂熱学

大阪支店　大阪市北区芝田1丁目4-8(北阪急ビル９階)
電話大阪(372)２５１１(代表)
本　社　東京都千代田区神田駿河台４丁目２番地

Carrier
冷暖房はキャリア
CARRIER

東洋キヤリア工業(株)デストビューター関西地区
日本冷熱工産株式会社
本社及大阪営業所　吹田市豊津町４０番３８号
電話大阪(384)1201～7

MODAIR
空気調和設備
換気・除塵設備　設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区靱本町３－１－２７　TEL(443)８０７１
本社　東京都中央区京橋２丁目９　TEL(562)１３５１
支店　名古屋・福岡

活字のない印刷

日本写植印刷株式会社

代表取締役　神田都義

本　社　〒545 大阪市阿倍野区阪南町7-5-30　☎06(606)1111代
日本写植センター　〒892 鹿児島市名山町4-7 三宝ビル　☎0992(26)4371
津山写植センター　〒708 津山市大手町8番5号 模範店会館　☎08682(4)1771
沖縄写植センター　〒900 南風原村兼城　沖縄印刷団地　☎0988(55)6100

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本社：設備部
大阪営業所　大阪市北区西天満５-11-12　電 06－313－1846
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備・給排水衛生設備・上下水道施設
環境衛生施設・公害防止施設／設計・施工・監理

山田工業株式会社

本　社　大阪市西区京町堀１－６－８　電話 06(443)8161(大代表)
(環境装置事業部専用)　電話 06(447)0831　(代表)
分析センター　大阪市淀川区三津屋南1-1-35　電話 06(308)1491
支　店　東京・名古屋・福岡
営業所　京都・神戸・姫路・広島・高松・松山

飛鳥野瓦(意匠登録549771号)
渡辺式緩勾配安定瓦(実用新案登録出願中110750/110751)　製造販売
各和洋瓦全般・カラーベスト・モニエル瓦・セキスイカワラU

創業67年　綜合施工卸
久保田鉄工・松下電工㈱・日本モニエル㈱・積水化学工業㈱・富士スレート㈱・特約代理店

瓦寅工業株式会社

本　社　大阪市生野区林寺１丁目５番14号　〒544
電話 06(715)０２０１代表～５番
営業所　大阪市平野区　工場　兵庫県三原郡(淡路島)

文化庁・宮内庁・各府県庁
国宝 重要文化財 社寺・天理教教会本部　御用達

株式会社 瓦宇工業所（かわらう）

代表取締役　小林麻造
〒630 奈良市西新在家町17番地
電話 奈良(0742)26－２９０１番(代表)

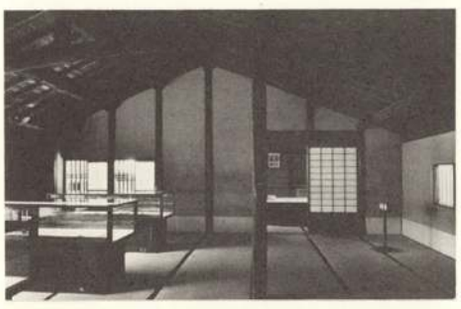
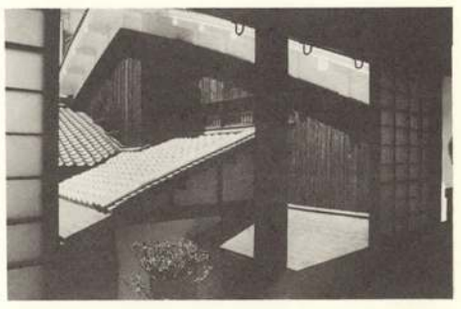
特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－1
TEL(0729)39－3610
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町2744
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

建設業界をアシストする
ポゾリス
■コンクリート用混和剤　■無収縮グラウト材
■鉄筋コンクリート用防せい剤　■工業用特殊床材
製造元 日曹マスタービルダーズ株式会社
販売元 ポゾリス物産株式会社
本　社/東京都港区六本木3－16－26 ☎03-582-8811
大阪営業所/大阪市東区北浜３－７ ☎06-202-3294

営業種目
●防水工事　塗布防水・シート防水・モルタル防水
●樹脂注入接着工法　各種樹脂注入接着補修工事
●亀裂補修工事　各種樹脂注入・充填・コーキング
●シーリング工事　シリコン・チオコール・ウレタン・アクリル
●吹付工事　アクリル・リシン・弾性タイル・その他
◇建設業許可　大阪府知事許可（般－53)第51225号
◇日本シーリング工事業協会々員
大阪市北区末広町３－２１
星和地所扇町ビル201 S
TEL 06(315)0701
(株)特殊技研

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)

デンカCSAファミリー製品
●デンカCSA……コンクリートのひびわれ防止に
（膨張性混和材）
●デンカタスコン……鉄骨ベース、逆打部の充填モルタルに
（グラウト用無収縮材）
●デンカキューテックス……コンクリート軀体の漏水補修に
（止水・補修用急硬セメント）
●デンカES……地盤補強用薬液注入
（土質安定用急硬材）
●デンカΣ1000……コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に
（製品用超高度混和材）
電気化学工業株式会社
近畿地区販売店
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）332－6861
TEL 東京（03）272－8501
小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）443－6181
光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）252－6000
株式会社トーゴー/本社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381

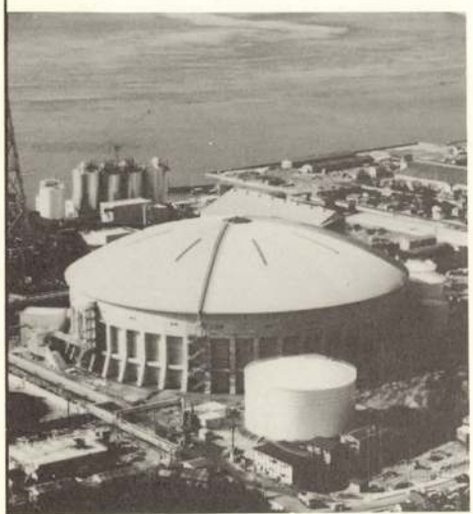
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケアー！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルカラースーパーメタル(CSPM)
・オリエンタルスチールライト(ＳＴＬ)
・オリエンタルメタル(ＯＰＭ)



電発竹原火力石炭庫屋根に採用

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター(強制)〕
ボーロイド(断熱材)D.G.K.　※カタログを御請求下さい

オリエンタルメタル製造株式会社

大阪本社　〒660　尼崎市昭和南通り３－26 松本ビル　電話大阪(06)412－5131(代)
支店及工場　大阪・九州・名古屋・広島・東条・刈谷・姫路

東京本社及工場　〒335　蕨市塚越５丁目６番32号　電話 蕨(0484)42－3115(代)
支店及工場　東北・東京・関東・熊谷

出版案内

ことばがわかる！仕組がわかる！
これからのオフィスビルの設計
沖塩荘一郎 監修　B5・144頁 定価2,300円

設計者と現場マンのためのわかる溶接
増補 溶接読本
井上 博 著　B5・157頁 定価3,000円

施工しやすい　井上 博・北小路宏 共著
建築 配筋読本 ●改訂版
B5・162頁 定価3,200円

各種建築構造の計画・設計に役立つ
建築構造計算資料集
(全８巻) 中川 淳 編著
いろいろな建築構造の計画や設計に役立つ実用便覧として、最新の情報をふんだんに盛り込み、一貫した方針のもとでまとめたわが国建築界はじめての構造計算資料集。
1巻 鉄筋コンクリート構造篇(1)　B5・240頁 定価3,800円
2巻 鉄筋コンクリート構造篇(2)　12月上旬発売予定
3巻 鋼構造篇(1)　B5・225頁 定価3,200円
4巻 鋼構造篇(2)　B5・256頁 定価3,500円
5巻 鉄骨鉄筋コンクリート構造篇　B5・208頁 定価3,200円
6巻 基礎構造篇　B5・249頁 定価3,800円
7巻 終局耐力篇　B5・247頁 定価3,800円

株式会社 建築技術
〒160 東京都新宿区北新宿 1-8-1 中島ビル

全国主要書店にて好評発売中！

月刊 **建築技術 12**

No.424　目　次　定価 1,000円

座談会　オーディトリアムの場合
21世紀に向けてのインテリア設計……浦林亮次ほか
北海道のメーソンリーを訪ねて……一宮 忠雄

21世紀の空間を造るワッフルスラブ
実施の現状と基本的性質……安藤 信好
実施例１：国立音楽大学 通学生用練習館新築工事…橋本 功ほか
実施例２：神原マンション……知念 博昭
実施例３：聖パウロ教会……世良 耕作

多量な地下水を有する地盤での地下工事計画と具体例……南谷 修ほか
高強度コンクリートの品質管理
ニチデン指扇マンションの施工……戸祭邦之ほか
パークシティ新川崎30階建ＲＣ造住棟の施工……岡本公夫ほか
長大ＲＣ建物のひび割れ防止設計……猪原鉄博ほか
木造住宅の床の音響性能……田中 洪
インテリジェントビル実態調査結果概要……川島 宏一

直接購読ご希望の場合年間予約金 ¥12,000 (送料共)

出版案内

専門技術者のための
建築構造問題快答集 7
同編集部 編　A5・216頁 定価2,900円

建築技術者のためのわかる設備
建築 設備読本 I. 給排水衛生設備篇
井上 博 著　B5・171頁 定価3,200円

わかる設備シリーズ第２巻
建築 電気読本
井上 博 著　B5・217頁 定価3,800円

山形骨組の応力計算はこの一冊で
山形骨組の応力計算
筒井助幸 著　A5・210頁 定価3,200円

建築技術者・ビル管理者のための
建築工事 内外装の損傷と補修
同編集部 編　B5・289頁 定価3,600円

目と手で確かめた水と土の記録
増補 最新場所打ぐい工法
北中克己 著　A5・341頁 定価3,500円

株式会社 建築技術
☎東京 03 (363) 4211(代)
振替口座 東京 0-72417番

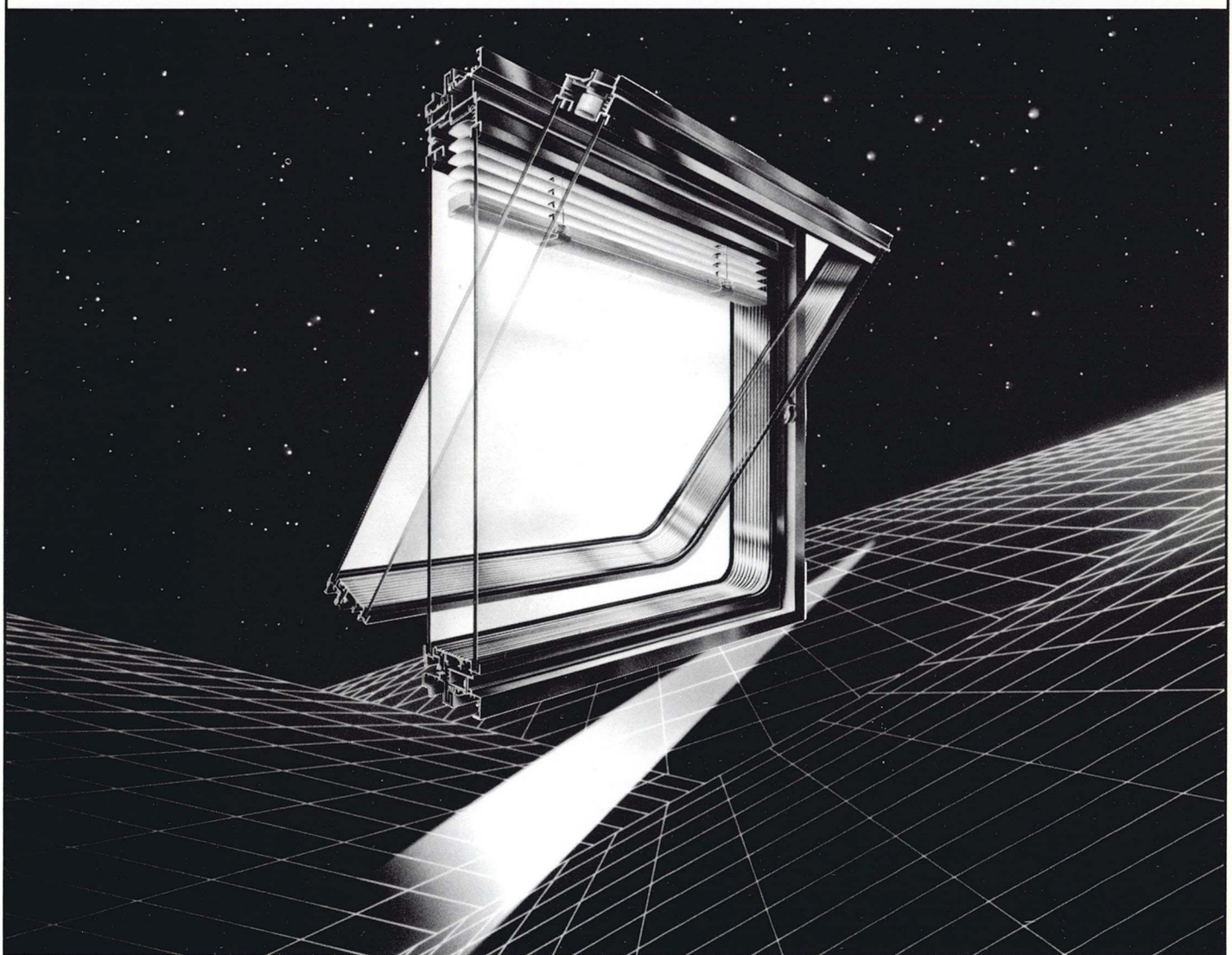
最適な環境を創造する窓

インテリジェントビル窓開口部のキメ手——。

現代建築のクオリティを高める

エルミン窓

ブラインド内蔵二重硝子回転断熱窓



エルミン窓は、今、注目を集めているインテリジェントビルに要求される窓開口部の条件を、全て満たしています。

省エネルギーの立場からは、高い断熱性や遮蔽性が、そして音やホコリをシャットアウトする機構、更にはメインテナンスに手間がかからない点などはもちろん、自然の光と風を豊かに採り入れた快適な住空間を創ることなど、実に様々なファクターがあります。

エルミン窓はこれらの窓開口部に要求されるファクターの全てに自信をもってお応えできます。空気汚染や騒音のひどい地域や、酷暑や極寒の地域でも建物の中には快適さをお約束します。

インテリジェントビルに最適なエルミン窓をぜひ一度ご検討ください。

二重硝子の間にベネシアンブラインドを内蔵させた回転断熱窓のエルミン窓は、スエーデンで開発され、全世界で圧倒的信頼を得ている国際品です。わが国では、当社が昭和39年に技術導入し、日本の気候風土に合うように改良した画期的な窓として、全国3,400件以上の建物に採用されています。

日本エルミンサッシ株式会社

本　　社　〒101 東京都千代田区岩本町1-11-2(三泉ビル)　TEL03-861-1891 (代表)
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1-7-9(東洋ビル)　TEL06-441-1978 (代表)
札幌営業所　〒060 札幌市中央区大通西4-6(住生札幌大通ビル)　TEL011-222-3575 (代表)
福岡事務所　〒812 福岡市博多区博多駅南1-2-3(住友博多駅前ビル)　TEL092-475-4820 (代表)

建築と社会　第67轉第11号
昭和61年11月25日発行（毎月1回25日発行）
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

社団法人　日本建築協会　〒530　大阪市北区梅田1-2-2-1900　電話(346)0635

振替口座大阪一三九七五番
定価九五〇円（送料共）
正会員の購読料は会費に含めて徴収
表紙スケッチ・吉田隆一（説明目次頁）

露出シート防水材：JISA6009



京都南清掃工場：ロンプルーフ防水

最新のハイテク設備を誇る清掃焼却工場の屋根も ロンプルーフががっちりガードしています。

新発売　塩化ビニル系シート防水

ベストプルーフHG®

断熱防水用・歩行用

ベストプルーフHGは最高品質のハイグレード塩化ビニルを主成分にガラスクロスを中間に積層した断熱防水に最適の防水シート。

好評発売中　塩化ビニル系シート防水材

歩行用 ロンプルーフ®

絶縁工法用 ベストプルーフ®

近年とみに増加している建物の改修工事。それに最適な防水工法がベストプルーフUS工法。下地処理が簡易で既存防水層の上から施工でき、工期の短縮ができます。しかも接着剤を使わず特殊な脱気工法の採用によって湿潤状態でも施工できます。絶縁工法は下地のムーブメントを緩衝し美しい仕上りを保証します。

西日本ロンプルーフ防水事業協同組合　大阪市淀川区西中島3-9-13 大北ビル ☎06(304)5155

ロンシール工業株式会社
大阪支店/大阪市淀川区西中島3—9—13 大北ビル7階
☎06(304)2700

●本　社〒101
東京都千代田区神田松永町13「川口ビル」☎03-253-4911㈹
■出張所/●名古屋☎052-935-7063㈹ ●金　沢☎0762-52-2215㈹
●岡　山☎086926-4321㈹ ●広　島☎082-249-3600㈹
●高　松☎0878-31-4177㈹ ●福　岡☎092-472-5857㈹
●鹿児島☎0992-58-6571㈹